昭和60年度　神戸市埋蔵文化財年報

1988

神戸市教育委員会

昭和60年度　神戸市埋蔵文化財年報

1988

神戸市教育委員会

序

本市における開発事業は、公共、民間とも衰えることなく、ますます多様化する傾向がみられます。とくに、市街地における再開発は増加しており、それに伴う新たな遺跡の発見も相次いでいます。このため、埋蔵文化財発掘調査は件数、規模ともに年々増大しており、今年度も２名の学芸員を増員し、教育委員会と㈶神戸市スポーツ教育公社が調査を担当するという体制で対処してまいりました。

本書は、昭和60年度に発掘調査した31遺跡の概要を記したものであり、祖先が残した遺産の記録です。発掘調査により新しい発見や多くの成果をおさめることができましたが、一方、これらのほとんどの遺跡は消え去ることになりました。今後とも、文化財の保護にいっそう努力してまいりますとともに、市民の皆様の御理解を賜りますようお願いいたします。

昭和63年３月

神戸市教育長　　山　本　治　郎

例　　言

1．本書は、神戸市教育委員会が昭和60年度に実施した埋蔵文化財事業の概要である。事業に関わる発掘調査は、神戸市文化財専門委員の指導を得て下記の調査組織によって行った。

調査関係者組織表　　神戸市文化財専門委員（埋蔵文化財部会委員）

野地脩左　　神戸大学名誉教授

小林行雄　　京都大学名誉教授

檀上重光　　神戸新聞社監査役　神戸市立博物館副館長

神戸市教育委員会事務局

教育長　山本治郎
社会教育部長　太田修治
文化財課長　増川修三
埋蔵文化財係長　奥田哲通
事務担当　学芸員　菅本宏明
〃　谷　正俊
調査担当　学芸員　西岡巧次
〃　渡辺伸行
〃　口野博史
〃　丹治康明
〃　黒田恭正
〃　西岡誠司
〃　山本雅和

㈶神戸市スポーツ教育公社

理事長　宮岡　寿雄
副理事長　山本　治郎
専務理事　米田　耕
常務理事　藤井　浩
総務部長　〃（事務取扱）
文化事業課長　津川　亨
文化事業係長　川崎　裕昭
文化事業係長　谷　浩
事務職員　高井さつき
調査担当　学芸員　宮本　郁雄
〃　丸山　潔
〃　千種　浩
〃　池野　素子
〃　安田　滋
〃　前田　佳久

なお、㈶神戸市スポーツ教育公社は昭和60年６月１日に神戸市健康教育公社を改組し、名称変更した。

2．本書に掲載した位置図は、神戸市立中学校教育研究会社会科研究部編集の５万分の１神戸市全図を使用した。

3．本書は、埋蔵文化財発掘調査一覧表に示した各調査担当者が執筆して作成した。

なお、Ⅲの市内出土赤色顔料の分析・材質鑑定については、武庫川女子大学薬学部　安田博幸教授、井村由美助手からご寄稿いただいた。

4．表紙写真は、神出・東遺跡出土（表）、宅原遺跡（岡下地区）出土（裏）の青磁碗である。

目　　次

序
例　言
Ⅰ．昭和60年度事業概要……1
昭和60年度埋蔵文化財発掘調査一覧表……4
昭和60年度神戸市埋蔵文化財調査地位置図……8
Ⅱ．昭和60年度の発掘調査……15
1．西神ニュータウン内遺跡……15
西神第55地点遺跡……15
西神第90地点遺跡……25
栃木遺跡……29
久留主谷遺跡……35
2．新方遺跡（東方地点）－第3次調査－……39
3．神出・追ノ谷遺跡……47
4．神出・東遺跡……51
5．如意寺塔頭址……61
6．長坂遺跡……65
7．前開遺跡……71
8．舞子古墳群毘沙門2号墳……76
9．五色塚古墳……80
10．敦盛塚……91
11．楠・荒田町遺跡……99
12．三川口町遺跡……105
13．西求女塚古墳……111
14．郡家遺跡（城の前地区）……117
15．郡家遺跡（岸本地区）……133
16．住吉宮町遺跡－第1次調査－……143
17．住吉宮町遺跡－第2次調査－……152
18．住吉宮町遺跡－第3次調査－……165
19．森北町遺跡……169
20．本山町東山遺跡－第3次調査－……178
21．山田・中遺跡……182
22．上津遺跡……189

23. 北神ニュータウン内遺跡……197
第4地点遺跡……197
第5地点遺跡……204
第9地点遺跡……212
第15地点遺跡……221
第53地点遺跡……223
24. 宅原遺跡（岡下地区）……225
25. 宅原遺跡（岡下地区）……238
26. 塩田遺跡……247
27. 平田遺跡……251
Ⅲ. 神戸市域内出土の赤色顔料14試料の化学分析による材質鑑定(安田博幸　井村由美)・259

挿　図　目　次

fig. 1　六甲北の文化財展〔写真〕……1
fig. 2　第55地点遺跡全景〔写真〕……15
fie. 3　第55地点遺跡トレンチ配置図……16
fie. 4　A地区全景(西から)〔写真〕……17
fig. 5　土壙　〔写真〕……17
fig. 6　A地区遺構平面図……17
fig. 7　西神第55地点遺跡B地区平面図……18
fig. 8　2号墳埋葬施設平面・断面図……19
fig. 9　B地区出土遺物実測図……20
fig. 10　1・2号墳全景〔写真〕……21
fig. 11　2号墳埋葬施設〔写真〕……21
fig. 12　同・遺物出土状況〔写真〕……21
fig. 13　3号墳全景〔写真〕……22
fig. 14　C地区出土遺物実測図……22
fig. 15　西神第55地点遺跡C地区平面図……23
fig. 16　第90地点調査地位置図……25
fig. 17　ST01平面・断面図……26
fig. 18　調査地平面図……26
fig. 19　調査地全景(北から)〔写真〕……27
fig. 20　調査地全景(西から)〔写真〕……27
fig. 21　ST01(北から)〔写真〕……27
fig. 22　出土須恵器実測図……28
fig. 23　調査地位置図……29
fig. 24　遺構平面図……30
fig. 25　調査地全景(南から)〔写真〕……31
fig. 26　SX01(北から)〔写真〕……32
fig. 27　SX02(南から)〔写真〕……32
fig. 28　旧河道(西から)〔写真〕……32
fig. 29　SX02遺物出土状況(北から)〔写真〕32
fig. 30　SX02出土遺物実測図……33
fig. 31　旧河川内出土遺物実測図……34
fig. 32　調査地位置図……35
fig. 33　調査地平面図……36
fig. 34　SB01(西から)〔写真〕……36
fig. 35　SB01および遺物出土状況図……37
fig. 36　SB01出土弥生土器実測図……38
fig. 37　調査地位置図……39
fig. 38　河道全景(西から)〔写真〕……39
fig. 39　調査地平面図……40
fig. 40　河道内壺出土状況〔写真〕……41
fig. 41　河道内甕出土状況〔写真〕……41
fig. 42　河道1遺物出土状況平面図……42
fig. 43　綜棒出土状況〔写真〕……43
fig. 44　緯打具出土状況〔写真〕……43
fig. 45　木製鉢出土状況〔写真〕……43
fig. 46　刀形木製品出土状況〔写真〕……44
fig. 47　又鍬出土状況〔写真〕……44
fig. 48　河道2遺物出土状況平面図……44
fig. 49　河道内出土遺物実測図……45
fig. 50　広鍬出土状況〔写真〕……46
fig. 51　鋤出土状況〔写真〕……46
fig. 52　調査地位置図……47
fig. 53　SD01断面図……47
fig. 54　遺構平面図……48
fig. 55　SD01・包含層出土遺物……49
fig. 56　SD01出土軒瓦拓影……50
fig. 57　1トレンチ全景(西から)〔写真〕……50
fig. 58　調査トレンチ位置図……51

fig. 59　各トレンチ遺構平面図……52
fig. 60　11トレンチ全景(北から)〔写真〕……53
fig. 61　13トレンチ全景(西から)〔写真〕……53
fig. 62　ＳＤ07出土遺物実測図……54
fig. 63　18トレンチ全景(東から)〔写真〕……54
fig. 64　19トレンチ全景(東から)〔写真〕……54
fig. 65　ＳＴ01(東から)〔写真〕……55
fig. 66　同(南から)〔写真〕……55
fig. 67　同・漆製品出土状況〔写真〕……55
fig. 68　発泡ウレタンによるＳＴ01切り取り作業〔写真〕……56
fig. 69　同〔写真〕……56
fig. 70　同〔写真〕……56
fig. 71　ＳＴ01平面・断面・立面図……57
fig. 72　ＳＸ03出土遺物実測図……58
fig. 73　ＳＸ04平面・断面図……58
fig. 74　ＳＸ04検出状況〔写真〕……59
fig. 75　試掘坑１ＳＸ04出土遺物実測図……59
fig. 76　ＳＴ01出土遺物実測図……60
fig. 77　青磁碗〔写真〕……60
fig. 78　須恵器埦〔写真〕……60
fig. 79　テストピット位置図……61
fig. 80　Ｔ．Ｐ４平面図……62
fig. 81　Ｔ．Ｐ７平面図……62
fig. 82　Ｔ．Ｐ13平面図……63
fig. 83　Ｔ．Ｐ15平面図……63
fig. 84　Ｔ．Ｐ４(北から)〔写真〕……63
fig. 85　Ｔ．Ｐ13カマド状遺構〔写真〕……63
fig. 86　如意寺塔頭址出土遺物……64
fig. 87　調査地位置図……65
fig. 88　２トレンチ全景(東から)〔写真〕……66
fig. 89　２トレンチ古墳時代遺物出土状況〔写真〕……66
fig. 90　２トレンチ鎌倉時代石組溝〔写真〕…66
fig. 91　第２トレンチ平面図……67
fig. 92　ＳＢ01〔写真〕……67
fig. 93　第３トレンチ平面図……68
fig. 94　第３トレンチ調査地中央部平面図…69
fig. 95　第３トレンチ中央部〔写真〕……70
fig. 96　ＳＫ01〔写真〕……70
fig. 97　トレンチ位置図……71
fig. 98　１トレンチ全景〔写真〕……72
fig. 99　１トレンチ遺構平面図……72
fig.100　３トレンチ全景〔写真〕……73
fig.101　４トレンチ全景〔写真〕……73
fig.102　４トレンチ拡張区遺構平面図……74
fig.103　ＳＫ01・ＳＫ02遺構平面図……74
fig.104　Ｔ．Ｐ．No.38(ＳＫ02)〔写真〕……75
fig.105　舞子古墳群位置図……76
fig.106　調査区平面図……77
fig.107　石室検出状況(南から)〔写真〕……77
fig.108　掘形内石室撤去後〔写真〕……77
fig.109　横穴式石室平面図……78
fig.110　石室内須恵器出土状況〔写真〕……78
fig.111　石室内鉄器出土状況〔写真〕……78
fig.112　古墳出土遺物実測図……79
fig.113　ナイフ型石器実測図……79
fig.114　調査位置および五色塚古墳周溝位置図‥80
fig.115　トレンチ位置図……81
fig.116　調査地遠景(西から)〔写真〕……82
fig.117　五色塚古墳周溝(南から)〔写真〕……82
fig.118　No. 11トレンチ平面図……83
fig.119　五色塚古墳周溝(北から)〔写真〕……83
fig.120　周溝内埴輪出土状況〔写真〕……83
fig.121　No. 13トレンチ平面図……84
fig.122　No. ５トレンチ平面図……84
fig.123　No. ５トレンチ溝状遺構〔写真〕……84
fig.124　土壙墓平面図……85
fig.125　１トレンチ・２トレンチ平面図……86
fig.126　３トレンチ・８トレンチ平面図……87
fig.127　４トレンチ・９トレンチ平面図……88
fig.128　３トレンチ南半(北から)〔写真〕……89
fig.129　４トレンチ〔写真〕……89
fig.130　ＳＴ04(南から)〔写真〕……89
fig.131　ＳＴ07(南から)〔写真〕……89
fig.132　２トレンチ甕出土状況〔写真〕……89
fig.133　ＳＴ06(南から)〔写真〕……89
fig.134　出土埴輪片〔写真〕……90
fig.135　調査地位置図……91
fig.136　調査前現況〔写真〕……92
fig.137　敦盛塚立面図(写真測量)……93
fig.138　調査地平面図……94
fig.139　地輪検出状況〔写真〕……94
fig.140　地輪・台座平面断面図……95
fig.141　地輪・台座検出状況〔写真〕……96
fig.142　台座検出状況〔写真〕……96
fig.143　水輪上面遺物出土状況〔写真〕……97
fig.144　木札〔写真〕……97
fig.145　復元完成後現況〔写真〕……98
fig.146　調査地位置図……99
fig.147　貯蔵穴(ＳＫ01～04)〔写真〕……100
fig.148　調査地遺構平面図……100
fig.149　ＳＫ02出土土器実測図……101
fig.150　ＳＫ04出土土器実測図……102

fig.151　出土土器拓影……103
fig.152　ＳＫ06出土土器実測図……103
fig.153　貯蔵穴出土石器実測図……104
fig.154　調査地位置図……105
fig.155　遺構全体平面図……106
fig.156　縄文土器実測図……107
fig.157　弥生土器実測図……107
fig.158　中世遺物実測図……108
fig.159　中世遺物実測図……109
fig.160　13～14区全景〔写真〕……109
fig.161　15～16区全景〔写真〕……109
fig.162　銭貨拓影……110
fig.163　木簡・下駄実測図……110
fig.164　調査地位置図……111
fig.165　トレンチ位置図……112
fig.166　古墳全景〔写真〕……113
fig.167　１トレンチa区埋葬施設（西から）〔写真〕……113
fig.168　埋葬施設被覆粘土と礫群〔写真〕……113
fig.169　第１トレンチa区断面および平面模式図……114
fig.170　２トレンチa区後円部墳丘盛土〔写真〕……115
fig.171　３トレンチa区後円部墳丘盛土〔写真〕……115
fig.172　出土土器実測図……116
fig.173　銅鏡片（第１トレンチa地区出土）〔写真〕……116
fig.174　調査地位置図……117
fig.175　第１遺構面平面図……118
fig.176　ＳＴ01実測図……119
fig.177　第２遺構面平面図……119
fig.178　第１遺構面ＳＢ01・02（北から）〔写真〕……120
fig.179　第２遺構面全景（北から）〔写真〕120
fig.180　第２遺構面全景（南から）〔写真〕120
fig.181　ＳＴ01（東から）〔写真〕……120
fig.182　調査地遺構平面図……121
fig.183　調査地全景（西から）〔写真〕……122
fig.184　ＳＢ13（東から）〔写真〕……122
fig.185　ＳＢ15〔写真〕……123
fig.186　ＳＢ15遺物出土状況〔写真〕……123
fig.187　調査地遺構平面図……124
fig.188　ＳＢ15出土土器実測図……125
fig.189　竪穴住居址出土遺物・ＳＢ04遺構実測図……126
fig.190　滑石製有孔円盤……127
fig.191　ＳＴ01実測図……127
fig.192　ＳＴ02実測図……127
fig.193　調査地全景（東から）〔写真〕……128
fig.194　ＳＢ04（西から）〔写真〕……128
fig.195　ＳＢ02（北西から）〔写真〕……128
fig.196　ＳＴ02（西から）〔写真〕……128
fig.197　ＳＢ01・11・16ＳＫ01（西から）〔写真〕……128
fig.198　ＳＴ01（北から）〔写真〕……128
fig.199　調査地遺構平面図……129
fig.200　調査地全景（南から）〔写真〕……130
fig.201　ＳＢ02・ＳＸ02（西から）〔写真〕……130
fig.202　第16次調査地全景（北から）〔写真〕・131
fig.203　ＳＢ01・02（北から）〔写真〕……131
fig.204　鎌倉時代溝（東から）〔写真〕……131
fig.205　第16次調査地遺構平面図……131
fig.206　調査地位置図……133
fig.207　調査地遺構平面図……133
fig.208　ＳＸ01・ＳＫ01平面・立面図……134
fig.209　ＳＫ01（手前）・ＳＸ01〔写真〕……134
fig.210　ＳＫ01石組み〔写真〕……134
fig.211　ＳＤ04出土土器実測図……136
fig.212　ＳＸ02出土土器実測図……137
fig.213　ＳＤ01下層出土遺物……138
fig.214　ＳＤ01遺物出土状況〔写真〕……138
fig.215　ＳＢ01出土土器実測図……139
fig.216　ＳＫ02〔写真〕……140
fig.217　ＳＫ05〔写真〕……140
fig.218　ＳＢ01〔写真〕……140
fig.219　ＳＤ01銀環出土状況〔写真〕……141
fig.220　出土遺物実測図……141
fig.221　調査地全景（南から）〔写真〕……142
fig.222　調査地位置図……143
fig.223　遺構全体図……144
fig.224　調査地全景（東から）〔写真〕……144
fig.225　１号墳平面図……145
fig.226　１号墳葺石検出状況〔写真〕……145
fig.227　２号墳（北から）〔写真〕……146
fig.228　２号・11号墳平面図……146
fig.229　遺構全体図……147
fig.230　ＳＫ07平面図……148
fig.231　ＳＫ07〔写真〕……148
fig.232　黒褐色粘質土層出土遺物……149
fig.233　鉄刀出土状況〔写真〕……149
fig.234　出土遺物実測図……150
fig.235　飯蛸壺形土器出土状況〔写真〕……151
fig.236　調査地位置図……152

fig.237　調査地区設定図……152
fig.238　ＳＫ01〔写真〕……153
fig.239　ＳＸ01〔写真〕……153
fig.240　Ⅰ期遺構配置図……153
fig.241　ＳＫ02（Ⅰ期）出土遺物……154
fig.242　Ⅰ期出土遺物……155
fig.243　Ⅱ期古墳位置図……156
fig.244　４号墳須恵器出土状況……157
fig.245　３号墳平面・立面図……157
fig.246　３号墳〔写真〕……158
fig.247　３号墳円筒埴輪実測図……158
fig.248　７号墳埋葬施設〔写真〕……159
fig.249　８号墳墳頂須恵器出土状況〔写真〕・159
fig.250　８号墳墳頂出土須恵器……159
fig.251　９号墳（北から）〔写真〕……160
fig.252　９号墳石棺（北から）〔写真〕……160
fig.253　９号墳石棺（東から）〔写真〕……160
fig.254　８号墳（東から）〔写真〕……161
fig.255　10号墳（南から）〔写真〕……161
fig.256　Ⅱ期古墳位置図（１次・２次全体図）……161
fig.257　１区Ⅲ期遺構〔写真〕……162
fig.258　５区Ⅲ期遺構〔写真〕……162
fig.259　Ⅲ期出土遺物……162
fig.260　Ⅲ期遺構配置図……163
fig.261　７号・８号墳出土遺物〔写真〕……164
fig.262　３号墳出土埴輪〔写真〕……164
fig.263　調査地位置図……165
fig.264　調査地全景（西から）〔写真〕……166
fig.265　ＳＤ03検出状況〔写真〕……166
fig.266　調査地遺構平面図……166
fig.267　ＳＤ03平面・断面・立面図　被覆石除去後平面図……167
fig.268　出土土器実測図……168
fig.269　調査地位置図……169
fig.270　調査地遺構平面図……170
fig.271　住居址平面図……171
fig.272　ＳＢ02および包含層出土土器実測図…171
fig.273　前漢鏡片〔写真と図〕……172
fig.274　調査地全景〔写真〕……172
fig.275　竪穴住居址〔写真〕……172
fig.276　流路内遺物出土状況〔写真〕……173
fig.277　自然流路出土遺物……173
fig.278　自然流路出土遺物……174
fig.279　ＳＸ02出土遺物……175
fig.280　ＳＸ02出土遺物……176
fig.281　ＳＸ02土器溜り〔写真〕……177
fig.282　ＳＸ02土器出土状況図……177
fig.283　自然流路・ＳＸ02出土土器〔写真〕177
fig.284　韓式系土器（自然流路）……177
fig.285　調査トレンチ位置図……178
fig.286　土器棺出土状況〔写真〕……179
fig.287　土器棺取り上げ後〔写真〕……179
fig.288　土器棺墓平面および断面図……179
fig.289　住居址ＳＢ01平面および断面図…180
fig.290　ＳＫ02平面図……180
fig.291　ＳＫ02（Ｋライン）〔写真〕……181
fig.292　ＳＢ01（ＬラインNo. 57～58）〔写真〕……181
fig.293　調査地位置図……182
fig.294　各トレンチ遺構平面図……183
fig.295　Ａトレンチ全景（東から）〔写真〕…184
fig.296　Ｄトレンチ溝４内土器出土状況〔写真〕……184
fig.297　Ｅトレンチ東〔写真〕……185
fig.298　Ｅトレンチ柱列２〔写真〕……185
fig.299　Ｆトレンチ東〔写真〕……186
fig.300　Ｆトレンチ西〔写真〕……186
fig.301　Ｆトレンチ住居址平面図……187
fig.302　Ｆトレンチ土器出土状況〔写真〕…187
fig.303　Ｆトレンチ住居址〔写真〕……187
fig.304　Ｇトレンチ全景〔写真〕……188
fig.305　調査地位置図……189
fig.306　Ａ地区建物址（ＳＢ01）平面図……190
fig.307　Ａトレンチ平面図……191
fig.308　Ａ地区（東から）〔写真〕……192
fig.309　Ａ地区ＳＢ01〔写真〕……192
fig.310　Ｂ地区〔写真〕……192
fig.311　Ｂ地区遺構検出状況〔写真〕……192
fig.312　Ｂ地区平面図……193
fig.313　Ｄ地区平面図……194
fig.314　Ｅ地区（東から）〔写真〕……195
fig.315　Ｃ地区（西から）〔写真〕……195
fig.316　Ｃ地区（東から）〔写真〕……195
fig.317　Ｄ地区（西から）〔写真〕……196
fig.318　Ｄ地区（東から）〔写真〕……196
fig.319　出土遺物実測図……196
fig.320　第４地点遺跡調査地位置図……197
fig.321　Ⅱ-15～22地区全景（北から）〔写真〕……198
fig.322　段状遺構〔写真〕……198
fig.323　段状遺構実測図……198
fig.324　掘立柱建物平面図……199
fig.325　掘立柱建物（北から）〔写真〕……199

fig.326 Ⅱ-15～22出土土器実測図……200
fig.327 Ⅰ-06～13地区(南から)〔写真〕……200
fig.328 ＳＢ04実測図……201
fig.329 ＳＢ05実測図……201
fig.330 ＳＢ05と土坑〔写真〕……202
fig.331 ＳＢ04〔写真〕……202
fig.332 Ⅰ-06～13出土土器実測図……203
fig.333 調査地位置図……204
fig.334 調査地全景(東から)〔写真〕……205
fig.335 調査地全景(北から)〔写真〕……205
fig.336 縦割り矢穴〔写真〕……206
fig.337 横割り矢穴〔写真〕……206
fig.338 横割り矢鉄出土状況〔写真〕……207
fig.339 横割り矢鉄出土状況〔写真〕……207
fig.340 矢鉄実測図……208
fig.341 矢鉄・ノミ・蹄鉄実測図……209
fig.342 縦割り矢鉄出土状況〔写真〕……211
fig.343 同上(片面石材除去後)……211
fig.344 調査地位置図……212
fig.345 調査地全景〔写真〕……212
fig.346 １号墳・２号墳墳丘測量図……213
fig.347 １号墳主体部〔写真〕……214
fig.348 ２号墳東主体部〔写真〕……215
fig.349 ２号墳中央・西主体部〔写真〕……215
fig.350 ２号墳埋葬施設と出土遺物……216
fig.351 東主体須恵器出土状況〔写真〕……218
fig.352 東主体排水溝内鉄剣出土状況〔写真〕……218
fig.353 ３号経塚検出状況〔写真〕……219
fig.354 同瓦蓋除去後〔写真〕……219
fig.355 同礫石経除去後〔写真〕……219
fig.356 一字一石経〔写真〕……219
fig.357 調査地位置図……221
fig.358 調査地全景〔写真〕……221
fig.359 埋葬施設〔写真〕……222
fig.360 埋葬施設〔写真〕……222
fig.361 調査地位置図……223
fig.362 第53地点全景(西から)〔写真〕……223
fig.363 縦割り矢穴〔写真〕……224
fig.364 縦割り矢穴〔写真〕……224
fig.365 調査地位置図……225
fig.366 調査地全景(南から)〔写真〕……226
fig.367 ＳＫ01〔写真〕……226
fig.368 大溝(南から)〔写真〕……226
fig.369 調査地遺構平面図……226
fig.370 大溝断面土層堆積状況〔写真〕……228
fig.371 大溝下層土器群Ａ出土状況実測図・228
fig.372 大溝内遺物出土状況(北から)〔写真〕……229
fig.373 大溝下層土器群Ａ出土状況〔写真〕・229
fig.374 河道１(西から)〔写真〕……230
fig.375 河道１出土遺物実測図……230
fig.376 ＳＢ01・ＳＤ01平面図……231
fig.377 ＳＢ02平面図……232
fig.378 ＳＢ01・ＳＤ01(東から)〔写真〕……233
fig.379 ＳＢ02(南から)〔写真〕……233
fig.380 ＳＫ03とピット群〔写真〕……234
fig.381 大溝・河道１出土土器〔写真〕……235
fig.382 大溝内下層出土土器実測図……236
fig.383 墨書土器「評」実測図……237
fig.384 調査地位置図……238
fig.385 Ⅰ-２区・Ⅱトレンチ出土遺物……239
fig.386 Ⅰトレンチ４区(北から)〔写真〕……240
fig.387 Ⅶトレンチ(東から)〔写真〕……240
fig.388 Ａ地区平面図……241
fig.389 Ａ地区出土遺物実測図……241
fig.390 Ｂ地区(南から)〔写真〕……242
fig.391 Ｂ地区平面図……242
fig.392 Ｂ地区出土遺物……242
fig.393 Ｃ地区(東から)〔写真〕……243
fig.394 Ｃ地区平面図……243
fig.395 ＳＴ01〔写真〕……244
fig.396 ＳＴ02〔写真〕……244
fig.397 ＳＴ01平面・断面図……245
fig.398 ＳＴ02平面・断面図……245
fig.399 ＳＴ01出土遺物実測図……245
fig.400 調査地位置図……247
fig.401 試掘坑No.７遺物出土状況〔写真〕‥248
fig.402 試掘坑No.７出土土器実測図……248
fig.403 住居址平面図……249
fig.404 ＳＢ01〔写真〕……250
fig.405 ＳＢ02〔写真〕……250
fig.406 トレンチ位置図……251
fig.407 １トレンチ平面図……253
fig.408 １トレンチ全景(南から)〔写真〕……254
fig.409 ＳＫ02および柱穴群〔写真〕……254
fig.410 ＳＤ03および柱穴群〔写真〕……254
fig.411 ＳＫ01～04平面図……255
fig.412 ３トレンチ集石遺構〔写真〕……256
fig.413 集石遺構下土坑検出状況〔写真〕……256
fig.414 ３トレンチ遺構平面図……256
fig.415 出土土器実測図……257
fig.416 ３トレンチＳＫ02竹製品出土状況〔写真〕……258

Ⅰ．昭和60年度事業概要

1．普及啓発事業

史跡五色塚古墳の公開と大歳山遺跡公園の復元住居の公開

史跡五色塚古墳（垂水区五色山２丁目）は、復元整備された前方後円墳として、年間を通じ、無料公開されており、昭和60年度の見学者は、団体22,317名、個人18,548名、合計40,865名であった。

また、大歳山遺跡公園（垂水区西舞子４丁目）では、例年文化財保護強調月間の催しの一環として、11月１日から７日まで、復元住居の内部公開とともに、火おこし、機織り、脱穀などを、見学者に参加してもらい、古代人の生活の一部を、実際に体験することを行った。

「地下に眠る神戸の歴史展Ⅲ」の開催

年々増加する市内発見の出土資料を、市民の方々に広く知っていただくために、昨年に引き続き「地下に眠る神戸の歴史展Ⅲ」と題する特別展示を11月１日から11月30日まで旧考古館（須磨区離宮公園内所在、市立考古館は、昭和57年、市立博物館開館により廃止）で行った。

今回は、土器や石材等によって、弥生時代における、他地域との交流の様子を知るために、市内および各地出土の遺物を比較した。また、市内発見の遺跡の出土遺物を展示した。

「市内の埴輪展」の開催

今年度は、史跡五色塚古墳復元整備10周年を迎え、その記念行事として五色塚古墳管理事務所において、11月１日から11月30日までの間、「市内の埴輪展」を開催し、市内の９遺跡から出土した埴輪を展示した。

「六甲北の文化財展」の開催

六甲北グリーンフェア開催を機会に、昭和60年９月４日から昭和60年11月４日の期間で、北区藤原台において、「六甲北の文化財展」を開催し、弥生時代の生活復元や六甲北地区の遺物を展示した。

「今津遺跡展」の開催

西区玉津南公民館において、昭和60年９月28日から昭和60年10月９日まで「今津遺跡出土の文化財展」と題し、今津遺跡を中心に、玉津町内の遺跡で出土した弥生時代から古墳時代にかけての遺物を展示し、地域の歴史を地元の人々に知っていただくことができた。

fig. 1　六甲北の文化財展

現地説明会の開催

発掘調査の成果を市民の方々に広く公開するために、現地説明会を下記の通り開催し、多数の見学者の参加を得た。

番号	遺　跡　名	説明年月日
1	舞子古墳群毘沙門２号墳	昭和60年５月３日
2	住吉宮町遺跡	昭和60年９月８日
3	楠・荒田町遺跡	昭和60年９月29日
4	郡家遺跡（城の前地区）	昭和60年11月10日
5	西神ニュータウン内55地点遺跡	昭和60年12月15日
6	森北町遺跡	昭和60年２月９日

刊行物

昭和60年度の埋蔵文化財関係の刊行物は以下の３点である。

１．昭和58年度神戸市埋蔵文化財年報　　頒価1,000円
２．昭和59年度遺跡現地説明会資料集　　頒価　600円
３．神戸市文化財分布図（改訂版）　　頒価1,200円

２．文化財調査事業

当市における埋蔵文化財の調査件数は、年毎に増加している。

昭和60年度における、分布調査依頼書の提出件数は277件であり、前年比でプラス１件となり、ほぼ横バイ傾向にある。

また、それに基づき、試掘調査を実施したものは、107件にのぼり、昨年度に比べて４件の増加となっている。

これを地域別に見ると、市街地の試掘調査が約７割を占める。

昭和60年度埋蔵文化財試掘調査件数

地区	件数	備　考
市街地東部	50	東灘区、灘区、中央区
市街地西部	27	兵庫区、長田区、須磨区、垂水区
西　区	21	
北　区	9	
合　計	107	

緊急発掘調査は、市街地23件、西区17件、北区９件の合計49件となる。

このうち、兵庫県教育委員会ならびに妙見山麓遺跡調査会が行った８件以外は、神戸市および財団法人神戸市スポーツ教育公社（昭和60年６月、神戸市健康教育公社を改称）が調査を実施した。

調査原因の事業別件数では、民間事業13件、公共事業36件で、公共事業が７割を占めている。公共事業の内容は、ニュータウン建設、道路建設、土地区画整理事業、圃場整備、公立学校、公営住宅建設等である。民間事

業では、市街地のマンション建設、宅地造成等が大半を占める。

上記の緊急発掘調査に要した経費は3億8千7百万円であった。

これらのうち、一部現状保存となったものは6件、その他は記録保存となっている。また、現地保存が不可能なもののうち、会下山二本松古墳（昭和59年度調査）墳丘、平田遺跡出土笠状製品、神出・東遺跡出土木棺墓の3件については、切り取り保存を行った。

3．市内遺跡発掘調査の概要

楠・荒田町遺跡では、53年度調査と同様の弥生時代前期末から中期初頭の貯蔵穴が16基、今回の調査でも確認された。

新方遺跡（東方地点）では、昨年度調査で確認された弥生時代中期の旧河川内から、土器、多量の木製品が出土した。

弥生時代

また、西神ニュータウン内遺跡では、尾根の頂部に単独で存在する弥生時代中期の住居址が確認され、付近の丘陵上に位置する集落址相互の関係を考える上で重要な手掛かりを提供した。

古墳時代

西求女塚古墳は、以前に公園として整備が行われ、旧状が改変されているが、本来の規模、形態を確認するための試掘調査を実施した。その結果、青銅鏡片や鼓形器台が出土し、当古墳築造の年代を知る参考となった。

住吉宮町遺跡では、開発の進んだ市街地から、古墳時代後期の小規模な方墳が確認され、当時の葬制を考える上で貴重な資料を提示した。

森北町遺跡では、古墳時代中期の旧河川、竪穴住居址の他に、遺物包含層中から、市内で初めて前漢鏡が出土した。

奈良時代以降

三川口町遺跡では、旧河川内より、弥生時代から室町時代の土器、木製品等が多量に出土した。これによって、今まで実体が明らかでなかった大輪田泊に関する一つの資料を提示したといえる。

また、解体復元作業に伴い、調査が行われた敦盛塚では、寛永通宝等の銅銭や、木札が発見され、当時の信仰の形態を知る貴重な資料となった。

史跡五色塚古墳に隣接する舞子病院跡地内では、試掘調査により、五色塚古墳の周溝を確認した他に、近世の墳墓群を発見した。これにより、必ずしも明確でなかった近世の葬法、葬制を知る重要な手掛かりとなった。

4．その他

新修神戸市史編纂への協力

昭和58年度より、「新修神戸市史　原始・古代編」について、市史編纂室より委託を受けて、旧石器・縄文・弥生・古墳の各時代別の班を作り分布調査、測量、遺物の図化等を行った。

昭和60年度　埋蔵文化財発掘調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	事業名	調査主体	調査面積
1	西神ニュータウン内遺跡	西区平野町、押部谷町、櫨谷町、伊川谷町	ニュータウン建設	(財)神戸市スポーツ教育公社	12,291㎡
2	新方遺跡東方地点第3次	西区玉津町新方	都市計画道路建設	神戸市教育委員会	292㎡
3	神出・追ノ谷遺跡	西区神出町東追ノ谷	住宅建設	〃	150㎡
4	神出・東遺跡	西区神出町東	県営圃場整備事業	〃	1,200㎡
5	如意寺塔頭址	西区櫨谷町栃木	団体営圃場整備事業	〃	420㎡
6	長坂遺跡	西区伊川谷町長坂	〃	〃	992㎡
7	前開遺跡	西区伊川谷町前開	県営圃場整備事業	〃	1,016㎡
8	舞子古墳群毘沙門2号墳	垂水区舞子坂3丁目	住宅建設	〃	550㎡
9	五色塚古墳	垂水区五色山3丁目	確認調査	〃	970㎡
10	敦盛塚	須磨区一ノ谷町	復元整備	〃	30㎡
11	楠・荒田町遺跡	兵庫区西上橘通	住宅建設	〃	500㎡
12	三川口町遺跡	兵庫区三川口町	〃	〃	300㎡
13	西求女塚古墳	灘区都通	確認調査	〃	60㎡
14	郡家遺跡（城の前地区）	東灘区御影町郡家	都市計画道路建設	(財)神戸市スポーツ教育公社	1,448㎡
15	郡家遺跡（岸本地区）	東灘区御影町御影	住宅建設	神戸市教育委員会	400㎡
16	住吉宮町遺跡第1次	東灘区住吉宮町7丁目	〃	〃	500㎡
17	住吉宮町遺跡第2次	東灘区住吉宮町7丁目	〃	〃	250㎡
18	住吉宮町遺跡第3次	東灘区住吉宮町3丁目	〃	〃	440㎡
19	森北町遺跡	東灘区森北町	〃	〃	500㎡
20	本山町東山遺跡	東灘区本山町	宅地造成	〃	2,300㎡
21	山田・中遺跡	北区山田町中	道路建設	〃	830㎡
22	上津遺跡	北区長尾町上津	道路拡幅工事	〃	850㎡
23	北神ニュータウン内遺跡	北区長尾町、道場町	ニュータウン建設	(財)神戸市スポーツ教育公社	10,690㎡
24	宅原遺跡（岡下地区）	北区長尾町宅原	道路建設	神戸市教育委員会	4,500㎡
25	宅原遺跡（岡下地区）	北区長尾町宅原	県営圃場整備事業	〃	3,580㎡

調　査　期　間	調査担当者	調　　査　　内　　容	備　　考
60. 4. 1～61. 2.21	千種　　浩 安田　　滋	No. 55地点・No. 90地点、古墳　久留主谷、弥生時代住居址　栃木、弥生～中世	12/15 No. 55現説
60. 8.11～60.10. 9	渡辺　伸行	弥生時代中期　溝 弥生土器、木製品、植物遺体	
61. 1.13～61. 1.21	菅本　口野 前田	中世遺物包含層、溝	
60. 5.13～61. 2. 6	渡辺　伸行 山本　雅和	鎌倉時代　溝、木棺墓	
61. 2.25～61. 3.12	安田　　滋	試掘調査	
60. 6.14～60.8.31	丹治　康明	古墳時代竪穴住居址	
60.11.25～61. 3. 4	口野　博史	試掘調査	
60. 4. 8～60. 5.14	丹治　康明	横穴式石室古墳　1基 弥生時代後期遺構	5/3現説
60.12.16～62. 2.15	渡辺　伸行	試掘調査 五色塚古墳周溝、江戸時代墓地	
60. 4.10～60.10.25	西岡　誠司	五輪塔解体復元 銅銭、木札	
60. 8.20～60. 9.30	丹治　康明	弥生時代貯蔵穴16基	9/29現説
60.11.16～60.12.16	黒田　恭正 山本　雅和	弥生時代～中世遺物包含層	
61. 3.12～61. 3.28	渡辺　伸行 千種　　浩	試掘調査　鏡片	
60. 7. 1～61. 2.14	宮本　郁雄 池野　素子	古墳時代集落址　他	11/10現説
60. 6. 5～60. 7.29	口野　博史	古墳時代～中世遺物包含層 土坑、ピット	
60. 6.14～60. 9. 4	西岡　誠司 山本　雅和	弥生～古墳時代遺物包含層 古墳（方墳）11基以上、中世土坑	
60. 8.19～60.10. 9	山本　雅和	弥生～古墳時代遺物包含層 古墳（方墳）11基以上、中世土坑	16と同一遺跡 9/8現説
60.12.13～61. 1.10	口野　博史	古墳時代・中世の溝等	
60.12. 9～61. 2.10	黒田　恭正	古墳時代住居址、溝 前漢鏡	2/9現説
60. 4. 8～60. 6. 4	宮本　郁雄	試掘調査　弥生時代中期住居址4棟、土器棺墓1基	
60. 1.20～61. 3. 8	西岡　巧次	古墳時代遺物包含層 竪穴住居址	
60.12.16～61. 1.27	西岡　誠司	中世遺物包含層 掘立柱建物址	
60. 4.17～61. 1. 2	丸山　　潔 前田　佳久	No. 5・53地点 石材採掘址 No. 4地点弥生時代集落址 No. 9 古墳 No. 15 古墓	
60.10.21～61. 1.30	丹治　康明 西岡　誠司	鎌倉時代掘立柱建物址 奈良時代溝	
60. 6.10～61. 2.24	黒田　恭正 前田　佳久	古墳時代～鎌倉時代遺物包含層 掘立柱建物址、木棺墓2基	

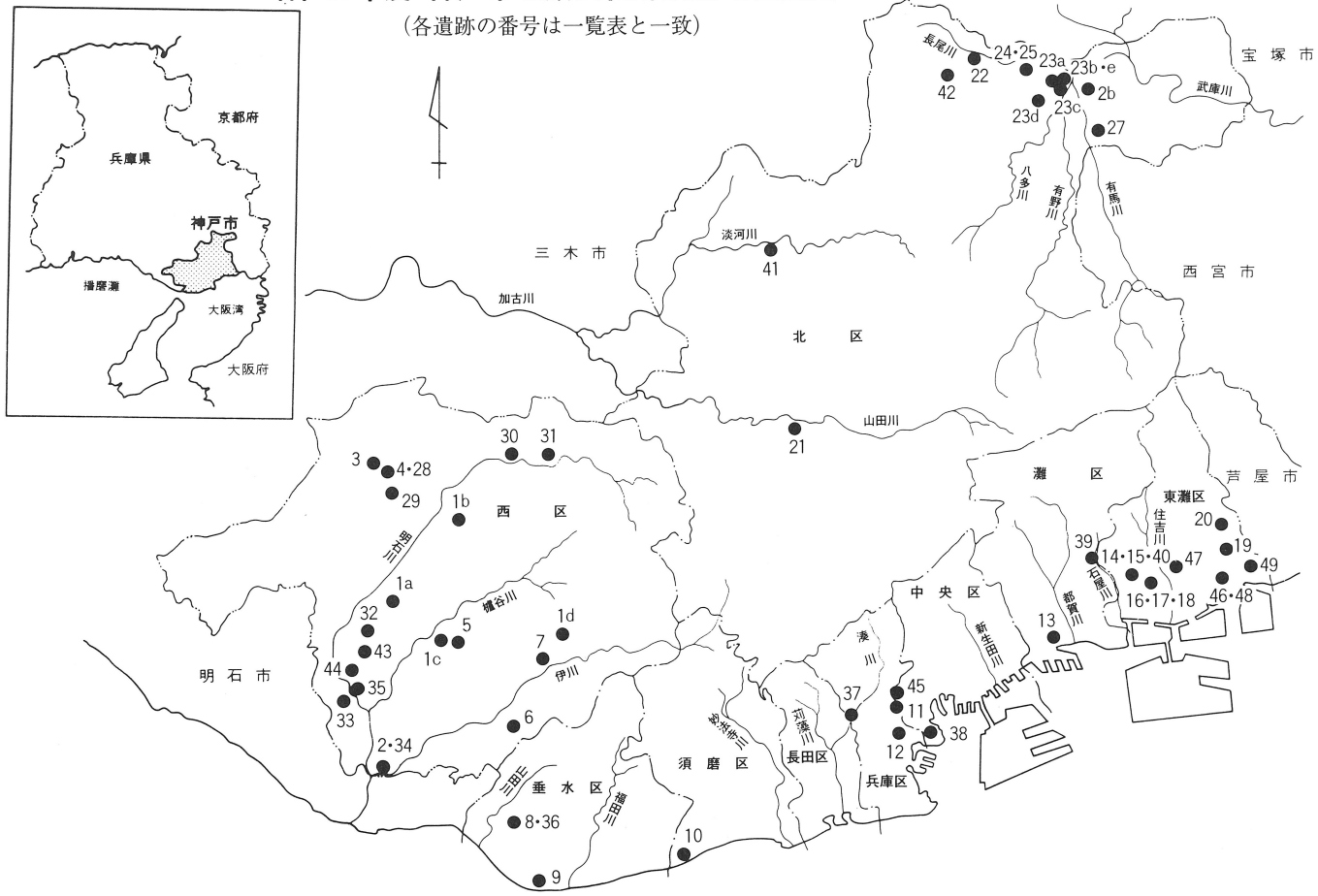
昭和60年度　埋蔵文化財発掘調査一覧表

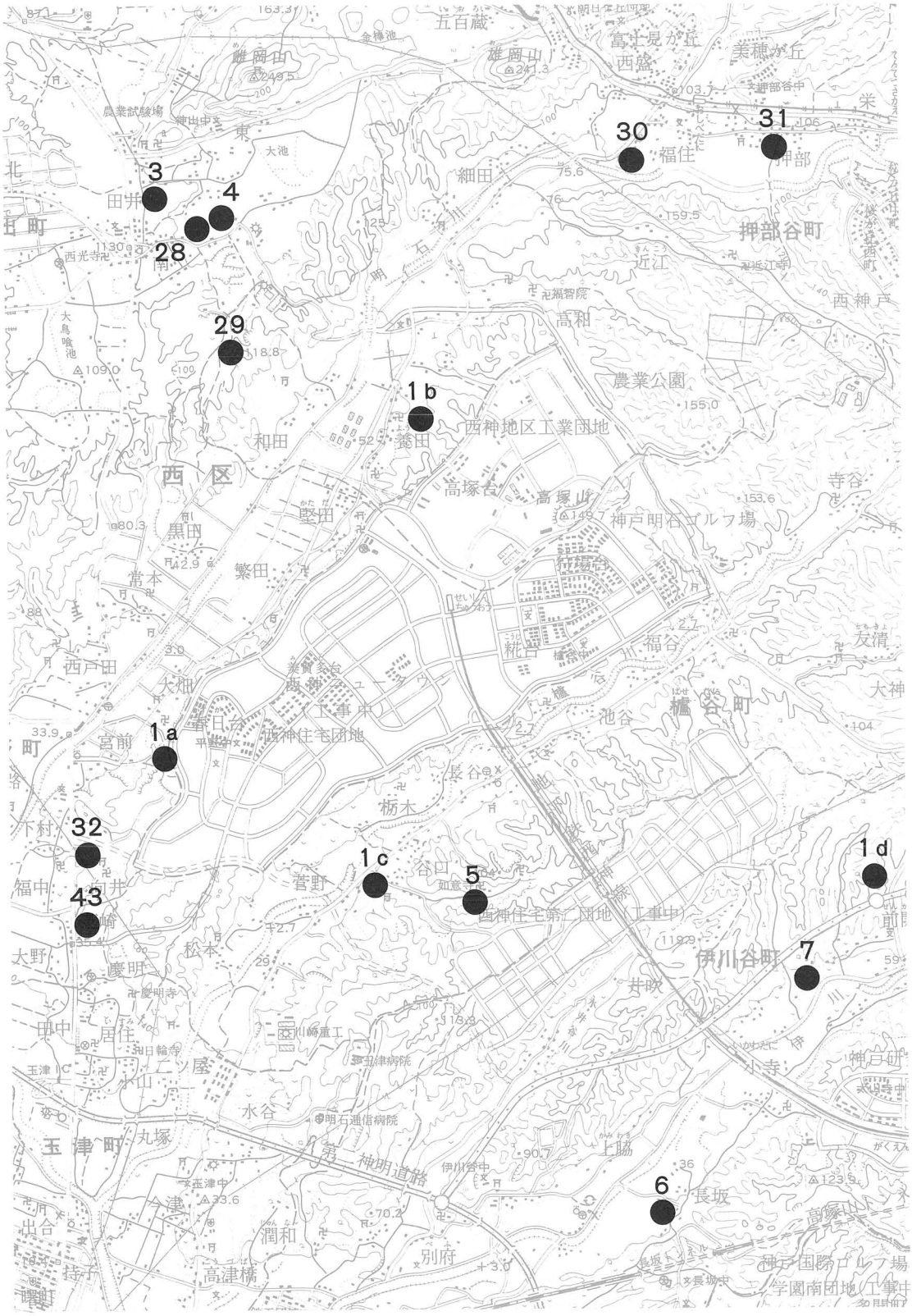
番号	遺跡名	所在地	事業名	調査主体	調査面積
26	塩田遺跡	北区道場町塩田	県営圃場整備事業	神戸市教育委員会	744㎡
27	平田遺跡	北区道場町平田	〃	〃	728㎡
28	神出・東遺跡	西区神出町東	〃	妙見山麓遺跡調査会	2,000㎡
29	神出南古墳参考地	西区神出町南	都市計画道路建設	神戸市教育委員会	60㎡
30	西盛南遺跡	西区押部谷町西盛	団体営圃場整備事業	〃	208㎡
31	押部遺跡	西区押部谷町押部	〃	〃	340㎡
32	下村遺跡	西区平野町下村	〃	〃	216㎡
33	出合遺跡	西区玉津町出合、中津	道路建設	〃	80㎡
34	上池遺跡	西区玉津町新方、上池	市営住宅建設	〃	54㎡
35	居住遺跡	西区玉津町居住	倉庫建設	〃	1,900㎡
36	舞子古墳群毘沙門1号墳	垂水区舞子坂3丁目	住宅建設	〃	90㎡
37	会下山二本松古墳	兵庫区湊川町	水道配水池築造	〃	
38	ハーバーランド	中央区東川崎町	ハーバーランド計画予定地	〃	1,125㎡
39	滝ノ奥遺跡	灘区高羽字滝ノ奥	住宅建設	〃	140㎡
40	平野備前守忠勝墓所	東灘区御影町郡家	都市計画道路建設	(財)神戸市スポーツ教育公社	36㎡
41	行原遺跡	北区淡河町行原	団体営圃場整備事業	神戸市教育委員会	248㎡
42	龍ヶ坪遺跡ほか	北区長尾町上津、大沢町日西原、他	道路建設	〃	125㎡
43	芝崎遺跡	西区玉津町芝崎	国道拡幅工事	兵庫県教育委員会	740㎡
44	玉津田中遺跡	西区玉津町田中	土地区画整理事業	〃	7,659㎡
45	楠・荒田町遺跡	中央区楠町7丁目	大学病院建設	〃	430㎡
46	小路大町遺跡	東灘区本山南町2丁目	県営住宅建設	〃	160㎡
47	西岡本1丁目遺跡	東灘区西岡本1丁目	郵政局住宅建設	〃	210㎡
48	北青木遺跡	東灘区北青木1丁目	県営住宅建設	〃	80㎡
49	深江北町遺跡	東灘区深江北町	〃	〃	160㎡

調　査　期　間	調査担当者	調　　査　　内　　容	備　　考
60.10.24～60.11.15	黒田　恭正	弥生時代竪穴住居址	
60. 6.19～60. 8.10	渡辺　伸行	奈良時代～鎌倉時代　土坑、溝、集石遺構	
60. 8.18～61. 3.31	山仲　　進	中世の土坑・ピット等	
60. 1. 7～61. 1.18	山本　雅和	試掘調査 古墳状隆起２箇所遺跡確認されず	
61.2.26～61.2.28	山本　雅和	試掘調査	
61. 1.19～61.1.20	山本　雅和	古墳時代～中世遺物包含層	
60.11.19～60.11.30	渡辺　伸行	中世　掘立柱建物、土坑	
61. 2.12～61. 2.21	山本　雅和	試掘調査 弥生時代～中世遺物包含層	
61. 1.29～61. 1.31	前田　佳久	平安時代遺物包含層	
60. 4.26～60. 7.30	西岡　巧次	鎌倉時代遺物包含層 畦畔址、溝	
60. 9.11～60. 9.13	口野　博史	試掘調査 古墳１基、弥生時代遺構	
60. 9. 5～60.10.19	黒田　恭正	墳丘葺石部分の切取り保存	一部現状保存
60. 3.10～61. 3.25	西岡　巧次 西岡　誠司 前田　佳久	試掘調査	
60. 8.19～60. 8.31	口野　博史	試掘調査 中世火葬墓、土坑、有茎尖頭器	
61. 1.21～61. 2. 7	宮本　郁雄 池野　素子	試掘調査	
60.11.14～60.11.18	口野　博史	試掘調査	
60.11.12～60.11.19	山本　雅和	試掘調査	
60.12.26～61. 3.25	山本　三郎 藤田　淳	弥生時代後期 中世　堀状遺構	
60. 4.30～61. 3.31	山本　深井 村上（泰）別府 甲斐　藤田 篠宮	弥生時代　住居跡・水田址・旧河道 古墳時代後期　住居跡 中世－近世　集落址	
60. 5.20～60. 7.20	岡田　章一 長谷川　真	平安時代末～鎌倉時代初頭　石組溝・掘立柱建物	
60.12. 1～61. 3.31	山本　三郎 藤田　　淳	中世　水田址 古墳時代後期　水路	
60. 4.22～60. 4.24	深井明比古 別府　洋二	中・近世　水田址	
60. 4.17～60. 4.20	小川　良太 山下　史郎	弥生時代前期　溝・土坑 砂堆間低地より土器・木器	
60.12. 1～61. 3.31	山本　三郎 藤田　　淳	中・近世　水田址 奈良時代・弥生時代　包含層	

昭和60年度 神戸市埋蔵文化財調査地位置図

（各遺跡の番号は一覧表と一致）



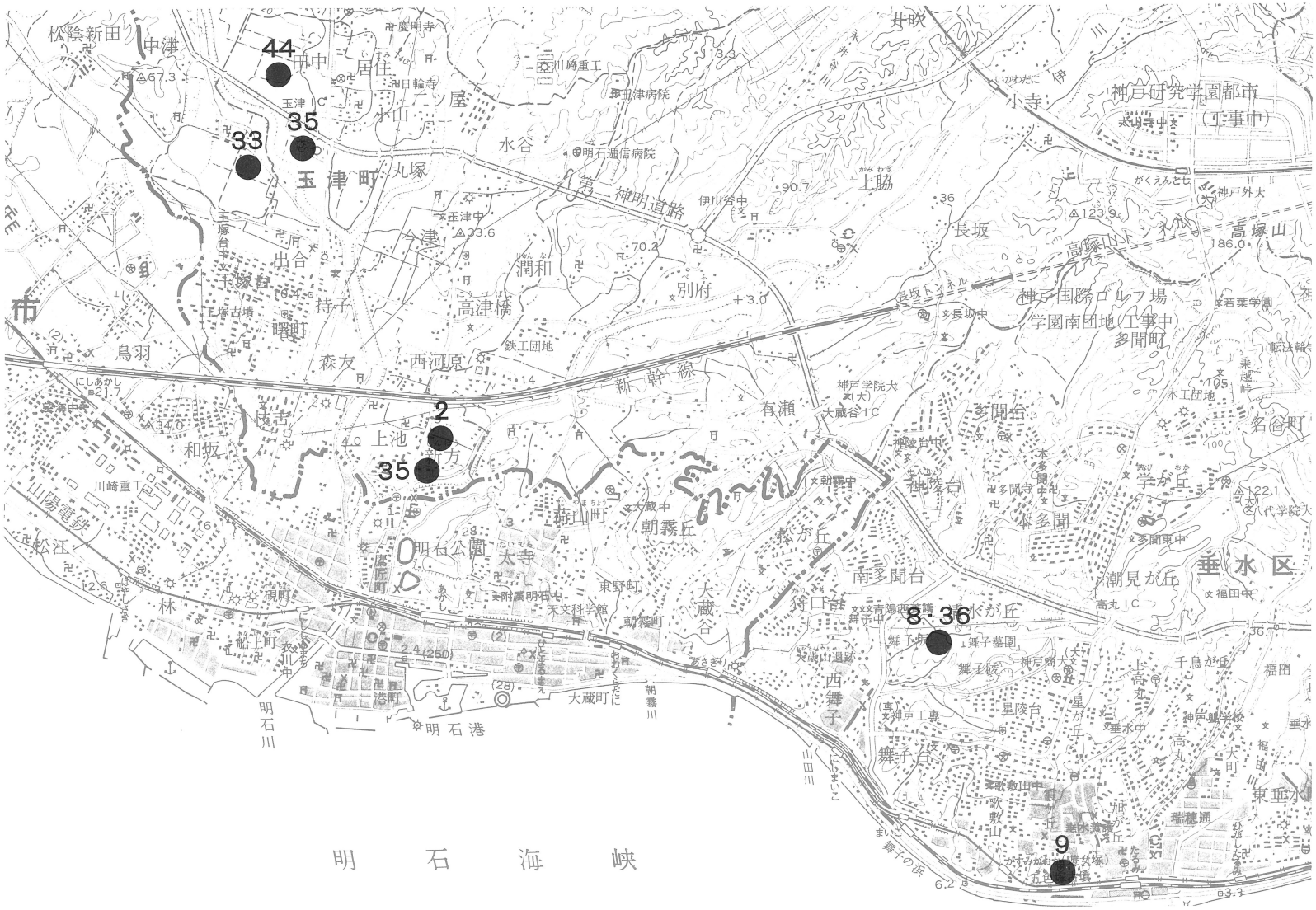


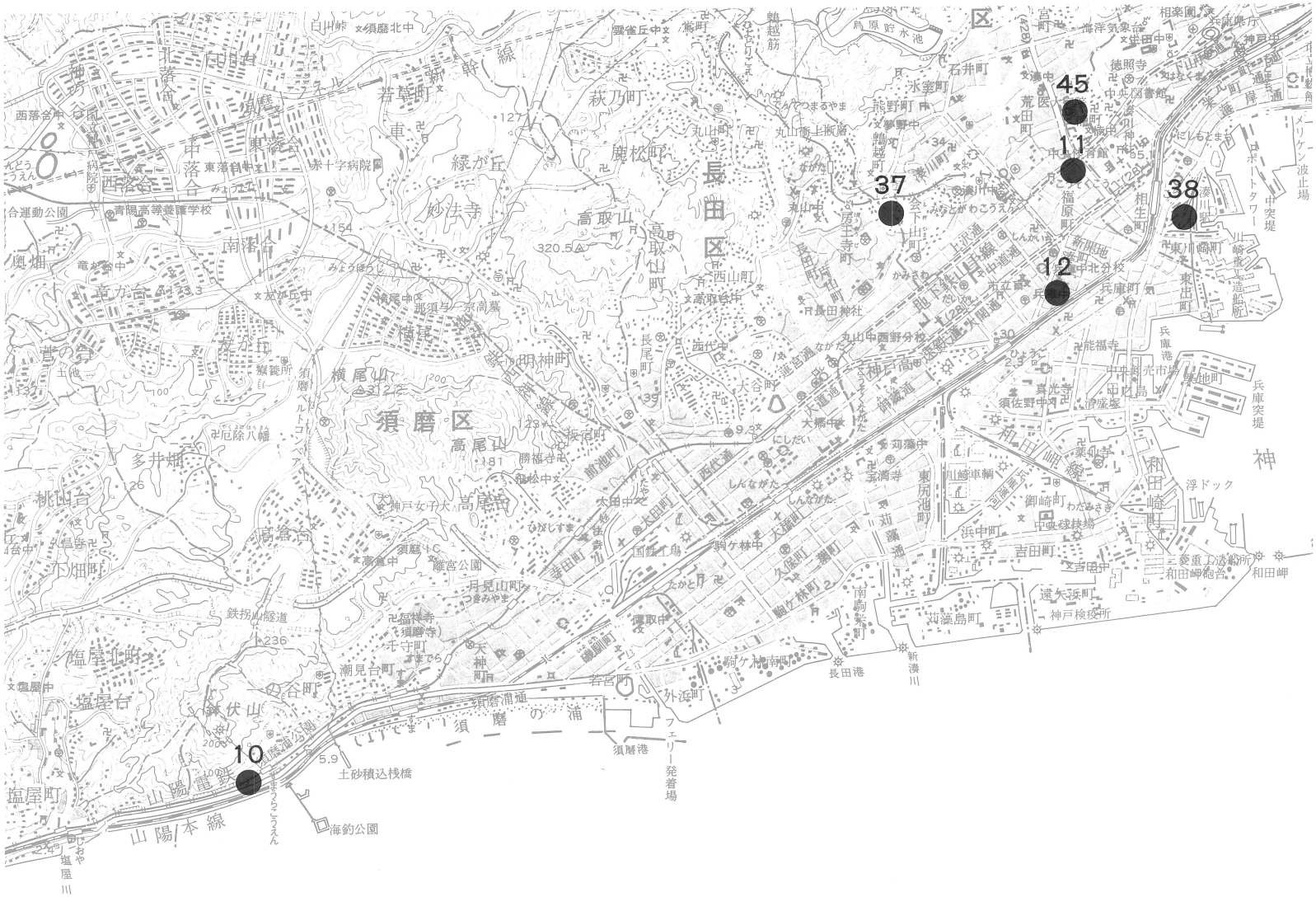
1a 西神第55地点

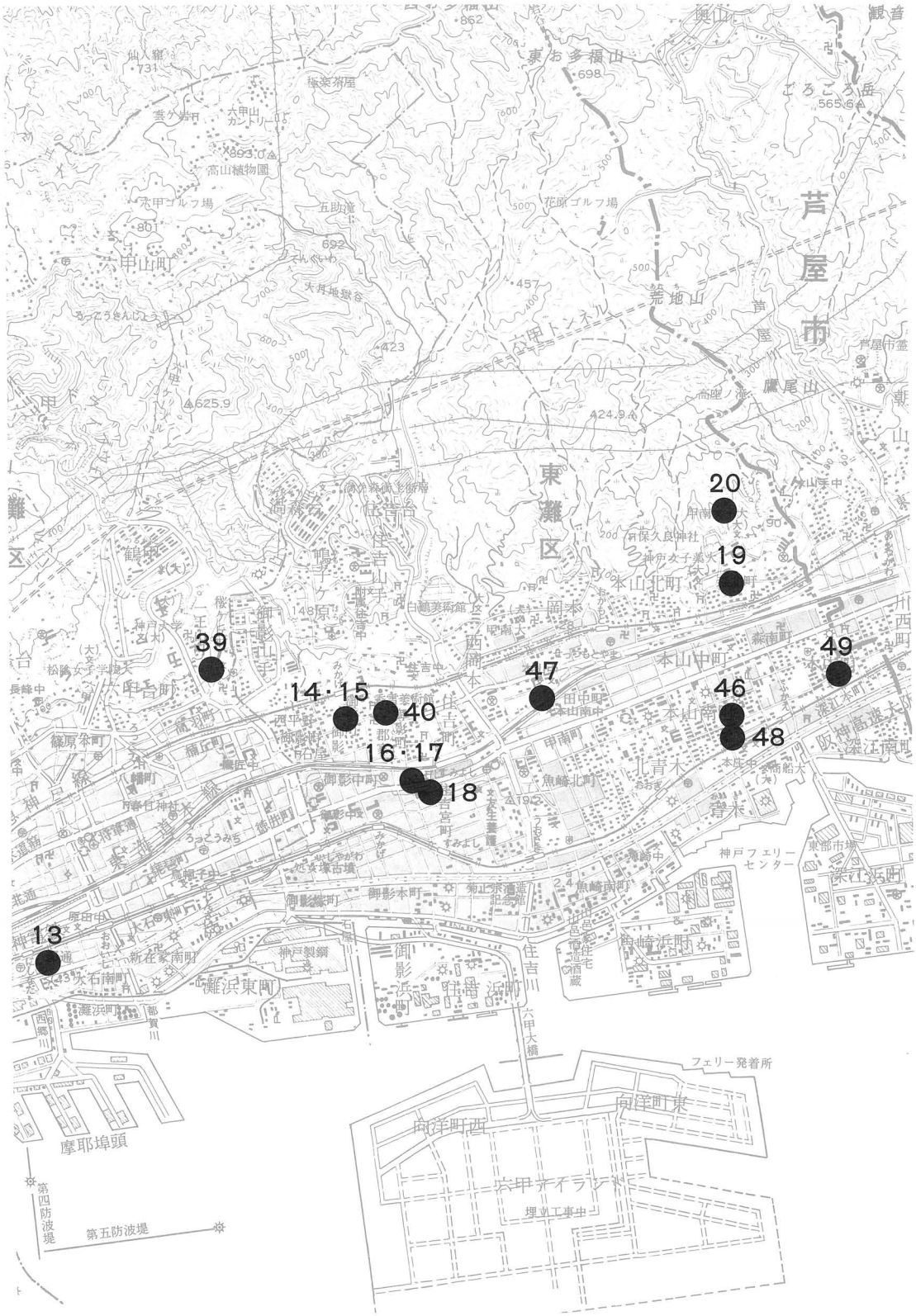
1b 西神第90地点

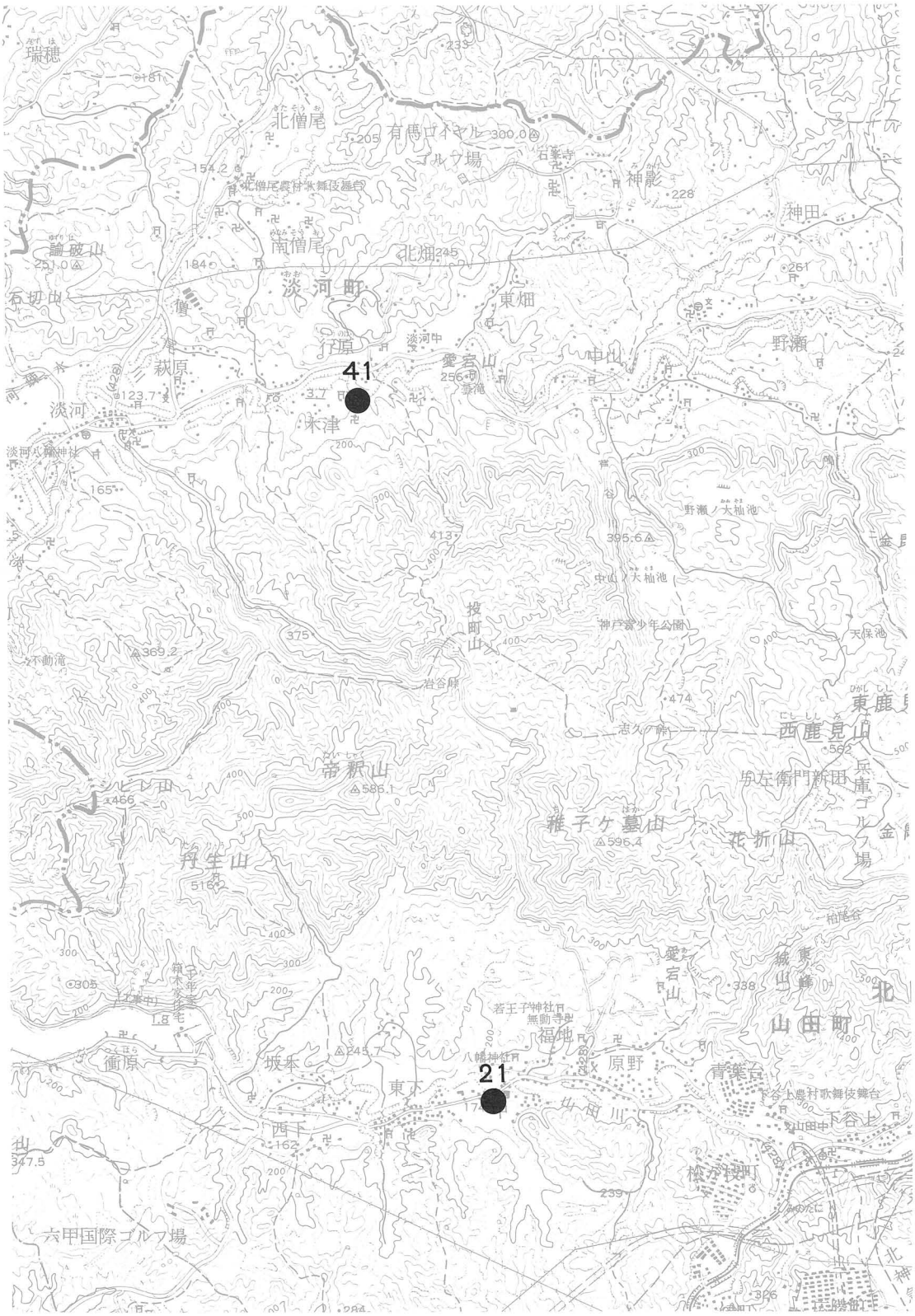
1c 栃木遺跡

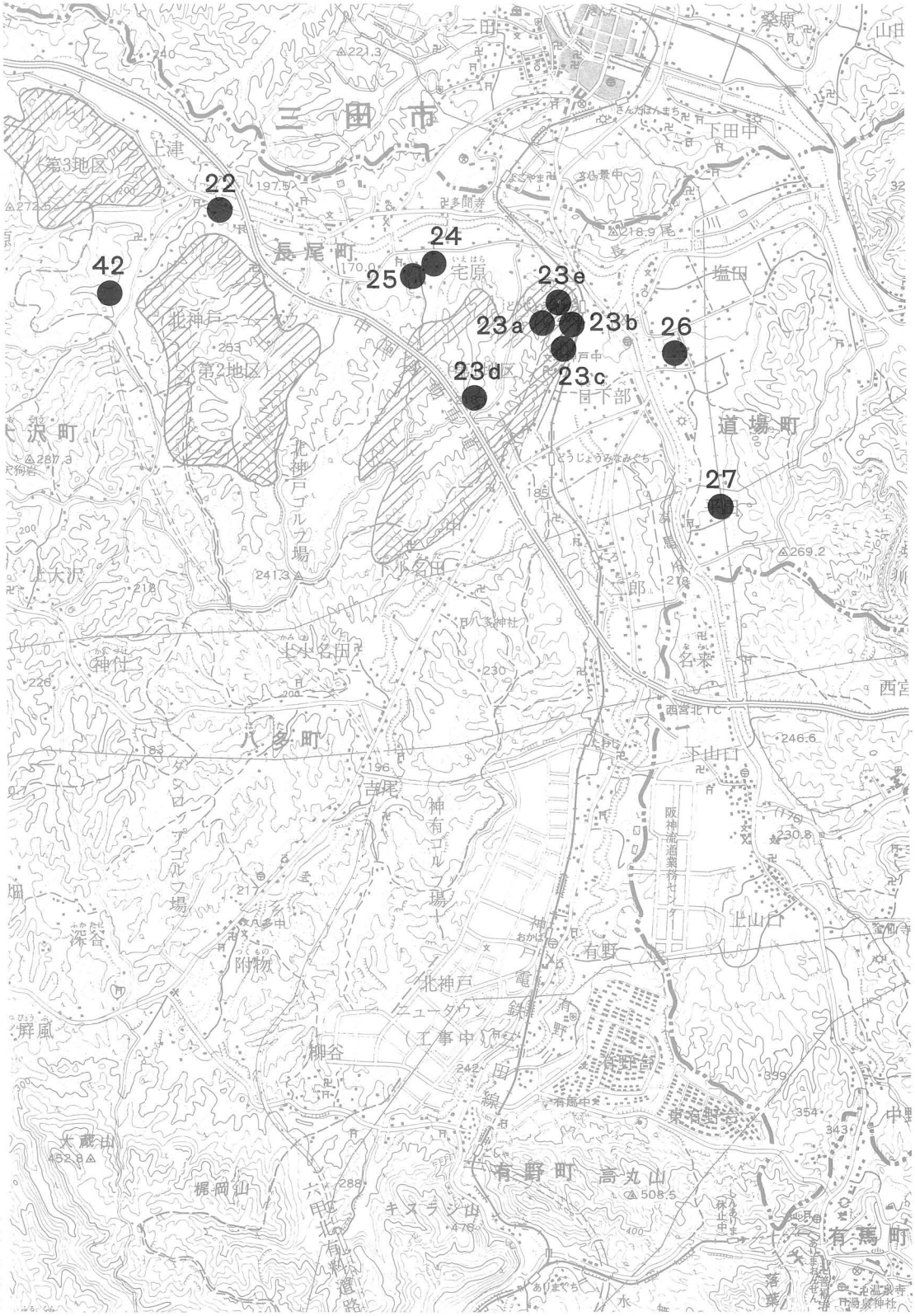
1d 久留主谷遺跡


44
33
35
2
35
8.36
9
明石海峡
玉津町
明石公園
明石港
明石川
神明道路
新幹線
山陽電鉄
神戸国際ゴルフ場
学園南団地(工事中)
神戸研究学園都市
(工事中)
垂水区
舞子台
南多聞台
本多聞
多聞台
神陵台
学が丘
潮見が丘
高塚山
長坂
上脇
別府
有瀬
朝霧丘
大蔵谷
西舞子
舞子の浜
山田川
朝霧川
大蔵町
港町
船上町
東野町
天文科学館
川崎重工
明石通信病院
兵庫病院
神戸学院大
神戸外大
神戸商大
若葉学園
名谷町
東垂水
福田
千鳥が丘
高丸
上高丸
潤和
高津橋
西河原
森友
上池
新方
和坂
鳥羽
松陰新田
中津
居住
二ツ屋
小山
水谷
丸塚
今津
出合
持子
曙町
玉塚台
玉塚古墳
井吹
小寺
伊川谷中
長坂中
長坂トンネル
多聞中
朝霧中
大蔵中
舞子中
舞子墓園
舞子陵
星陵台
歌敷山中
垂水中
福田中
高丸IC
大蔵谷IC
玉津IC
玉津中
玉塚台中
明石中
附属明石中
鉄工団地
木工団地
乗越峠
若葉学園
神戸外大
神戸商大
神戸工専
垂水女子高
垂水神社
瑞穂通
山陽電鉄
JR
市


45
11
37
38
12
10
須磨区
長田区
兵庫区
神戸高速線
山陽本線
山陽電鉄
須磨の浦
和田岬
海釣公園
土砂積込桟橋
長田港
須磨港
新湊川
和田岬砲台
神戸検疫所
兵庫港
兵庫突堤
浮ドック
メリケン波止場
ポートタワー
中突堤
高取山
横尾山
鉄拐山
鉢伏山
塩屋台
塩屋町
塩屋川
高倉台
高尾山
妙法寺
若葉町
萩乃町
鹿松町
緑が丘
南落合
東落合
西落合
北落合
奥畑
桃山台
多井畑
下畑町
須磨ベルトコンベア
須磨ICC
須磨公園
千守町
天神町
潮見台町
月見山町
若宮町
外浜町
フェリー発着場
福原町
相生町
兵庫町
東出町
中川崎町
和田崎町
御崎町
浜中町
吉田町
苅藻島町
苅藻通
東尻池町
南駒栄町
遠矢浮町
氷室町
熊野町
石井町
荒田町
宮町
中道通
新開地
市立高
兵庫高
能福寺
薬仏寺
真光寺
滝盛塚
中央図書館
相楽園
徳照寺
兵庫県庁
神戸中
にしもとまち
東川崎町
中北分校
丸山中西野分校
長田神社
長田中
西山町
高取台中
長尾町
大谷町
大橋中
刈藻中
刈藻寺
刈藻池
駒ケ林中
駒ケ林町
駒ケ林南町
国鉄工場
大田中
寺田町
若宮中
潮見台中
千守中
須磨中
須磨寺
福祥寺
月見山中
鵯越筋
鵯越町
丸山中
丸山商上板屋
夢野中
湊川中
湊川高
湊川公園
会下山
房王寺町
長田神社
高取山
320.5
横尾中
横尾山
須磨区
高尾山
勝福寺
丸松中
神戸女子大
高倉台
須磨ベルトコンベア
厄除八幡
鉄拐山隧道
海釣公園
須磨港
須磨滑通
須磨の浦
塩屋川
山陽本線
山陽電鉄
塩屋町
塩屋台
鉢伏山
高尾山
横尾山
高取山
須磨区
長田区
兵庫区
神戸高速線
山陽本線
山陽電鉄
須磨の浦
和田岬
海釣公園
土砂積込桟橋
長田港
須磨港
新湊川
和田岬砲台
神戸検疫所
兵庫港
兵庫突堤
浮ドック
メリケン波止場
ポートタワー
中突堤
氷室町
熊野町
石井町
荒田町
宮町
相生町
兵庫町
東出町
中川崎町
和田崎町
御崎町
浜中町
吉田町
苅藻島町
苅藻通
東尻池町
南駒栄町
遠矢浮町
福原町


13
14・15
16・17
18
19
20
39
40
46
47
48
49
芦屋市
東灘区
六甲山町
本山北町
本山中町
本山南町
北青木
青木
魚崎北町
魚崎南町
魚崎浜町
御影浜町
住吉川
六甲大橋
灘浜東町
摩耶埠頭
第四防波堤
第五防波堤
向洋町西
向洋町東
六甲アイランド
埋立工事中
フェリー発着所
神戸フェリーセンター
東部市場
阪神高速大阪
深江南町
深江浜町
六甲ゴルフ場
花原ゴルフ場
荒地山
六甲トンネル
高座の滝
芦屋市霊園
高山植物園
六甲ケーブル
ろっこうさんじょう
大月地獄谷
五助滝
東お多福山
ごろごろ岳
奥山
観音
仙人窟
雲ケ岩
六甲山カントリー
極楽茶屋
鶴甲
神戸女子学院大
白鶴美術館
保久良神社
神戸女子薬大
岡本
西岡本
住吉
住吉山手
住吉台
篠原本町
篠原中町
御影中町
御影本町
御影山手
魚崎中
魚崎南中
本山南中
本山中
本山第一中
本庄中
長峰中
松陽女子学院大
神戸大学
神戸製鋼
新在家南町
水石南町
灘浜町
都賀川
西郷川
第一防波堤
第二防波堤
第三防波堤
第四防波堤
第五防波堤
摩耶埠頭
六甲ケーブル
六甲山カントリー
高山植物園
芦屋市霊園
観音
奥山
東お多福山
ごろごろ岳
荒地山
六甲トンネル
高座の滝
花原ゴルフ場
六甲ゴルフ場
五助滝
大月地獄谷
ろっこうさんじょう
六甲山町
本山北町
本山中町
本山南町
北青木
青木
魚崎北町
魚崎南町
魚崎浜町
御影浜町
住吉川
六甲大橋
灘浜東町
摩耶埠頭
向洋町西
向洋町東
六甲アイランド
埋立工事中
フェリー発着所
神戸フェリーセンター
東部市場
深江浜町
深江南町
阪神高速大阪
芦屋市
東灘区
鶴甲
篠原本町
篠原中町
御影中町
御影本町
御影山手
魚崎中
魚崎南中
本山南中
本山中
本庄中
長峰中
松陽女子学院大
神戸大学
神戸製鋼
新在家南町
水石南町
灘浜町
都賀川
西郷川
第四防波堤
第五防波堤


41
21
瑞穂
北僧尾
有馬ロイヤル
ゴルフ場
北僧尾農村歌舞伎舞台
南僧尾
北畑
淡河町
東畑
論破山
石切山
萩原
淡河
淡河八幡神社
来津
淡河中
愛宕山
中山
野瀬
神影
神田
野瀬ノ大池
中山ノ大池
神戸青少年公園
天保池
投町山
不動滝
岩谷原
志久ノ峠
西鹿見山
東鹿見
兵庫ゴルフ場
帝釈山
左衛門新田
雑子ケ墓山
花折山
丹生山
柏尾谷
愛宕山
若王子神社
無動寺
福地
八幡神社
原野
青葉台
下谷上農村歌舞伎舞台
下谷上
山田町
坂本
東下
西下
衝原
松ケ枝町
六甲国際ゴルフ場



23a 北神第４地点
23b 北神第５地点
23c 北神第９地点
23d 北神第15地点
23e 北神第53地点

Ⅱ．昭和60年度の発掘調査

1．西神（せいしん）ニュータウン内遺跡

昭和60年度の西神ニュータウン建設および関連事業区域内での埋蔵文化財調査は、発掘調査４件、試掘調査８件、工事立会１件、分布調査２件を実施した。当年度では、学園都市、第２住宅・工業団地や関連事業区域内での河川改修等、調査地点も広範囲にわたった。

本年報では、発掘調査を実施した第55地点遺跡、第90地点遺跡、栃木遺跡、久留主谷遺跡の４遺跡について報告したい。

西神（せいしん）第55地点遺跡

1．調査経過

昭和45年に実施した西神ニュータウン内遺跡分布調査によって第55地点は古墳の存在が予想されていた。一方第55地点のすぐ西側には数基の古墳が存在しており、春日神社裏山古墳群と呼称されている。この古墳群は、これまでの分布調査によって７基が確認されている。いずれも崩壊が著しく、また発掘調査を経ていないため詳細は不明であるが、直径10ｍ前後の木棺直葬を埋葬施設とする６世紀前半の古墳群と推定されていた。今回の開発に先立ち、その区域内に何基の古墳が存在するのか、また春日神社境内に散布する弥生土器に関する遺構が存在するのかを確認するために、まず試掘調査を実施した。この結果、３基の古墳状隆起と、時期不明の土壙５基をプラン検出した。

この結果から、Ａ、Ｂ、Ｃ地区を設定し、全面調査を実施した。

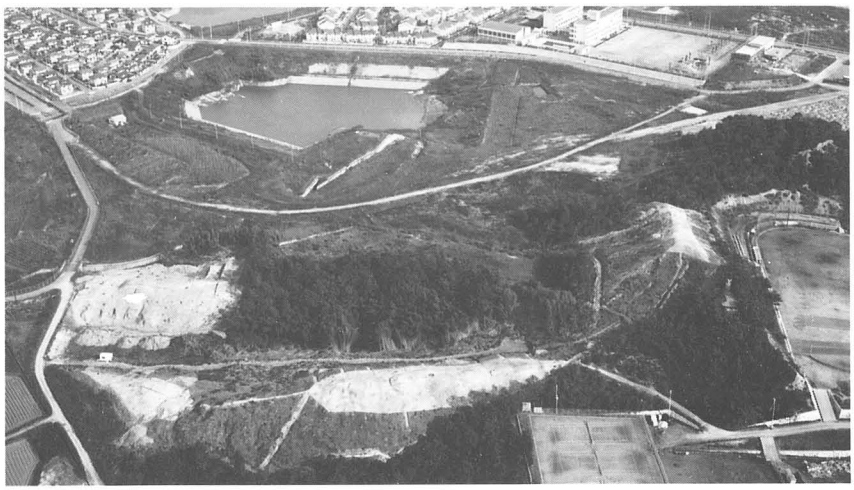


fig. 2
第55地点遺跡全景

2．調査の概要

ｉ）Ａ地区　標高95.5ｍ～99.5ｍの間を全面調査し、尾根の頂部において土壙４基を検出した。いずれも不整形で、大きいものは2.0ｍ×0.9ｍ、小さいものは1.0ｍ×0.7ｍを測り、深さ0.1ｍ程度しか残存していない。埋土からの遺物の出土はなく、時期の確定ができないが、立地や土壙の形状から考えて南側の丘陵上に立地する第59地点の弥生時代中期後半の土壙墓群と類似しており、Ａ地区の土壙も同時期の土壙墓である可能性が高い。

ii）Ｂ地区　標高60～80ｍの間を全面調査し、尾根の頂部で２基の古墳と土壙３基を検出した。南側の古墳を１号墳、北側の古墳を２号墳と呼ぶ。

１号墳　１号墳は、南北11.5ｍ、東西13.4ｍ、高さ0.5～1.3ｍの尾根方向に、長軸を直交する。尾根方向の墳丘の裾は、地山を掘り切って造りだし、一方尾根に直交する部分は、盛土により墳丘を築いている。また埋葬施設が流失し、その痕跡が認められないことから、本来はかなりの墳丘盛土があったものと考えられる。その埋葬施設は、周囲から石材の出土がみられないことから木棺直葬と推定できる。

墳丘の裾及び斜面から須恵器片・土師器片が出土している。これらは、いずれも細片で、接合するものが少ない。よって当時の墓前祭祀に伴って墳丘上に供献されたものではなく、墳頂部の埋葬施設に供献されていたものが流出し堆積したものである。須恵器の器種としては、坏蓋、坏身、脚付短頸壺、甕がある。

墳丘の東側及び西側裾付付近には、約0.5ｍ×0.5ｍの範囲の焼土面が２か所あり、埋葬時あるいは埋葬後の祭祀によるものと考えられる。

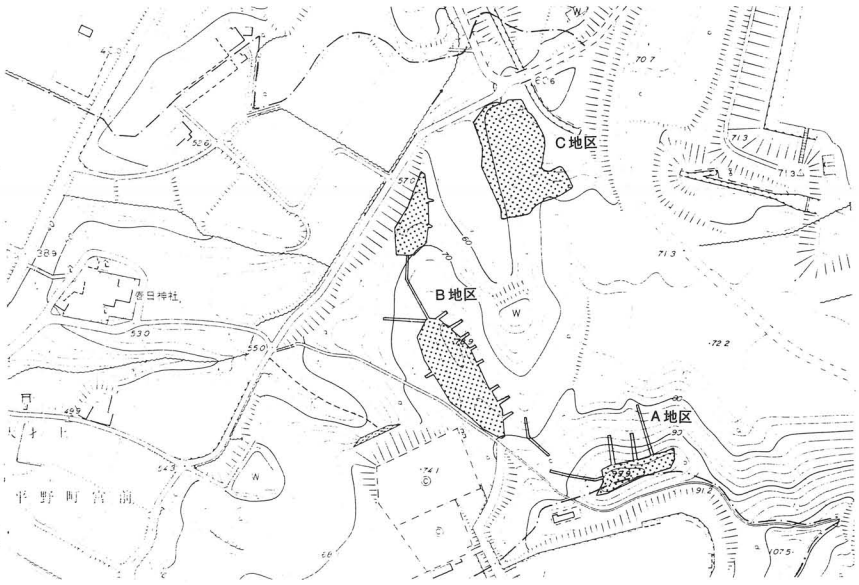


fig. 3
第55地点遺跡
トレンチ配置図
1：5,000

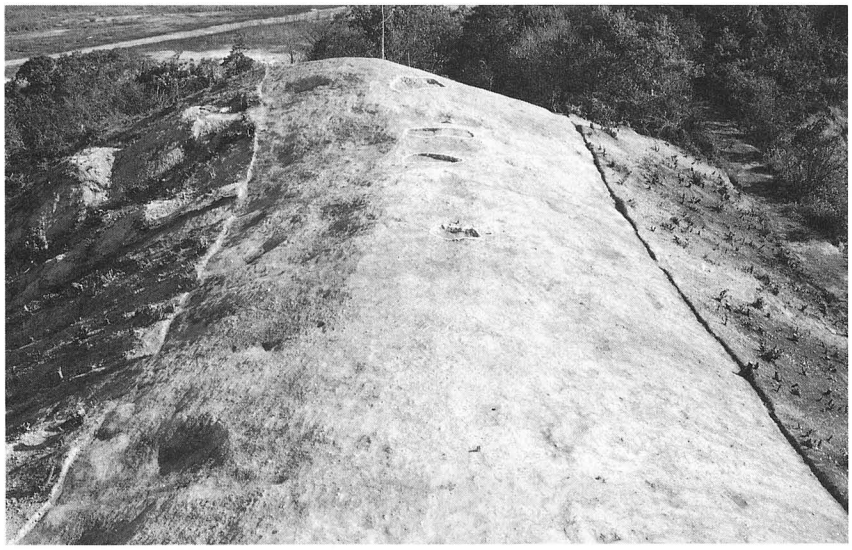


fig. 4
A地区全景(西から)

fig. 5　土壙

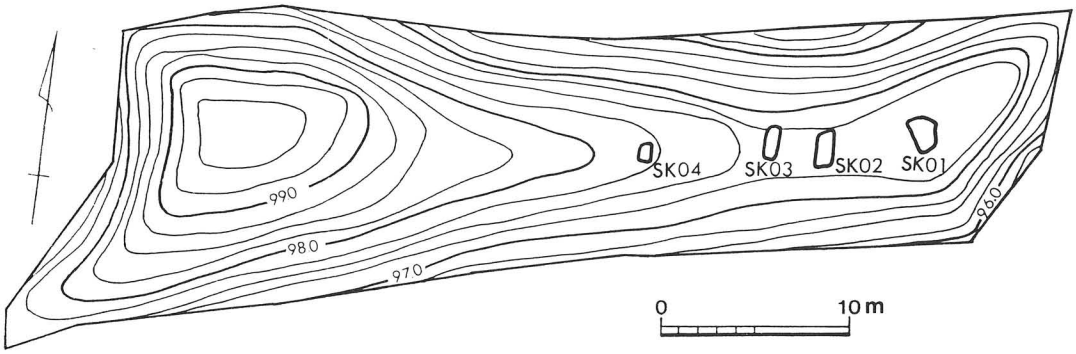


fig. 6　A地区遺構平面図

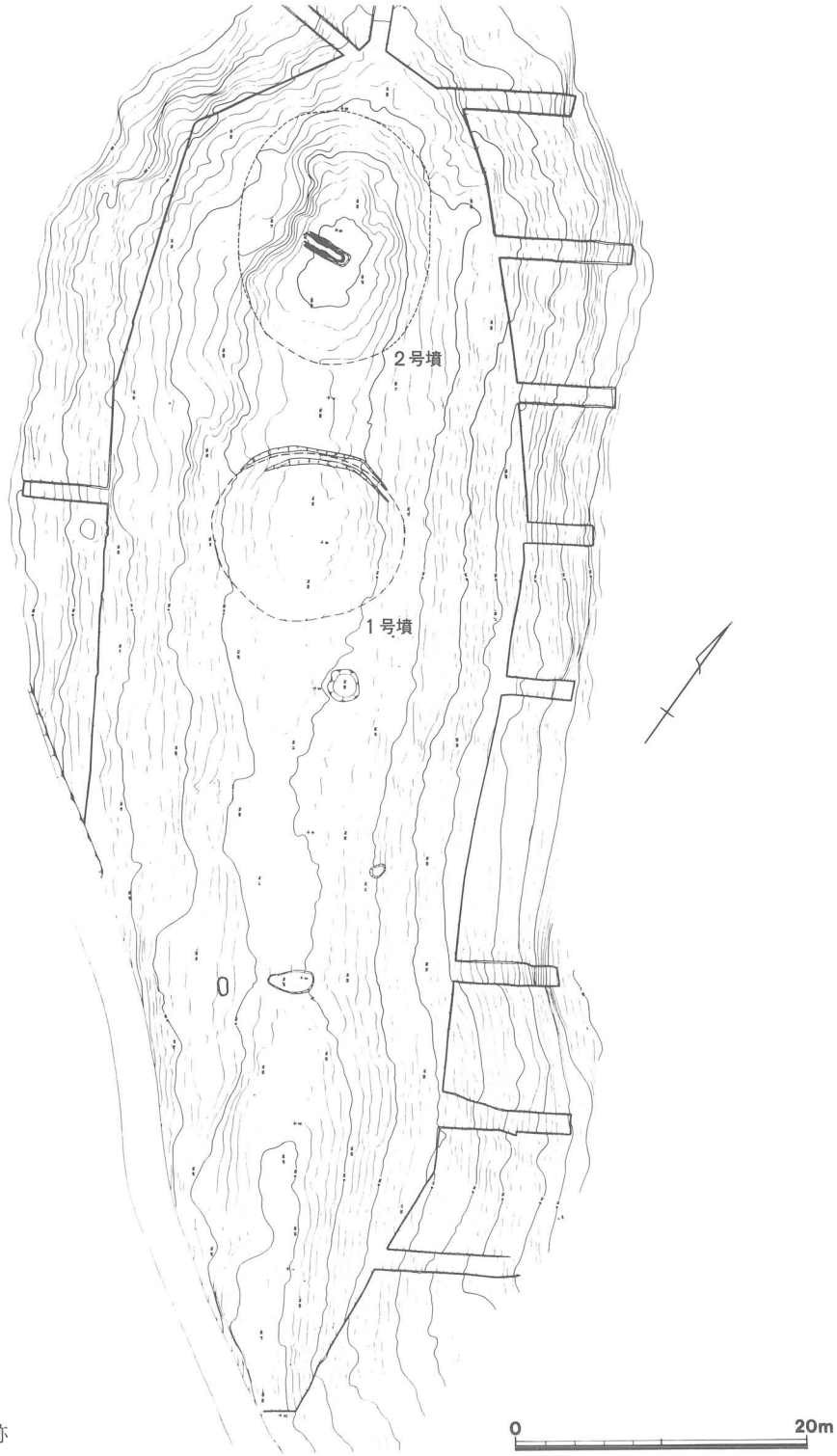


fig. 7
西神第55地点遺跡
B地区平面図

2号墳　B地区の丘陵突端の自然隆起を利用して築かれている。1号墳同様に盛土がすでに流失しており、さらに西南部の約$\frac{1}{3}$は土取りによって破壊されている。これらの改変のため、墳丘の形状と規模を明確にすることができないが、残存状態から墳丘は、南北17.5m、東西13.3m、高さ0.5～2.2mの尾根方向を長軸にする楕円形墳若しくは隅円長方形墳と推定できる。

埋葬施設　埋葬施設は、割竹形木棺直葬で、掘形内には拳大以下の円礫を充填している。しかし土取りによって、西側が若干破壊されている。残存する法量は、掘形全長3.6m、同幅約1.2m、同深さ0.45m、棺推定長2.5m、同幅0.4m、同深さ0.2mを測る。床底面は断面U字形を示し、朱が残存している。棺の幅は、東側の方が広く、床底面も西側へ向けて傾斜しており、頭位はほぼ東を示す。朱は鉄剣の切先付近で最も濃密にみられる。おそらくはこの部分が、頭部又は胸部に相当すると推定できる。

副葬遺物　棺内の底面に接している3点の鉄器が出土している。3点とも棺の東半に集中しており、東から袋状鉄斧、鉇状鉄器、鉄剣の順である。鉄斧は折り返し部を下にして刃部を北に向けて出土している。木質痕はみられず、また出土状態から考えて柄をつけて副葬していたとは考えられない。鉇状鉄器は刃部を北西に向けている。鉄剣は刃先を西、つまり足の方向に向けて出土している。

袋状鉄斧は全長11.6cm、幅6cm、袋部の厚み1.2cm、重量260gを測る。袋部の折り返し部分の一部を欠損しているが、ほぼ完形品である。刃部は、片刃で刃角度は60度を測り、刃部の厚さは1.0cmである。次の鉇状鉄器は、

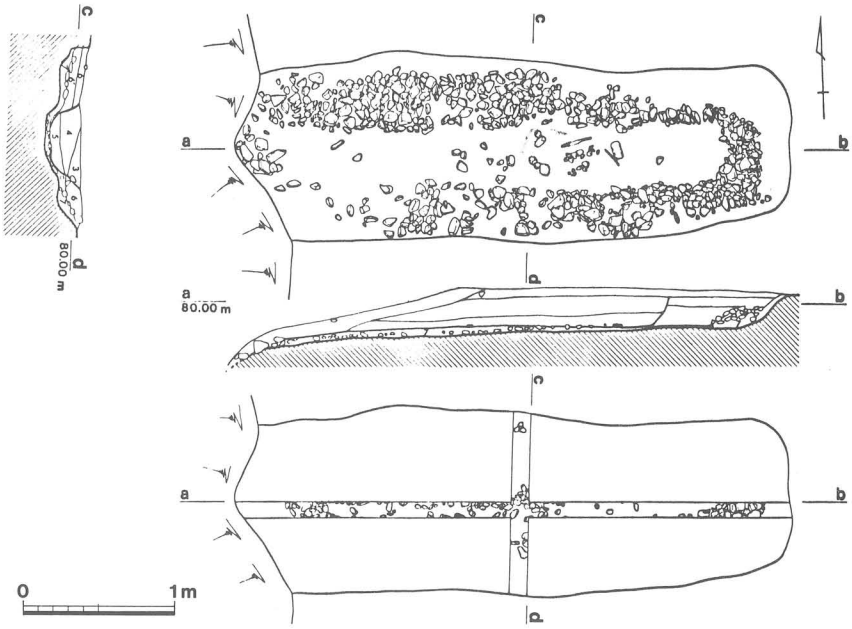


fig. 8
2号墳埋葬施設
平面・断面図

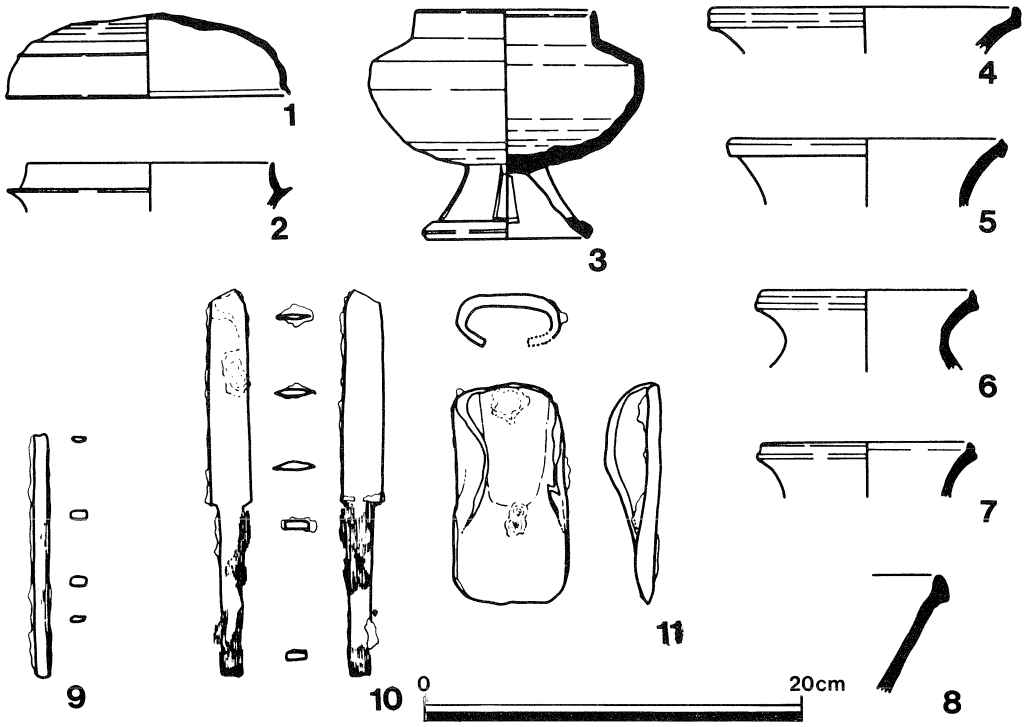


fig. 9　B地区出土遺物実測図

刃部の錆化が著しく、鉈とは確定しかねるが、断面凹形を呈しており、他器種の類例がないため、一応鉈状鉄器としておく。全長12.9㎝、幅0.8㎝、基部の厚さ0.55～0.3㎝、重量13.6ｇを測る。かすかに木質の痕跡が認められるが、刃部長は不明である。鉄剣は、切先を若干欠損しているがほぼ完形品である。茎の両面には、木質痕を明瞭に残している。残存長20.45㎝、刃部最大幅2.2㎝、刃部最大厚さ0.5㎝、茎部長9.0㎝、茎部幅1.35㎝、茎部厚さ0.5㎝、重量43.7ｇを測る。

埋葬施設の掘形断面は、２段掘りになっており、棺底及び棺側を小口側に小円礫を埋め込んでいる。特に小口部では密に円礫を組み込んでいる。棺東側小口部と掘形内礫組みの間には、地山の粘土を埋め込んでいる。

ⅲ）C地区　標高62ｍ～65ｍの約3,200㎡を全面調査し、古墳１基（３号墳）と鎌倉時代前半のＬ字形の溝１条を検出した。

３号墳　３号墳は、南北16.5ｍ、東西13.5ｍ、高さ1.5ｍの長方形墳で、墳丘は２号墳同様に自然隆起を利用し、墳丘下半は地山を削り出し、上半を盛土によって築いている。しかし、盛土の流出が著しいため埋葬施設も流出しており、埋葬施設掘形しか残存しておらず木棺部は不明である。掘形は全長3.4ｍ、幅1.1ｍ、深さ0.15ｍを測る。この古墳の時期については、掘形内や墳丘付近からほとんど遺物が出土しておらず断定はできない。しかし、

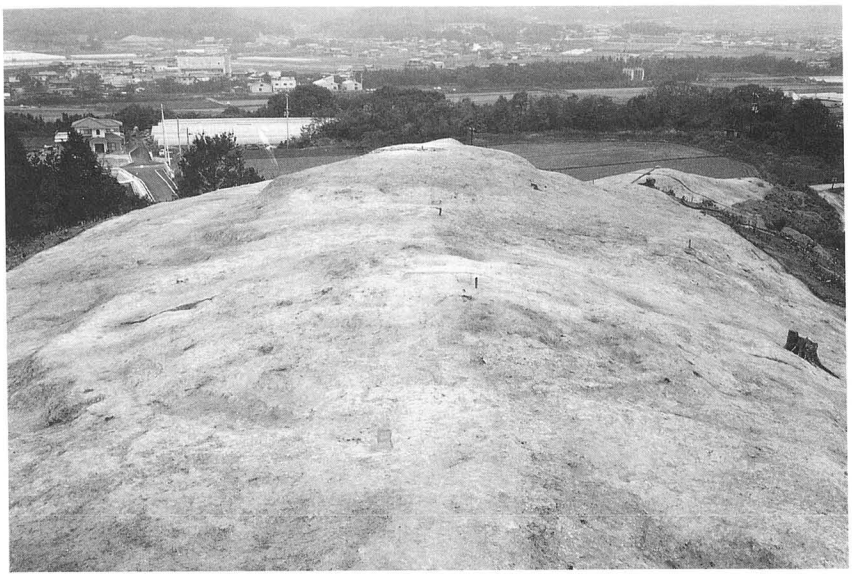


fig. 10
1・2号墳全景

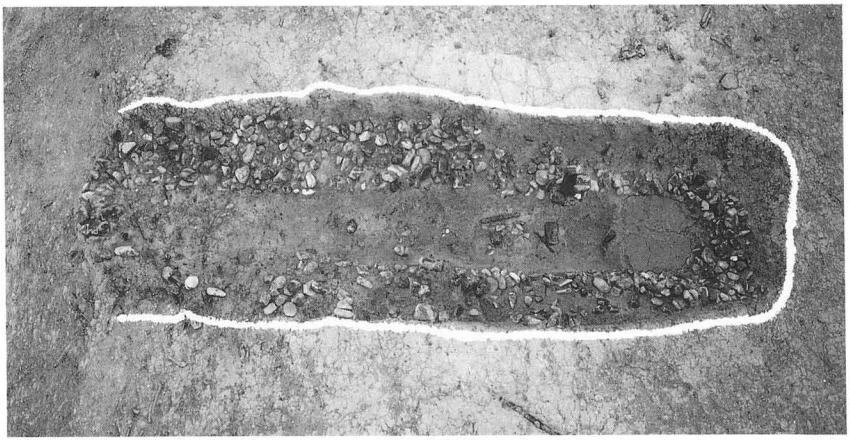


fig. 11
2号墳埋葬施設

fig. 12
同・遺物出土状況

その微量な遺物のすべてが須恵器ではなく土師器であることから、須恵器の副葬はなかったと推定できる。周辺の古墳の中で6世紀代の古墳はすべて須恵器を副葬していることから、この3号墳は、4世紀もしくは5世紀代の古墳と考えることができる。

3号墳の南には、約400㎡、約256㎡、約95㎡の平坦面が存在し、そのひとつからL字形の溝を検出した。これはその形状から雨落ち溝と推定できるが、それに伴う建物址の痕跡は一斉検出できなかった。また、他の平坦面からも柱穴等を検出することができなかった。しかし、平坦面から傾斜面に変わる付近では、鎌倉時代の須恵器、土師器が出土している。このことから、鎌倉時代に丘陵を平坦化し、なんらかの建物を築造したと推定できるが、後世の削平によってその痕跡が消滅したものと考えられる。

fig. 13　3号墳全景

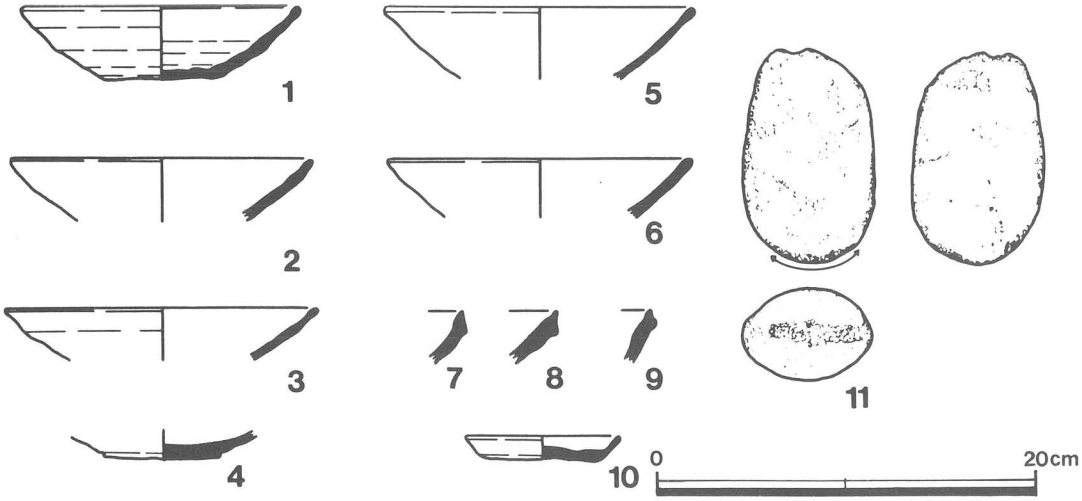


fig. 14　C地区出土遺物実測図

fig. 15　西神第55地点遺跡C地区平面図

3．まとめ

今回の調査によって３基の古墳を発見したが、いずれも残存状態が悪く、かろうじて２号墳のみ埋葬施設の構造を知ることができた。所属時期を限定できるのも６世紀前半の１号墳だけである。２号墳、３号墳は時期確定の根拠に乏しいものの中期（５世紀代）と考えて大過ないであろう。春日神社裏山古墳群のうち分布調査によって須恵器が採集されている古墳があり、それらは、１号墳出土例とほぼ近似している。よって少くとも１号墳は、やや分布からはずれるものの、同一丘陵に立地していることから春日神社裏山古墳群に含まれると考えられる。なおかつ２、３号墳を含ませることによって同古墳群が中期から墓域を設定し、造墓活動を開始していたと推定できる。

また、２号墳の埋葬施設は、割竹木棺を直葬し、掘形内の棺の周囲に円礫を充填する構造であったが、これに類似する構造の埋葬施設は、西神ニュータウン内では第41、30－１地点があげられる。しかし、第41地点では、棺上にも礫を多量に充填しており、33－３Ａでは、木槨で覆うなど少しずつ異なる点がある。しかし、いずれも副葬品が、数点の鉄器に限られるという共通点をもっている。周辺での類似例として加古川の支流である美嚢川流域に属する三木市志染町吉田古墳群１号墳がある。これは、割竹形木棺ではなく、箱形木棺の例である。このように割竹形木棺の掘形に円礫を充填する例は少なく、また他地域でも検出例は稀である。この埋葬施設の構造が明石川流域の特徴とは未だ断定できないが、明石川流域の古墳時代中期の葬制を考えるうえで重要な要素となっている。

明石川流域において、前・中期から後期にかけての古墳群としては、今回の春日神社裏山古墳群、堅田神社裏山古墳群、西神第41、42地点が知られている。その他多くの古墳群は、後期から始まっている。このように中期から始まる古墳群は少ない。それは、後期古墳に比べて圧倒的に前、中期古墳が少ないことに起因している。西神ニュータウン内においても現在までに27基の古墳を調査したが、そのうち19基までが後期に属するものであった。後期に増加する古墳には、中期から継続する墓域に築かれる場合と、新たに墓域を設定し築いていく場合の２種のパターンがある。今回の第55地点は、調査前までは後者のパターンと考えられていたが、今回の調査によって前者のパターンであることが判明した。

今後、第55地点を含め、古墳群内の各古墳の具体的な検討によって、明石川流域の古墳文化が明らかにされるであろう。

西神（せいしん）第90地点遺跡

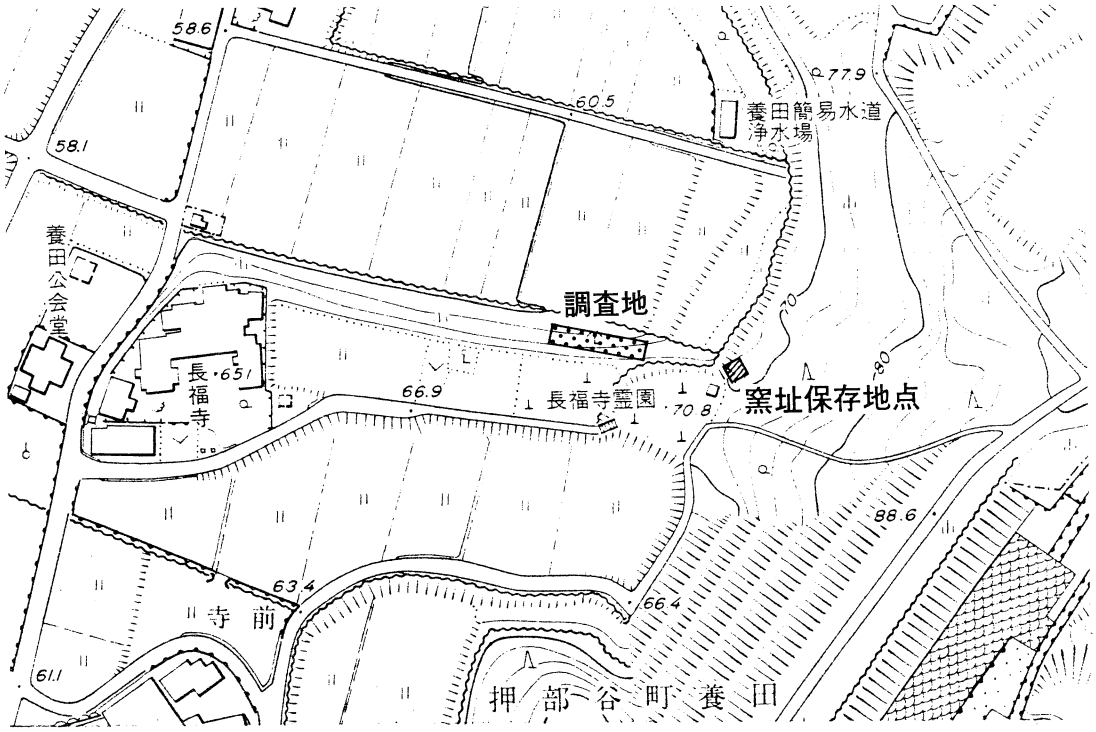
1．調査経過　養田地区連絡道路建設工事に伴って、昭和59年に11世紀ないし12世紀初頭の須恵器窯址１基を発見し、西神90地点遺跡と名付けた。

昭和60年度にも同連絡道路建設工事が計画され、それに先立って同様の窯址やその他の遺構の存在を確認するため試掘調査を行った。しかし、水田部分は圃場整備時にかなり深くまで掘り下げられており、また段丘斜面も畑地等で削平されている部分が多く、明確な遺構は確認できなかった。そのため工事時に再度立会による調査を行った。この立会時の重機による旧耕作地の掘削中に、窯壁片、焼土とともに古墳時代後期の須恵器片が見つかった。このため、緊急に発掘調査を行った。

2．調査の概要

i）遺　構

窯　址　窯壁片等の出土により、窯址の存在が予想された斜面を調査した結果、窯壁片、須恵器等が出土する層は近世以降に耕地造成のために土を盛った層であることが判った。この盛土を地山まで約0.4～1.8m掘り下げたが、窯址は発見されなかった。ただし、窯壁や須恵器の出土はある程度のまとまりを示しているため、調査地のすぐ斜面上方（南側）にかつて窯跡が存在していたが、耕地造成時に破壊されたものと考えられる。



fig, 16　第90地点調査地位置図　1：2,500

ＳＴ01　　窯壁片、須恵器片が集中して出土する地点の西方約８ｍの地点の盛土を除去した層で、木棺墓を１基検出した。墓址は西方に張出した段丘の北側斜面の中程、斜面がやや緩やかになった所に築かれている。掘形の長さ約310㎝、幅115㎝、木棺の長さ250㎝、幅60㎝を測る。棺内には副葬品等は発見されず、また調査後埋め戻され、地下保存されるため掘形は完掘せず、幅15㎝の断ち割り調査のみを行ったが、その際も遺物は出土しなかった。このため、この遺構の正確な時期は不明であるが、墓壙が掘られている層は、上記の窯址のものと思われる須恵器を包含する層であること、墓壙と棺の全長が比較的長く、副葬品を全く持たないことから窯の作られた時期以降さほど降らない時期にこの墓は築かれたと考えられる。

ⅱ）遺　物　　窯址に関する遺物は、窯体自体が消滅しており、灰原も検出されなかったため量は少ない。器種として坏が最も多く、その他高坏、甕、壺等が出土している。坏以外は量がほんのわずかで、小片のため図示できるものは少ない。坏に関して見ると、坏身は口径12㎝前後で、たちあがりは短い。坏蓋は体部と天井部との境を区別する明瞭な稜は見られず、口径14㎝～10㎝程度である。内面にかえりを持つものはない。坏に関しては、田辺編年のＴＫ209型式と考えられる。

古墳時代の遺物の他にも盛土中より59年度に調査した窯と同時期（中世初頭）の須恵器埦も出土している。また地山直上の層より弥生時代中期の弥生土器が数片出土している。

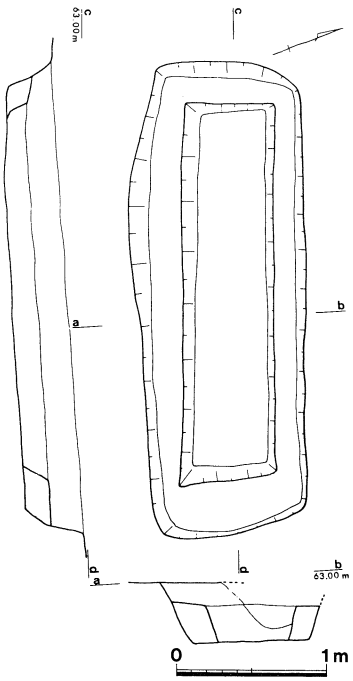


fig. 17　ＳＴ01平面・断面図

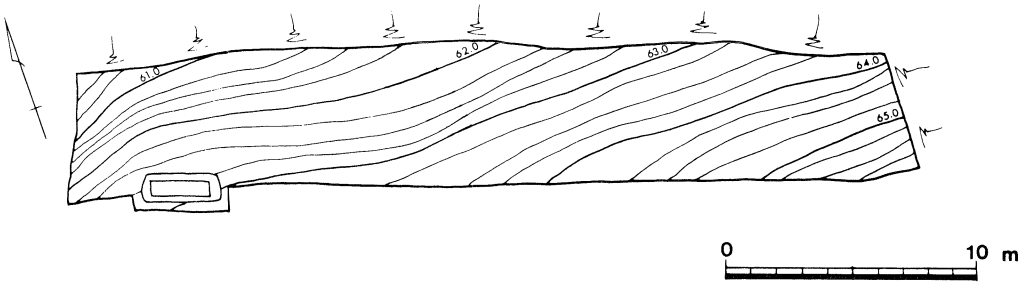


fig. 18　調査地平面図

fig. 19
調査地全景(北から)

fig. 20
調査地全景(西から)

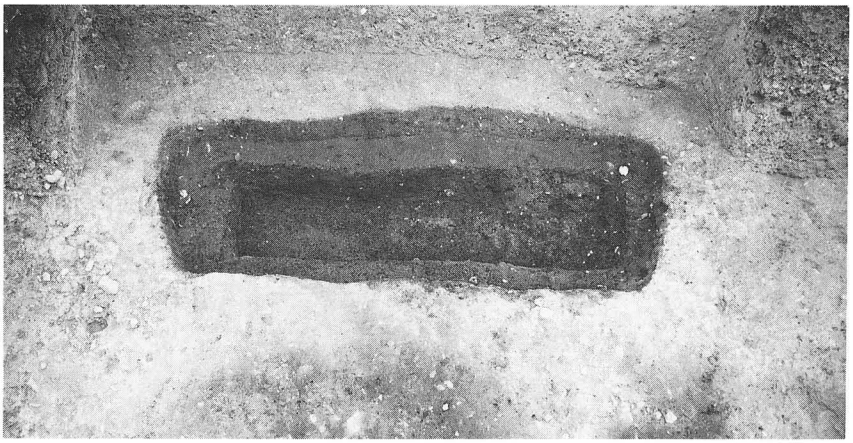


fig. 21
ＳＴ01(北から)

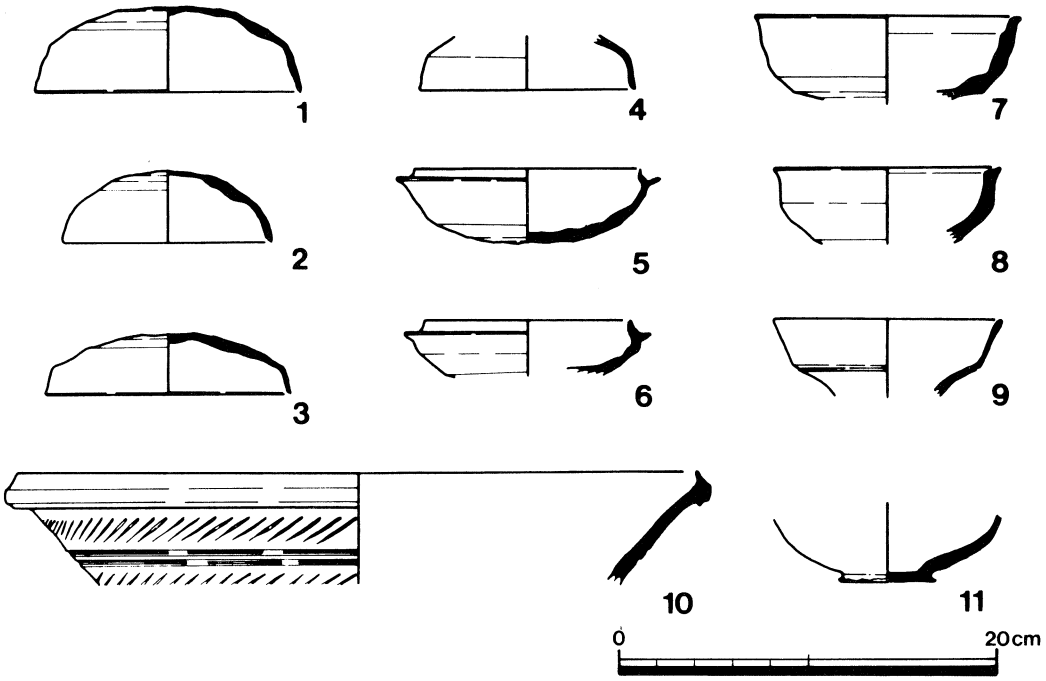


fig. 22　出土須恵器実測図

3．まとめ

今回の調査では窯体は確認されなかったが、古墳時代の窯址が存在していたことは確実である。明石川流域におけるこの時期の須恵器窯址としては明石川右岸の西区押部谷町和田にある七曲り古窯址があげられるのみで、左岸で見つかったのは90地点が初めてである。時期的には両窯址とも窯体や灰原からの出土遺物でないため、確実なことは判らないが、90地点のほうが、七曲り古窯址よりやや新しい様相を示している。明石川をはさんで、ほぼ同時期に須恵器の生産が行われていたことは、明石川流域における当時の須恵器生産の実態を知るうえでの貴重な資料となる。

ＳＴ01は全く副葬品等を持たない墓であったが、これは地域差を示すのか階層差を示すのかは、この墓址の時期が確定できなかったことと、１基のみ検出されただけのため、現在の時点では断言できない。しかし同様の墓址が今後付近で発見されれば解明されるであろう。なおＳＴ01は埋め戻し、養田連絡道路の下に地下保存している。

また地山直上で弥生時代中期の土器を含む遺物包含層が存在することから、調査地区の東側の丘陵にある養田中の池遺跡がこの付近まで広がっていた可能性がある。

栃木（とちのき）遺跡

1．調査経過　谷口川の河川改修工事計画に伴い、その工事予定地の現況河川にほぼ沿っている部分では試掘調査が不可能であるため、新たに現水田面を掘削する部分について、２ｍ×２ｍのテストピットを５か所設定し、試掘調査を実施した。その結果、２か所の試掘坑で古墳時代・鎌倉時代の遺物が出土し、溝状遺構の一端を検出した。

この結果に基づき、遺構・遺物が埋蔵されている河川予定地内の範囲について、全面調査を実施した。

2．調査の概要　工事影響範囲内を全面調査の範囲として、10ｍ四方のグリッドを組み、掘削を進めた。調査区内の南半は、近年、重機による掘削を受けており、攪乱が著しい状態にあった。さらに、全域が水田造成にあたって削平を受けている。このため、遺物包含層はほとんどなく、遺物の約８割は遺構内の出土である。

ｉ）遺　構　室町時代と推定される用途不明落ち込み（ＳＸ01）、土器溜（ＳＸ02）、土坑（ＳＫ01～ＳＫ04）、谷口川旧河川を検出した。ＳＸ01、02のいずれも調査区外へ延びており、全容は知り得なかった。

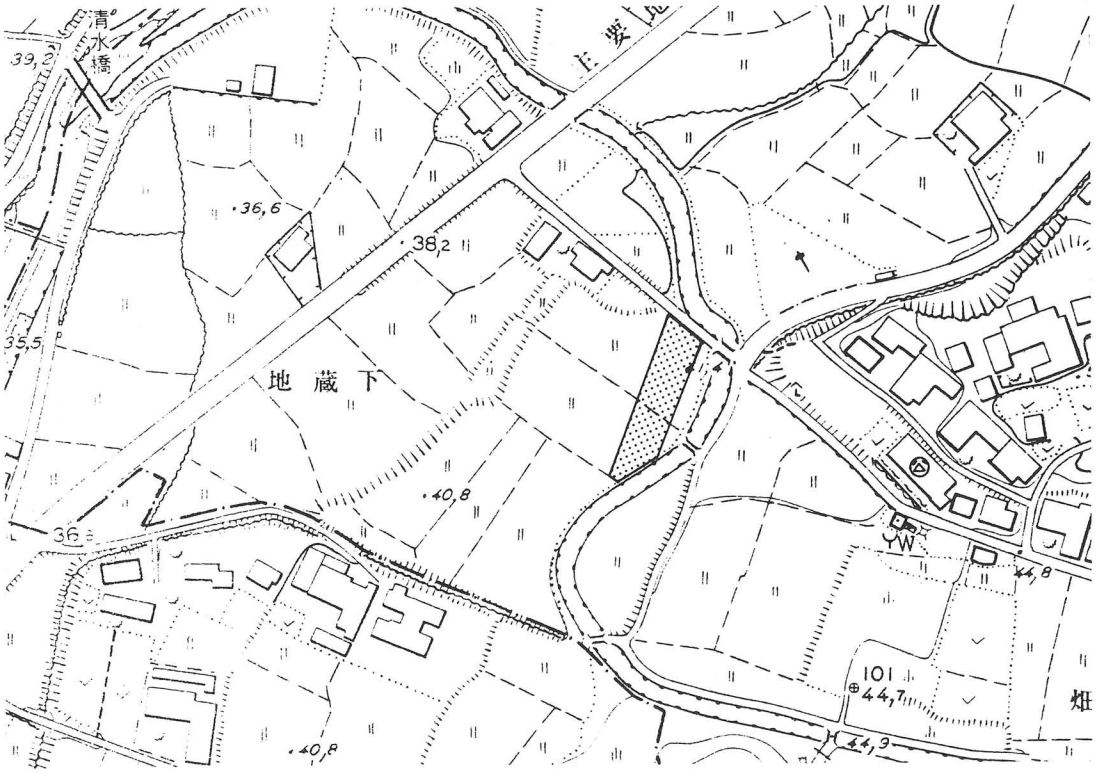


fig. 23　調査地位置図　1：2,500

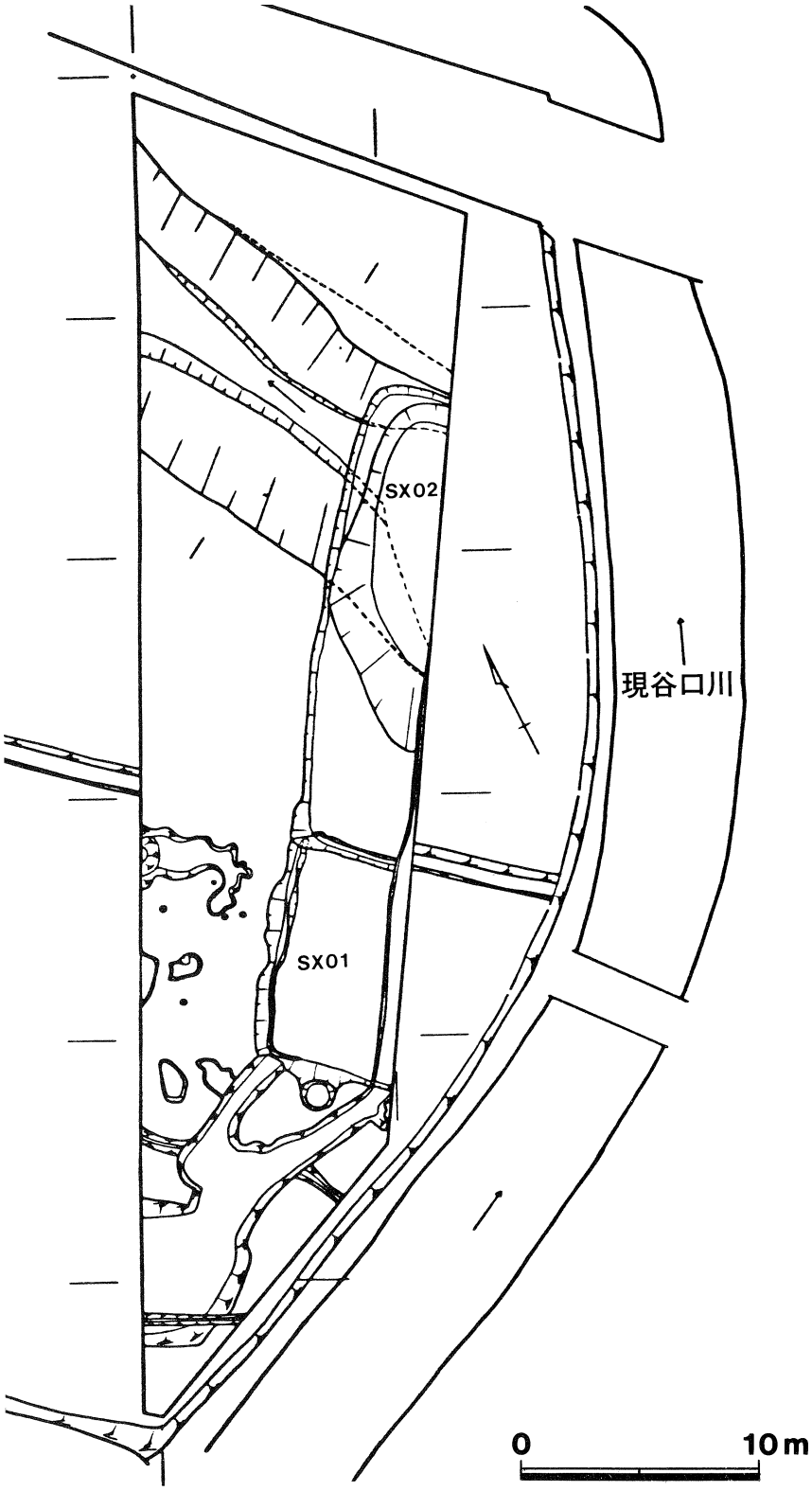


fig. 24　遺構平面図

ＳＸ01　ＳＸ01は、南北8.8ｍ、東西5.6ｍ以上、深さ最大0.5ｍを測る落ち込みで、埋土からは、須恵器、陶器片の小片が若干出土している。床面の西側及び南側の一部では、壁に沿って溝状のくぼみが認められた。さらに、床面には、径５㎝程度、深さ約５㎝の小ピットが無数に穿たれている。この遺構については不明であるが、旧河川に近接することから、川辺に接する何らかの遺構と推定できる。

ＳＸ02　ＳＸ02は、須恵器・土師器・陶器・磁器・瓦質土器・瓦や石が、多量かつ乱雑に投棄されている。これらの出土遺物には、あまり接合関係が認められないことから、遺構を全掘しておらず確定はしがたいが、他の場所で破損したものを旧河川内の凹地に投棄したものと推定できる。

各土坑は、大半が深さ0.1ｍ程度しかなく、遺物も出土していない。これらの時期については、ＳＸ01、02と相前後するころと推定できる。しかし、弥生時代あるいは古墳時代に属する可能性もある。

旧河川は、ＳＸ02との関係から考えて、室町時代前半にはすでに埋没している。その堆積は、下層がシルト層、上層は砂礫層と分けることができる。シルト層の一部は遺物を含むが、その大半は遺物未確認である。砂礫層からは、弥生時代中期後半、古墳時代中期～後期の遺物がまとまって出土している。

fig. 25
調査地全景（南から）

fig. 26　ＳＸ01(北から)

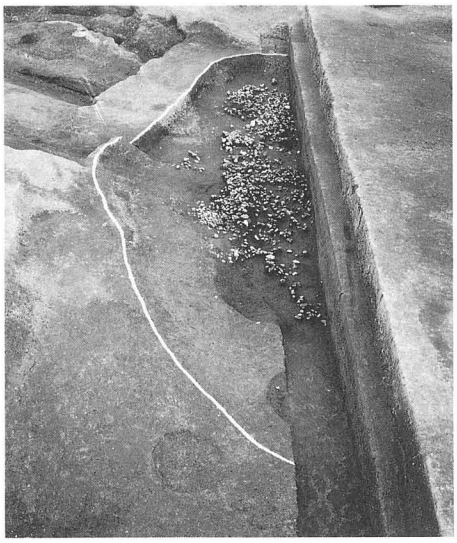


fig. 27　ＳＸ02(南から)

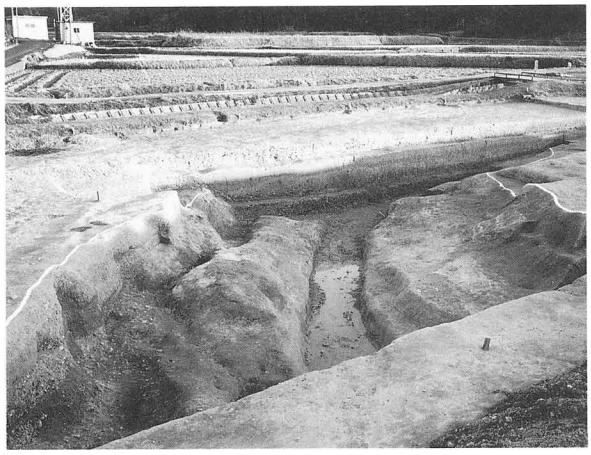


fig. 28　旧河道(西から)

fig. 29　ＳＸ02遺物出土状況(北から)

ⅱ）遺　物　　弥生土器は、中期後半に属する数点の小片が旧河川から出土している。同じく旧河川から古墳時代中期の土師器壺・甕・高坏が、旧河川の北肩付近の黒色粘土層からまとまって出土している。壺・甕の口縁部の形態から、５世紀中葉を中心とする時期に属すると推定できる。砂礫層からは、古墳時代後期の須恵器坏や土師器甕などが出土している。最終埋土からは、鎌倉～室町時代の土師器片が出土している。

土器溜（ＳＸ02）からは多量の遺物が出土している。その多くは陶器で、備前焼の大甕、すり鉢、古瀬戸焼の壺、その他丹波焼など各種のものが認められている。須恵器では、捏鉢、甕があり、瓦質の脚付火舎なども出土している。磁器では龍泉系の碗が若干出土している。

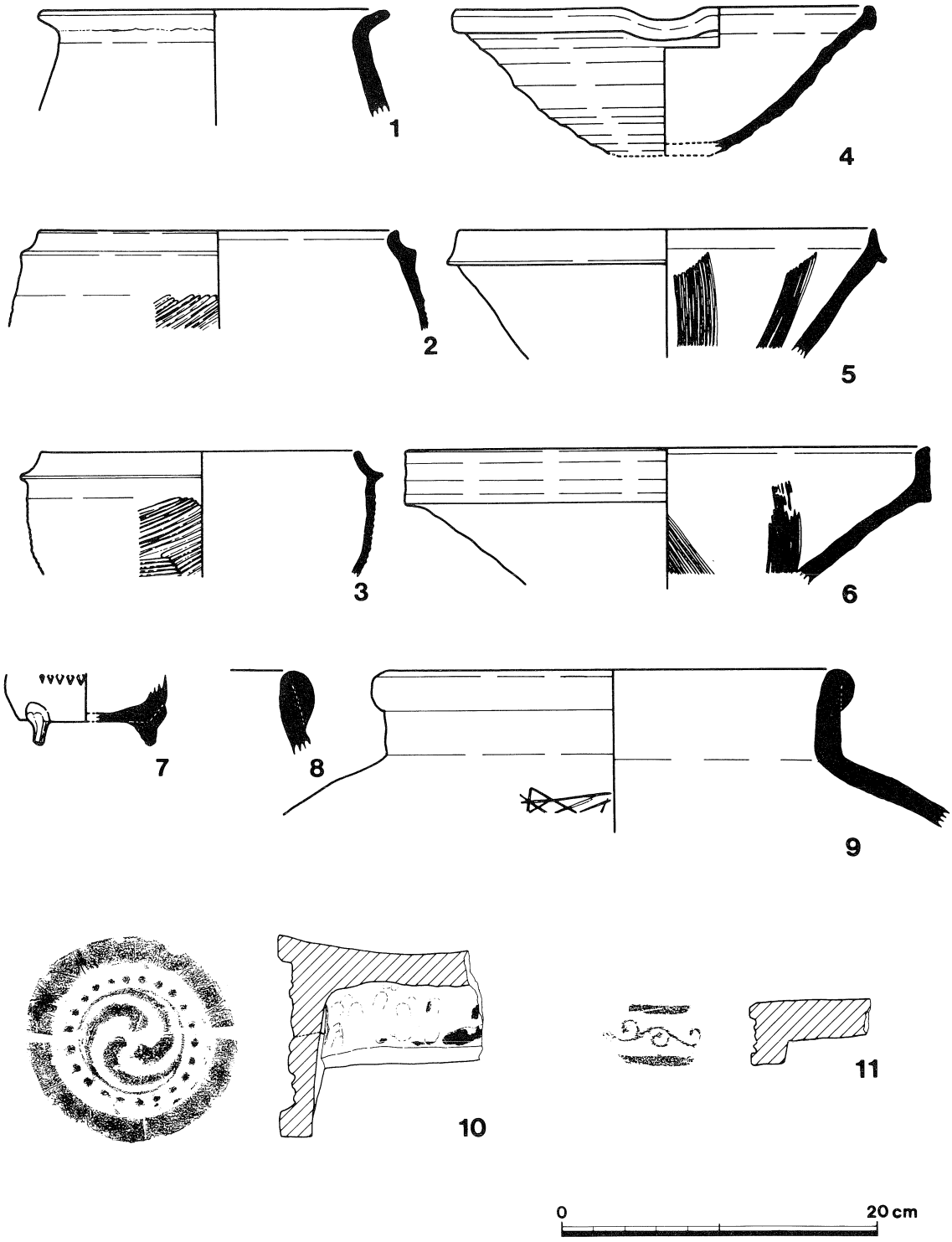


fig. 30　ＳＸ02出土遺物実測図

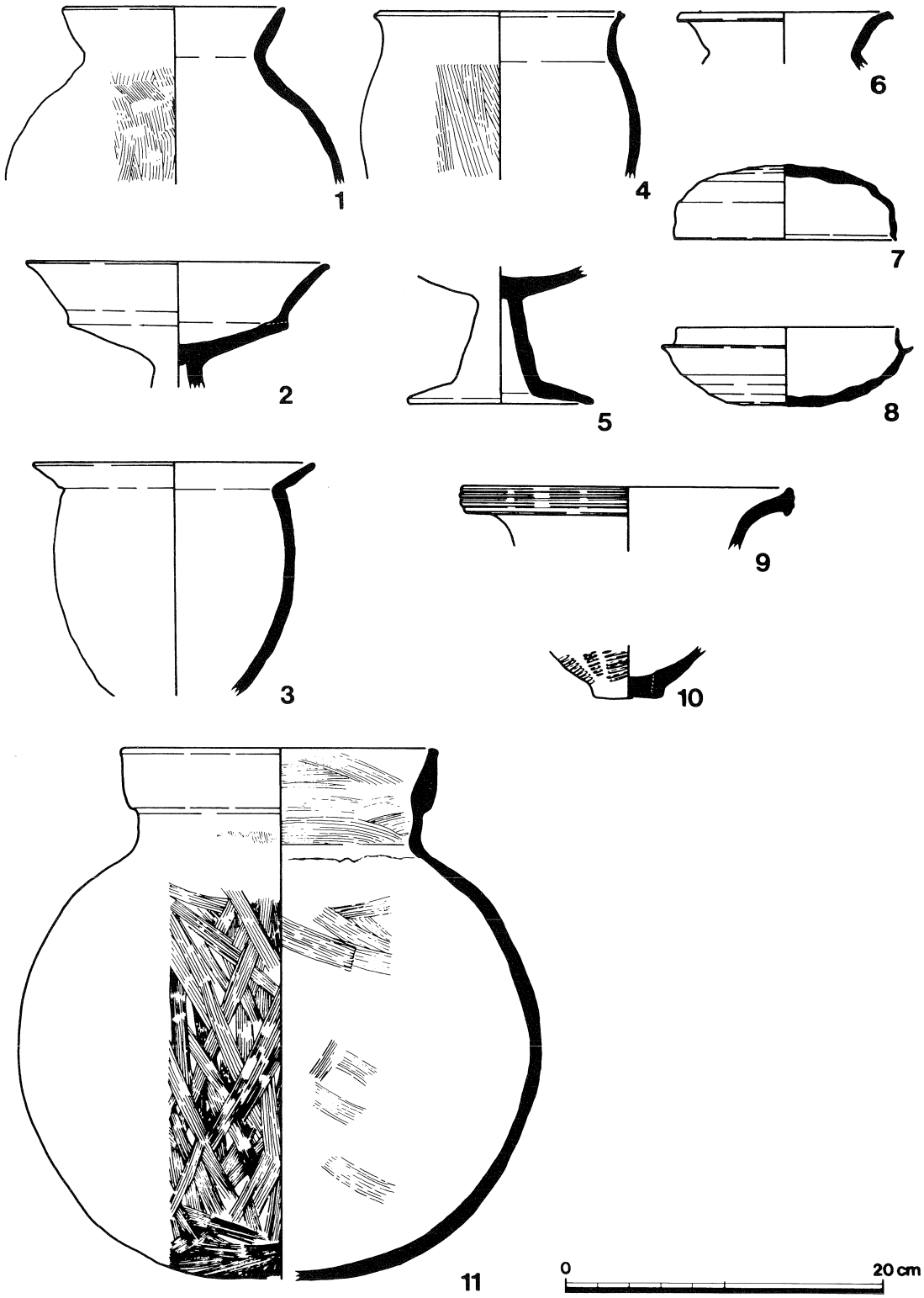


fig. 31　旧河川内出土遺物実測図

久留主谷遺跡（くるすだに）

1．調査経過　昭和59年度の試掘調査の際に弥生土器が出土し、同時代の集落又は墓址が存在すると予想された。しかし、その範囲は未確定であった。今年度の調査着手前に、すでに南に伸びる尾根が切断され、調査範囲の確定に支障をきたした。とりあえず、残存する尾根に１～15トレンチを設定し、遺物・遺構の広がりの確認を試みた。その結果、Ｂ－６区付近で須恵器が出土し、Ｃ－７区で土坑１基を検出した。これらの状況から、南側斜面及び頂上部付近を全面発掘することになった。

2．調査の概要

ｉ）遺　構

ＳＢ01　丘陵頂部のＣ－１区で、竪穴住居址１棟を検出した。住居址の平面形は、隅円方形を呈している。長径約3.5ｍ、短径約3.1ｍ、深さは約0.2ｍを測る。床面の中央に１基の土坑をもち、主柱は４本と推定できる。周壁構は、部分的に周るが全周はしない。住居址の埋土から弥生時代中期後半に属する甕形土器１個体が床面から少し浮いて出土している。この他の遺構としては、試掘調査の際に検出した土坑１基を検出した。形状は、1.9ｍ×1.0ｍの不整楕円形で、深さ0.3ｍを測る。

fig. 32　調査地位置図 1：5,000

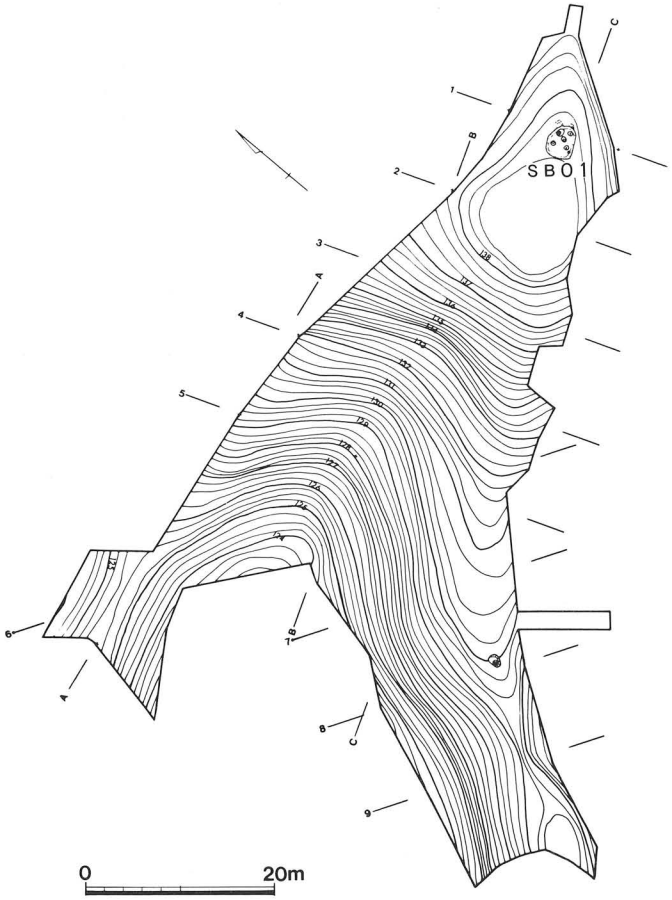


fig. 33　調査地平面図

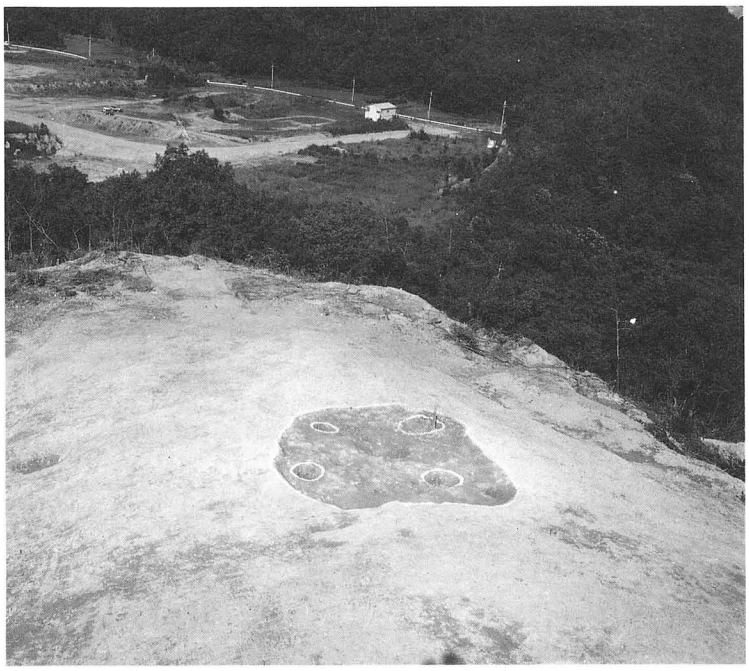


fig. 34　S B01(西から)

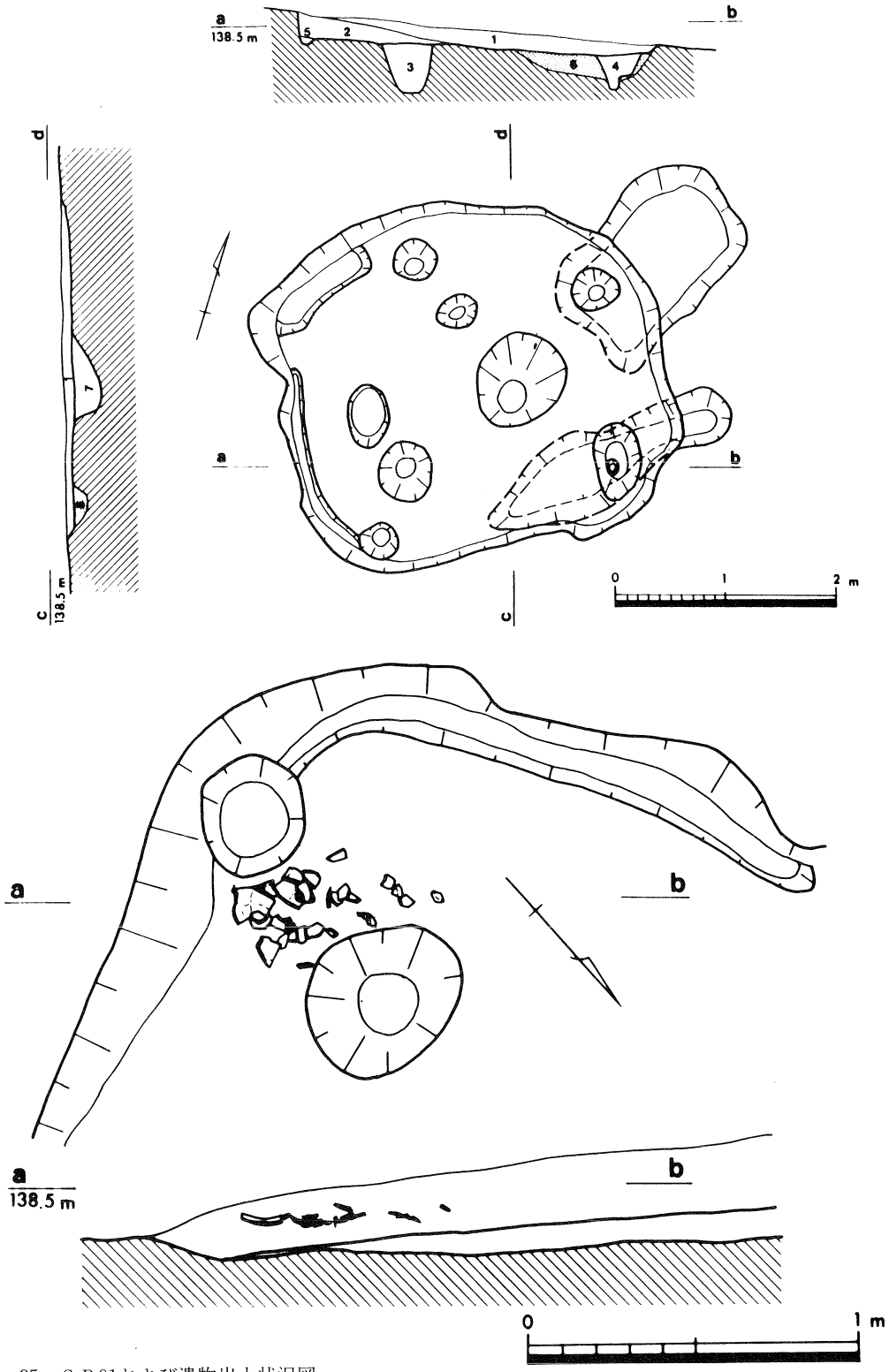


fig. 35　ＳＢ01および遺物出土状況図

ⅱ）遺　物

弥生土器

ＳＢ01から出土した弥生土器は、胴部最大径付近で欠損しているが、推定器高27cm、口縁部径15cm、最大径22.7cm、底径6.3cmを測る。残存形の諸特徴は、中期後半の要素と一致している。口縁端部を少し上下に拡張し２条の擬凹線をめぐらせている。外面は、底部から最大径の肩部までヘラミガキを施している。肩部より頸部にかけては、ハケ目調整のままである。最大径には、約１cm間隔でハケ目原体による烈点文を全周させている。内面は、頸部直下までハケ目調整である。住居址内からは、他の遺物はなく、その周辺からもほとんど出土していない。

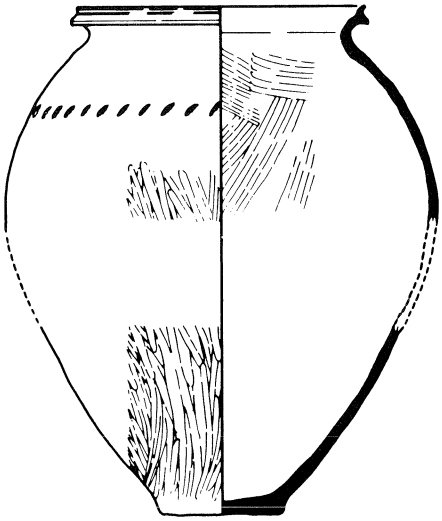


fig. 36　ＳＢ01出土弥生土器実測図 Ｓ＝1/4

須恵器

その他鎌倉時代の須恵器が、Ａ－６区・Ｂ－６区周辺で出土している。その大半は、埦の小片である。これらの遺物は、遺構に伴う出土ではなく、斜面に流れ込んで堆積したものである。

３．まとめ

今回の調査によって検出した竪穴住居址は、伊川流域では最上流の弥生時代の遺構である。この少し下流の対岸の小寺地区には、丘陵上に弥生時代中期の集落址である頭高山遺跡がひろがっている。頭高山遺跡では、丘陵斜面から約16棟の住居址などを検出している。このように、久留主谷遺跡と頭高山遺跡は同様の時期・立地でありながら、後者は斜面に住居址が群在しているが、前者では斜面に遺跡はなく、丘陵頂のみに唯一棟の住居址が存在するという相違がある。これまでの明石川流域で発掘調査された丘陵上の集落は、いずれも頭高山遺跡のように住居址が群在しており、久留主谷遺跡のように住居址が単独で存在する例はない。この事例をどう解釈するかは、伊川流域平野部や丘陵部での発掘調査の進展による、弥生時代後半の集団領域等の解明によって位置付ける必要がある。

2．新方（しんぽう）遺跡（東方（とうほう）地点）－第３次調査－

1．はじめに

新方遺跡東方地点は明石川と伊川の合流点の北東約700ｍに位置し、新方遺跡の中では、その南端に位置する遺跡である。

新方遺跡東方地点の調査は、昭和59年度に２次の調査を実施しており、今回の調査は３次目である。これまでの調査では南流する弥生時代中期の河道（幅５～18ｍ、深さ1.2ｍ）が検出されており、河道内からは多数の木製品、自然遺物が、弥生土器や石器とともに出土している。

今回の調査も昨年に引き続き、都市計画道路玉津鳥羽線築造事業に伴う事前調査で、第１次調査地点の南側東西45ｍ、南北6.5ｍの範囲を発掘調査した。

fig. 37　調査地位置図 1：5,000

2．検出遺構

河　道

１次調査、２次調査で検出されていた河道は今回の調査で二方向に分岐する流れとして検出された。便宜上、東側の河道を河道１と呼び、西側の河道を河道２と呼ぶことにする。

fig. 38
河道全景（西から）

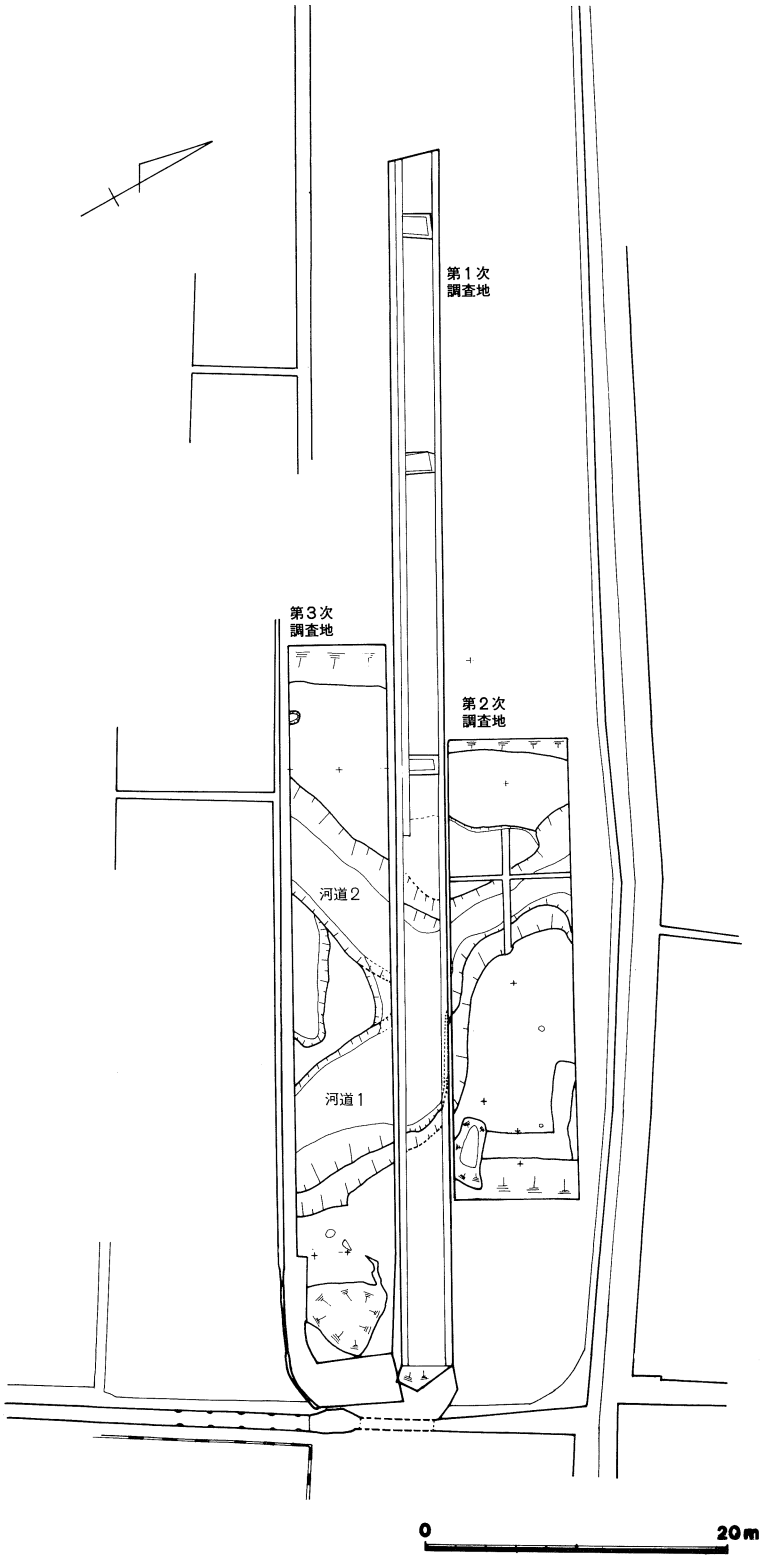


fig. 39　調査地平面図

河道１　河道１は、幅（上面で8.5m、底で4.5m）、深さ1.4mの南流する河道で、河底の砂礫層から弥生時代前期（Ⅰ様式）の土器が出土している。河底から35cmの厚さで灰青色粘質土が堆積した後、弥生時代中期初頭（Ⅱ様式）の川の流れが始まる。河道内には、黒色粘質土と灰色砂が交互に堆積し、断続的に水が流れていたことを示している。中期初頭段階の堆積土の厚さは約50cmあり、木製品、自然遺物、流木などが出土した。

河道２　河道２は、河道１から分岐し南西へ流れる、幅（上面６m、底4.5m）、深さ1.4mの河道である。河道１の東肩が水に浸蝕されて緩やかな傾斜をもつのに対し、河道２の西肩は傾斜が急である。

河底からは、河道１同様、弥生時代前期の土器が出土した。弥生時代中期初頭の堆積土は、厚さ50cmあり、その中から土器、碧玉原材、木製品、自然遺物、流木等が出土した。

弥生時代中期中葉（Ⅲ様式）以降になると、河道１の東肩と河道２の西肩の間の東西2.5mの範囲内を川が流路を変えながら流れていた。中期中葉から後期に至るまでは、この間が河道であったと思われる。河道内からは、叩き石、擦石、弥生土器片が出土している。弥生時代後期になると、この河道もついに埋まり、河は他へ流路を変えたと考えられる。

土坑（ＳＫ01）　トレンチ西端近くで検出された検出長0.7m、幅0.8m、深さ0.18mの土坑で、土坑内には炭、灰がつまっていた。炭に混って中期中葉の弥生土器片が出土した。

溝（ＳＤ01）　トレンチ東端付近で検出された長さ２m、幅0.4m、深さ0.2mの溝で溝内からは後期の弥生土器片が出土した。

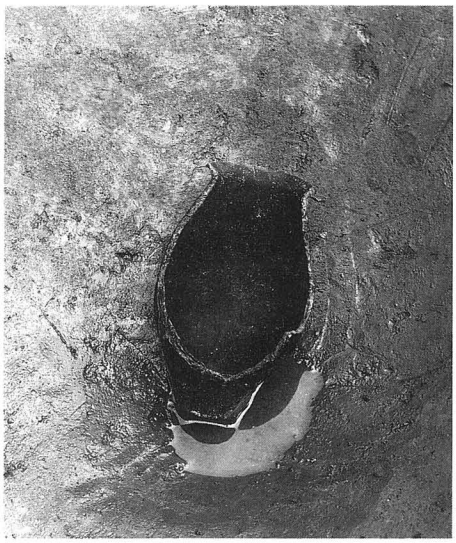


fig. 40　河道内壺出土状況

fig. 41　河道内甕出土状況

fig. 42　河道１遺物出土状況平面図

３．出土遺物

Ａ．河道１　河道１からは、弥生土器、石器、木製品、自然遺物、流木が出土している。このうち流木を除く代表的な遺物を紹介しよう。

a．弥生土器　弥生土器は、中期初頭に属するもので、壺、甕、台付鉢、甑等の器種がみられる。図49－３は頸部から体部上半にかけて７帯の櫛描直線文を施している。器高24cm、口径11cm、底径7.5cmを測る壺である。甕には、摂津型、播磨型、紀伊型の三種類の甕がみられる。図49-５は紀伊型甕を転用した甑で器高35cm、口径29cm、底径9.5cmを測る。

b．石　器　サヌカイト製の石庖丁が出土している。直線刃半月形態の石庖丁で長さ10cm、幅４cm、厚さ0.5cmを測る。

c．木製品　河道内からは、多種類の木製品が出土している。農具には広鍬と又鍬がある。広鍬は頭部と刃部が折損しているが、残存長26cm、残存幅15.5cm、厚さ0.5cmを測り、船型隆起には着装された柄が残存している。又鍬は１本の刃部しか残存していないが、本来は３本以上の刃をもつものであろう。

織機には、緯打具と綜棒が出土している。綜棒は長70cm、幅５cmで両端の棒状突起の長さは10cmを測る。緯打具も長さ70cm、幅５cmを測る。

容器には高杯、鉢が出土している。鉢は２点出土しており、そのうち１点は隅円方形の容器で、短側辺に紐通しの穴をもつものである。たて13.7cm、横12cm、残存高４cmを測る。

自然遺物には、サルノコシカケ、桜の皮、ヒシ、オナモミ、ムクロジ、ヒョウタン、ドングリ（カシ類）、アシ、昆虫の羽根等が出土している。特に、桜の皮は多数出土しており、木製品の緊縛のために用いられたことを示している。

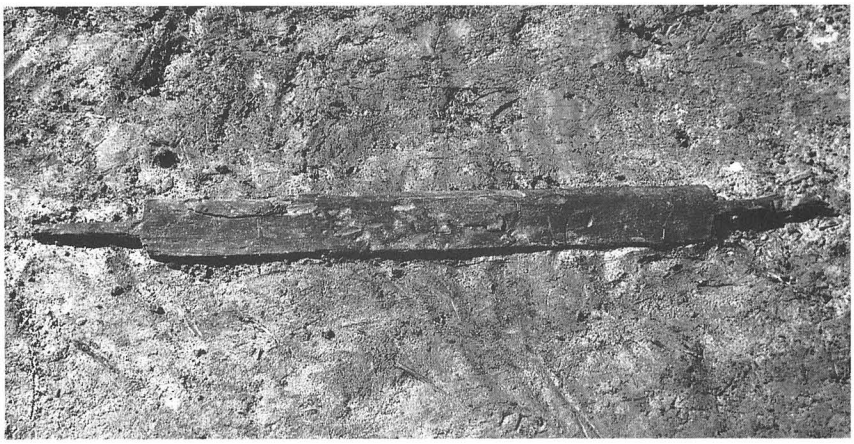


fig. 43
綜棒出土状況

fig. 44
緯打具出土状況

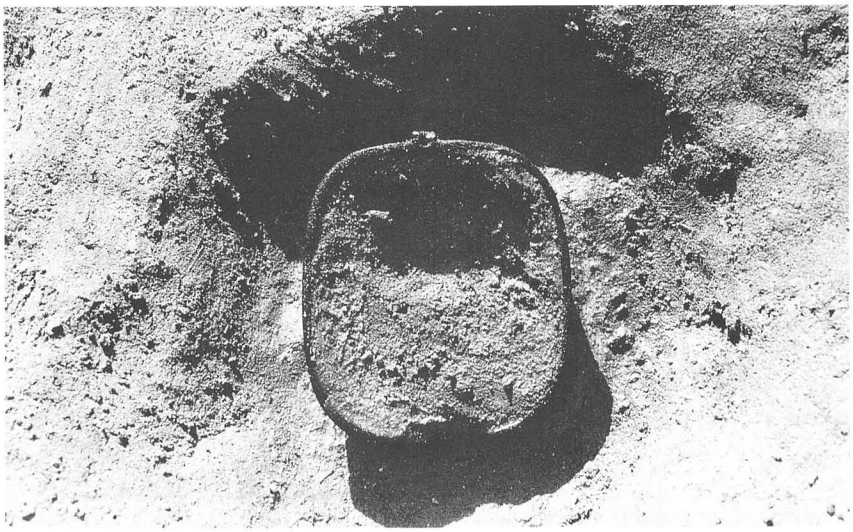


fig. 45
木製鉢出土状況

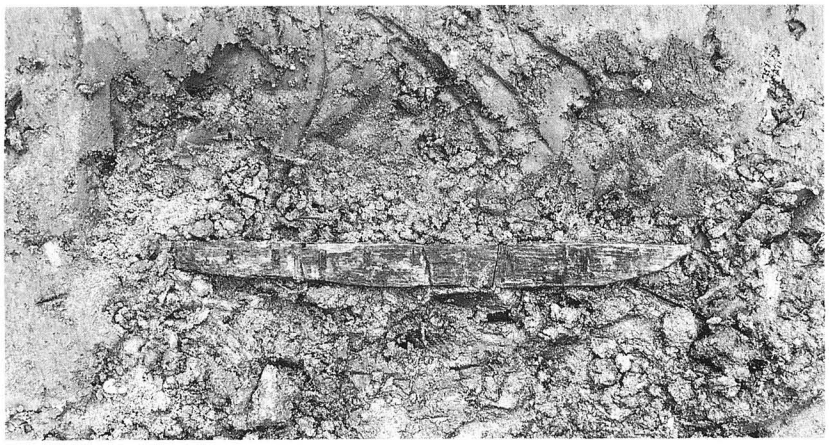


fig. 46
刀形木製品出土状況

fig. 47
又鍬(左)出土状況

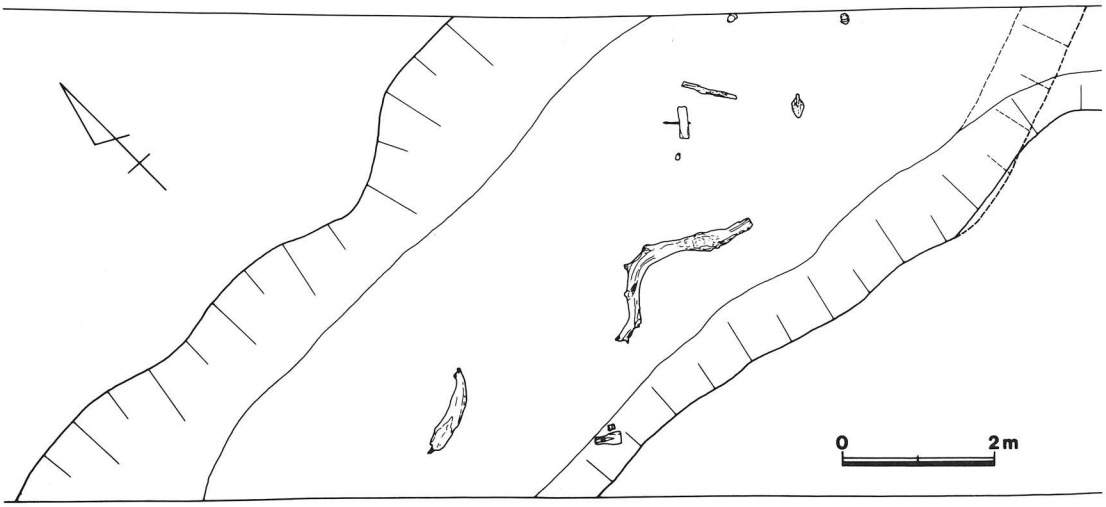


fig. 48　河道 2 遺物出土状況平面図

B．河道2　　河道２からも河道１同様、弥生土器、石器、木製品、自然遺物、流木が出土している。ただし、河道１に比べその出土量は少ない。

a．弥生土器　　甕、壺、甑等の器種がみられる。図49－１は頸部に４帯の櫛描直線文と１帯の櫛描波状文を施し、口縁内端部を同じく、櫛描波状文と直線文で飾る壺である。口径17cm、残存高11cmを測る。

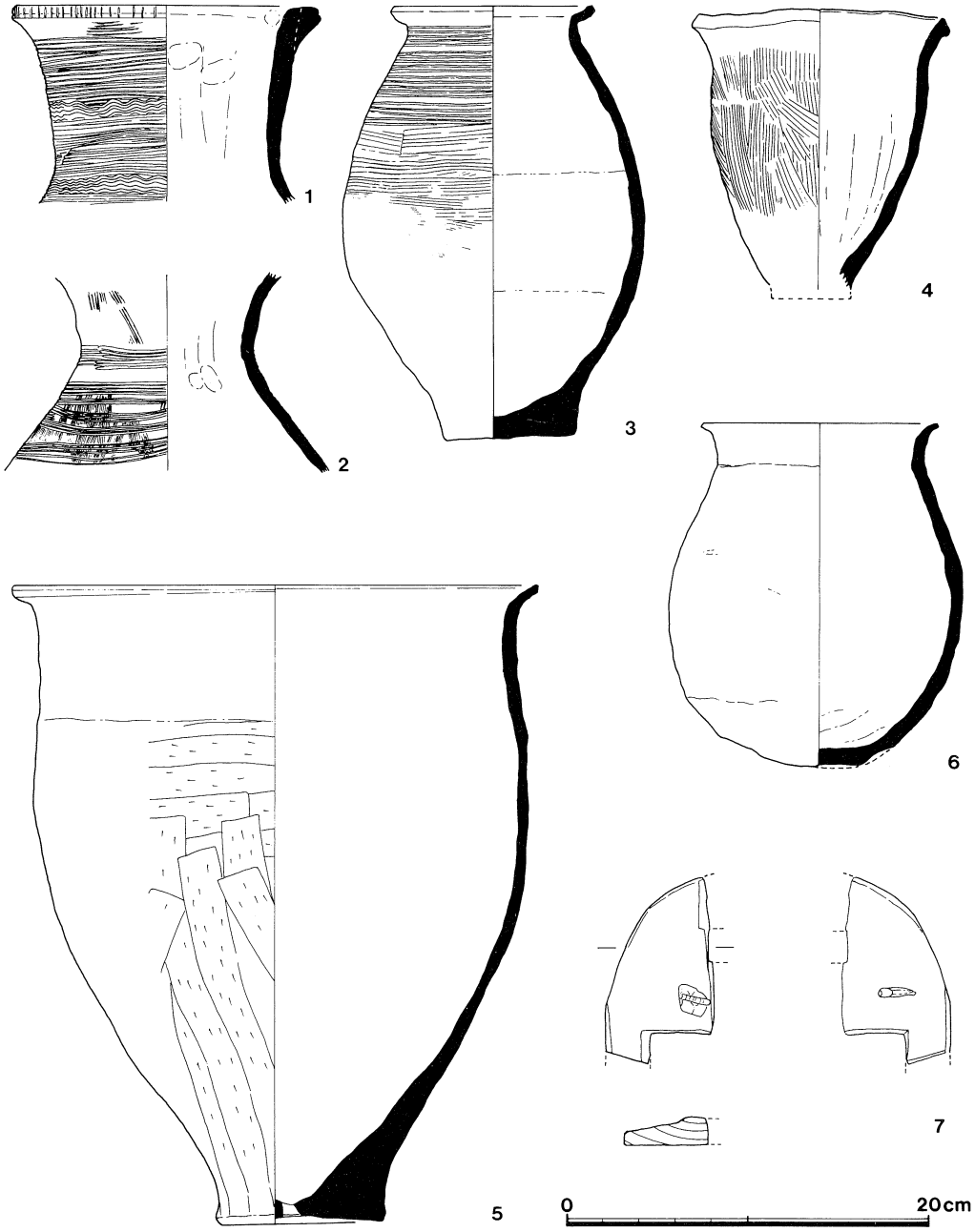


fig. 49　河道内出土遺物実測図

b. 石　器　石器には碧玉の原材が出土している。

c. 木製品　木製品には広鍬、鋤未製品、刀状木製品が出土している。広鍬は、全長33cm、頭部幅９cm、刀部幅15cm、厚さ1.8cm、船型隆起の着柄角度は55度を測る。鋤未製品は片面を加工し、片面は板割りのまま放置した着柄鋤の未製品である。長さ33cm、刀部幅８cm、厚さ1.6cmを測る。刀状木製品は板材を刀状に加工したもので、長さ約41.5cm、幅3.5cm、厚さ0.7cm測る。

d. 自然遺物　自然遺物には、オナモミ、ムクロジ、ドングリ等が出土している。

C. 河道1、河道2埋没後出土遺物　河道１、河道２が埋没した後の堆積土から弥生時代中期中葉の壺、甕、高坏、甑や叩き石、擦石、弥生時代後期の壺、甕、古墳時代土師器、奈良時代須恵器等が出土している。

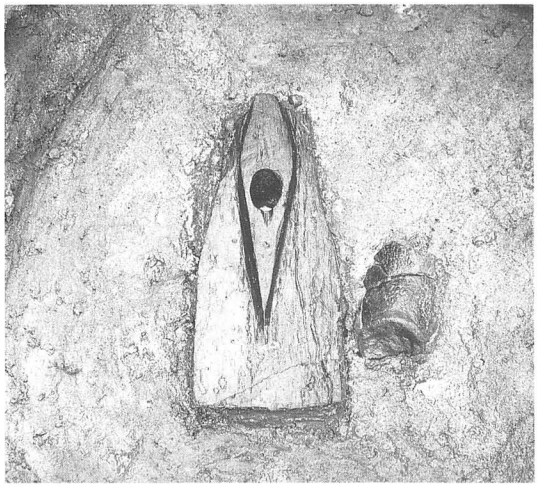


fig. 50　広鍬出土状況

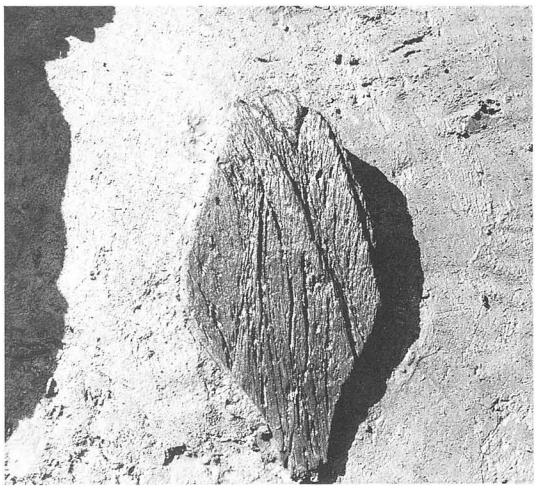


fig. 51　鋤出土状況

4. まとめ

これまで３次にわたって新方遺跡東方地点の調査を実施し、弥生時代の河道が発見された。この河道は、北から南へ流れるが途中で二つに分岐し、一方は南流し、もう一方は南西へと流れている。この河道は、弥生時代前期にはすでに存在したが、中期初頭の段階には、河道１の方が生活の主要な舞台に変わりつつある。中期中葉には、河道２はほぼ埋まり、河道１は僅かに流れていたが、これもすぐに埋まり、中期中葉以降は、河道１と河道２の間が流路となっていたと考えられる。

河道内からは、多種類の豊富な遺物が出土しており、弥生時代に新方遺跡周辺でくり広げられた生活の一端をかいまみることができる。今回の調査で河道の外側に中期中葉の土坑が検出されたが、今後、河道の周辺に弥生時代人の生活の痕跡が発見される可能性は極めて高い。弥生時代人の生活をそのおかれた自然環境とともに考える必要性を知らしめた点で、今回の河道の発見は極めて重要な発見といえる。

3．神出（かんで）・追ノ谷（おいのたに）遺跡

1．はじめに

神出・追ノ谷遺跡は、西区神出町追ノ谷に所在する。雌岡山南西の裾部、標高約115ｍの高位段丘に営まれた圃場に立地する。

周辺に存在する遺跡は、雌岡山の南東の金棒池旧石器出土地や古墳時代後期の前方後円墳がある。また、神出町一帯には、昭和53年度から開始された土地改良事業に伴う発掘調査で、平安時代から鎌倉時代にかけて操業された約30基の窯址とこれに伴う生活址が発見されている。当調査地付近の雌岡山南麓にも数多くの窯址が存在している。

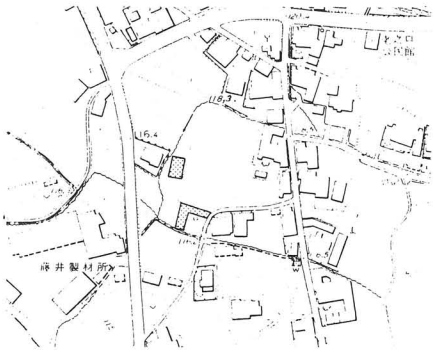


fig. 52　調査地位置図 1：5,000

2．調査方法

調査は、工事によって遺跡が破壊される部分を対象に行った。

調査対象地は、家屋の建つ部分（3トレンチ）、進入路になる部分（1トレンチ）と排水路になる部分（2トレンチ）である。

排水路になる部分は、構造物が遺物包含層上面で納まるため、遺物包含層の一部を発掘調査した。

3．調査の概要

基本層序は、耕土・床土・黄灰色砂泥層・茶褐色砂泥層（包含層）・地山（遺構面）となる。

1トレンチ

1トレンチでは、溝と落ち込み状遺構等が検出された。

ＳＤ01

溝（ＳＤ01）は、やや屈曲しながら西流する溝で、幅0.8ｍ、深さ約0.6ｍで約14ｍ間を検出した。溝内堆積土は、大きく上層と下層に別けられるが、出土遺物からは、時期差を見いだすことができない。また、ＳＤ01から南に分れる細い溝は、灰色砂層が堆積していた。

出土遺物は、須恵器の椀・鉢・甕・壺・窯着した椀・獣脚、それに丸瓦・平瓦・軒丸瓦・軒平瓦の須恵質瓦と土師器椀・白磁である。土師器の出土量は、非常に少ない。

ＳＤ01は、形状から人為的に掘削された流路であると考えられる。

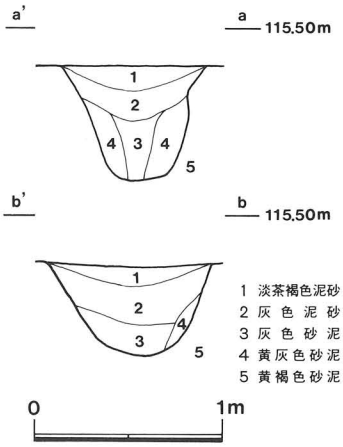


fig. 53　ＳＤ01断面図

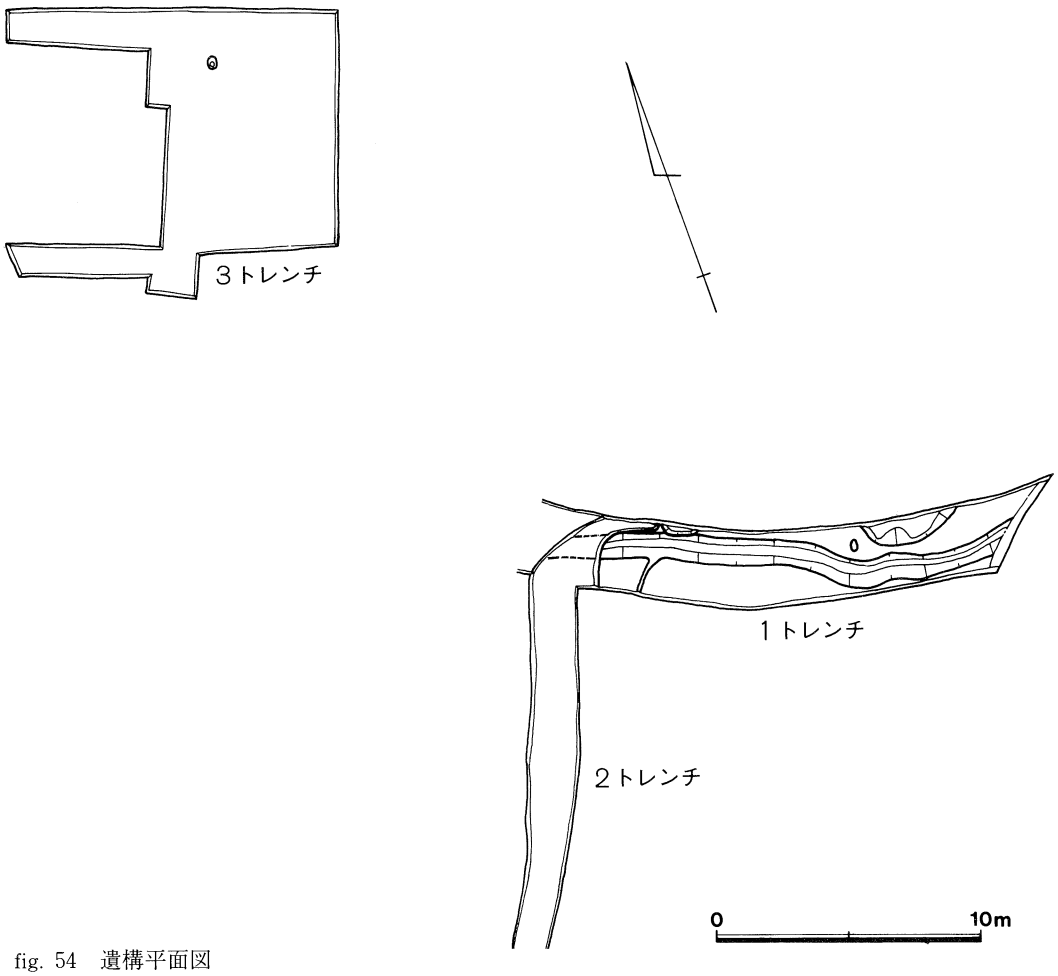


fig. 54　遺構平面図

ＳＸ01　落ち込み状遺構（ＳＸ01）は、調査区外に広がっており、規模は不明である。検出した範囲では、東西の両端が深く（深さ約30㎝）、中央部が高くなっている。遺構内の堆積土は、東側が砂礫で西側が粘土である。遺構は、遺物包含層を切り込んでいるため、遺物包含層やその他の遺構に比べ新しい時期の遺構と考えられる。出土遺物は、須恵器の鉢・甕、平瓦・丸瓦の須恵質瓦と陶器である。

ＳＸ02　ＳＸ02は１トレンチ北辺に検出された遺構で、形状・規模は不明である。出土遺物は、須恵器片・土師器片が出土した。

Ｐ１　Ｐ１は、長径約0.4ｍ、短径約0.25ｍ、深さ約0.3ｍの楕円形のピットである。ＳＸ01・02・Ｐ１は、調査区の制約のため、性格を明らかにすることはできなかった。

２トレンチ　２トレンチは、遺物包含層の一部の調査であったため、遺構の存否を確認していない。須恵器の鉢・甕、平瓦・土師器少量が出土した。

3トレンチ　3トレンチは、遺物包含層が20～30cm程度存在していた。遺構面は、東から西へやや下がって検出された。遺物包含層から須恵器の鉢・椀・甕・壺・平瓦・丸瓦、少量の白磁片・青磁片が出土した。

検出した遺構は、ピット1箇だけであった。部分的に拡張を行い、ピットが他にも存在していないかを確認したが、検出することはできなかった。

ピット内より須恵器の椀・鉢・壺の破片と少量の土師器が出土した。

4．まとめ

出土遺物の多さや窯着した椀などの出土は、当調査地の近接した場所に窯址が存在している可能性の高いことを示しているものと考えられる。また、ＳＤ01はその窯の操業に密接な関わりをもつ溝であると考えられる。

追ノ谷遺跡は、出土した遺物から13世紀代のものと考えられる。

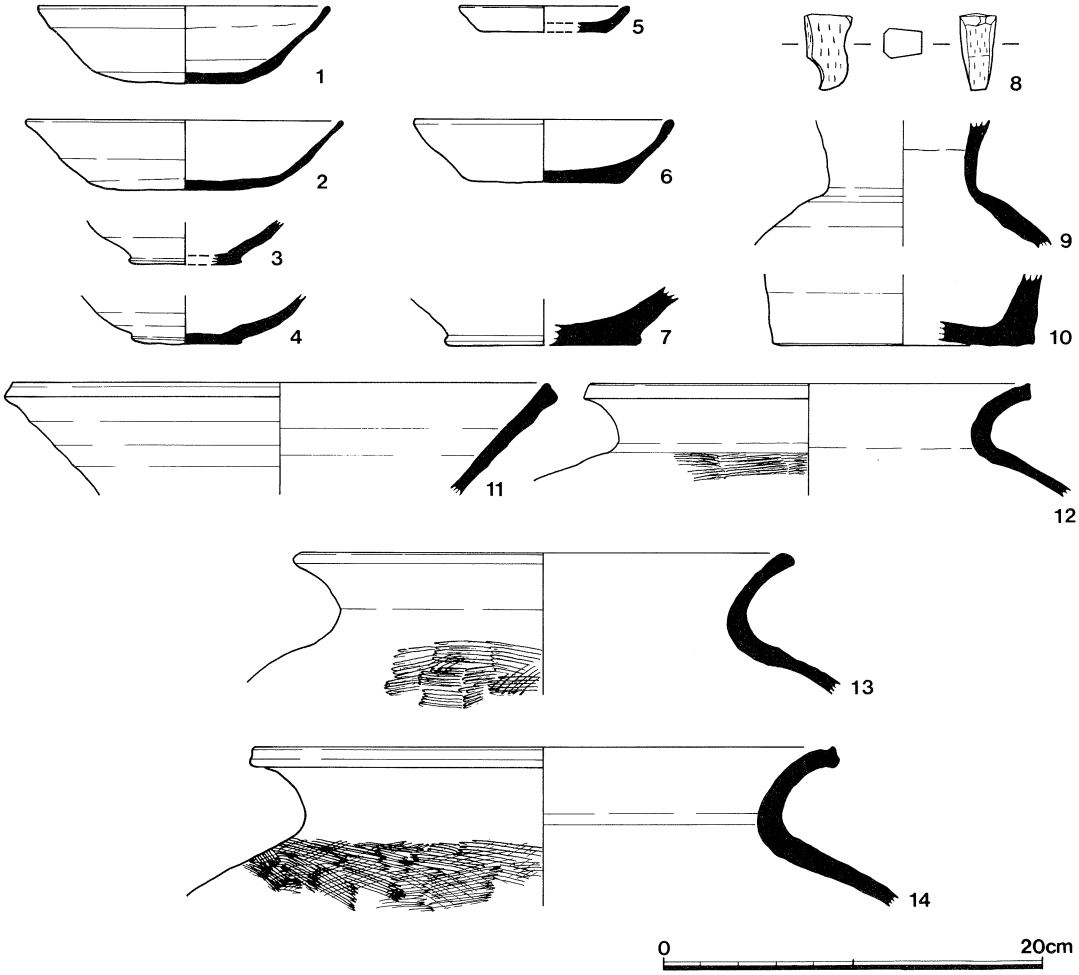


fig. 55　ＳＤ01・包含層出土遺物

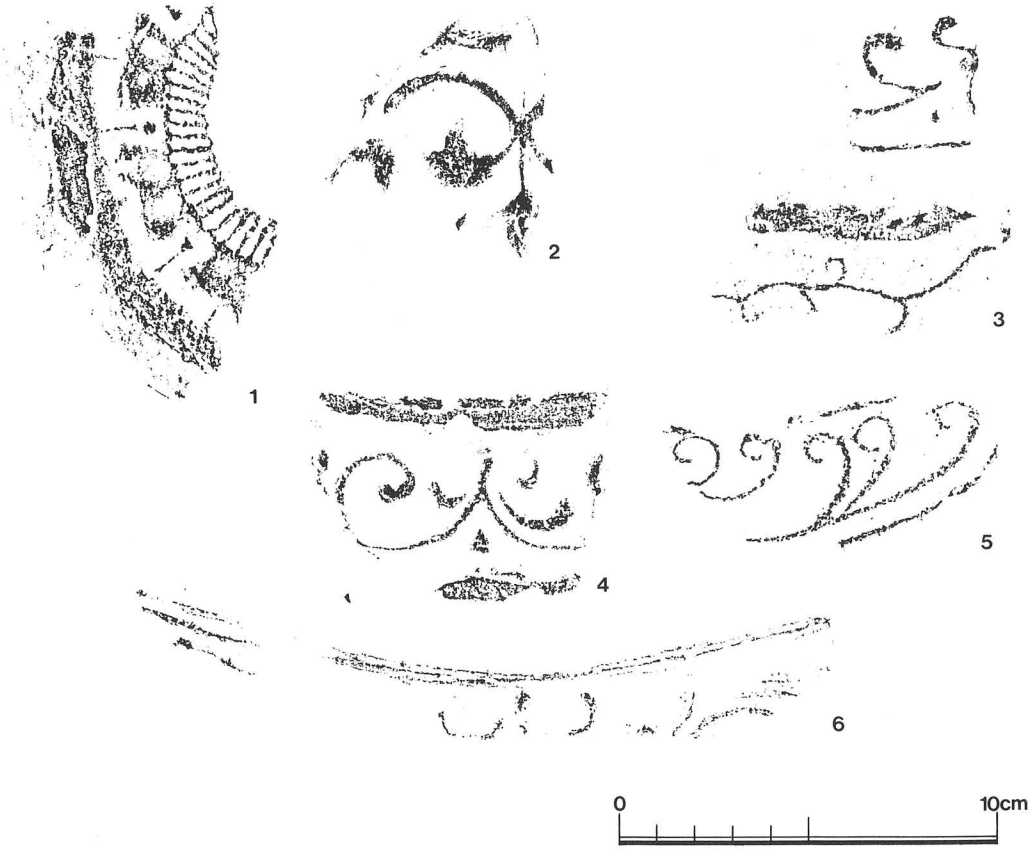


fig. 56　ＳＤ01出土軒瓦拓影

fig. 57　1トレンチ
全景(西から)

4．神出（かんで）・東（ひがし）遺跡

1．はじめに

神戸市西区神出町地域における土地改良事業は、昭和53年度から実施され、現在も継続中である。これらの事業に先立って、埋蔵文化財の発掘調査も継続して実施し、多大な成果をおさめてきている。

この一連の発掘調査の中で特筆すべきは、平安時代後期～鎌倉時代前半の須恵器や瓦を焼成した窯址群ならびに、これに関連したと考えられる集落址等を確認してきたことである。その広がりは、雌岡山西南麓を中心に神出町東・南・北・田井の地域に広範囲に広がっている。本来は、100基に及ぶ窯が築かれていたものと推定されている。

そして、神出古窯址群で焼かれた須恵器は、瓦とともに京都の寺院を中心として供給されたことは言うまでもなく、東は関東地方、西は北九州地方まで流通していたことが明らかとなっている。

2．調査の概要

本年度工事施工地区は、昭和58・59年度に試掘調査を実施し、東地区で遺跡の存在が確認されていた。今年度の施工に先立ち、再度試掘調査を実施、この成果に基づき、農政局と協議した結果、計画の変更を行ってもなお保存不可能な排水路敷およびパイプライン敷についてのトレンチによる発掘調査を実施した。便宜上、現在の各圃場毎にトレンチ番号を付している。

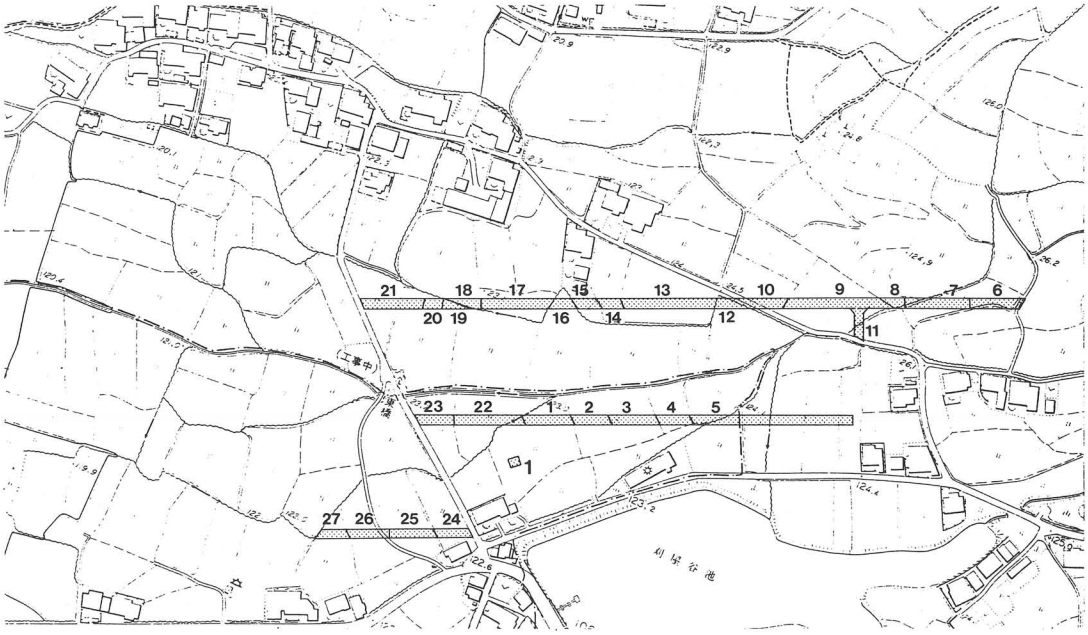


fig. 58　調査トレンチ位置図　1：5,000

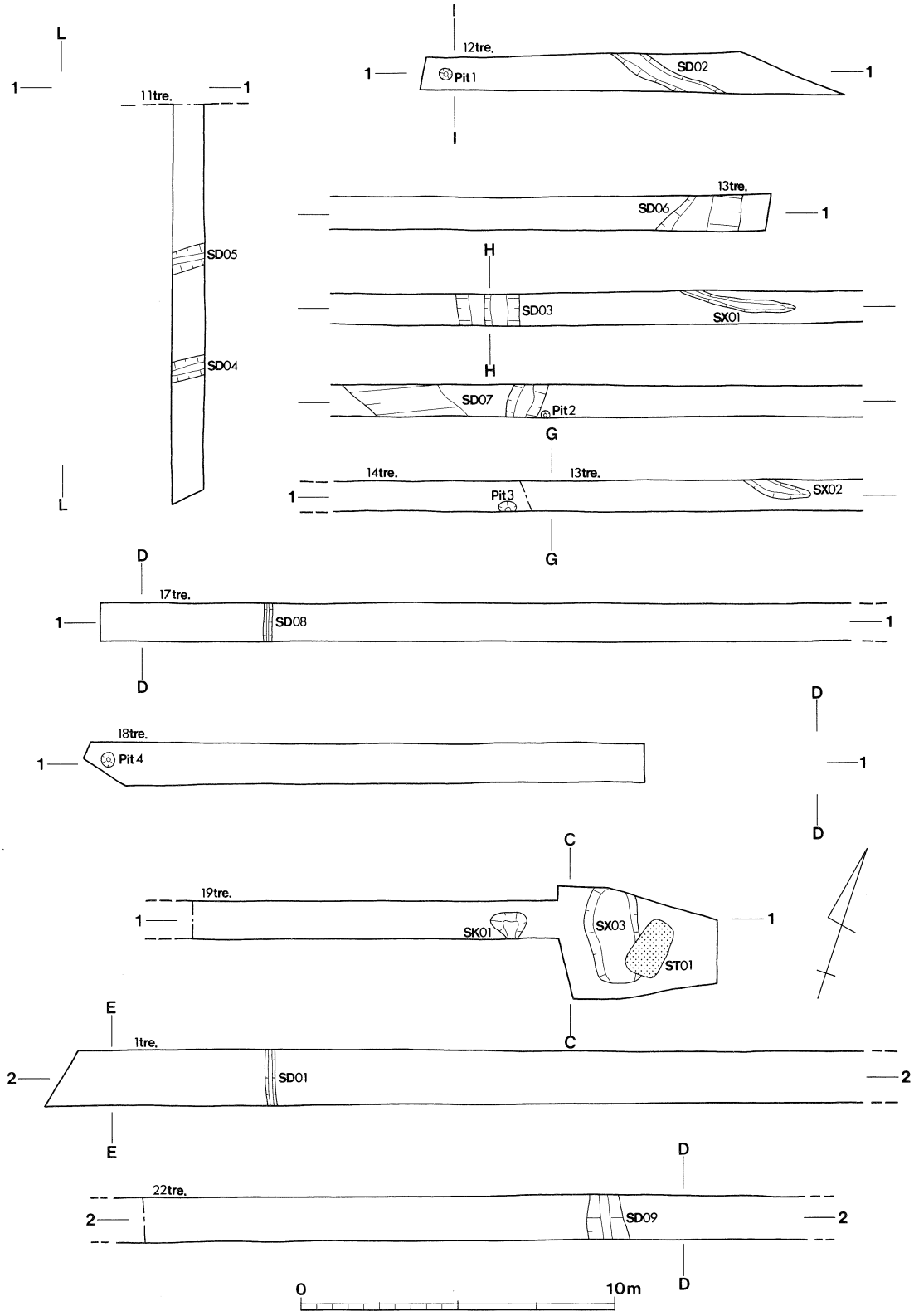


fig. 59　各トレンチ遺構平面図

1～5・22～23トレンチ
ＳＤ01
ＳＤ09

幅1.2～1.8ｍ、総延長約200ｍに及ぶトレンチである。検出した遺構には、1トレンチの西端の溝（ＳＤ01）と22トレンチの中央よりやや西の溝（ＳＤ09）がある。両者とも埋土内には遺物が少ないものの、鎌倉時代前半のものと考えられる。

6～21トレンチ

幅1.0～1.6ｍ、総延長約430ｍのトレンチである。6トレンチから9トレンチの中程までは後世の削平を受けており、遺構は全く確認できなかった。各トレンチにおいて検出した遺構は下記のとおりである。

11トレンチ　溝2（ＳＤ04・05）
12トレンチ　溝1（ＳＤ02）、ピット1（Pit 1）
13トレンチ　溝3（ＳＤ03・06・07）、ピット1（Pit 2）
　　溝状の落ち込み（ＳＸ01・02）
14トレンチ　ピット1（Pit 3）
17トレンチ　溝1（ＳＤ08）
18トレンチ　ピット1（Pit 4）
19トレンチ　木棺墓1（ＳＴ01）、土坑（ＳＫ01）
　　不定形の落ち込み1（ＳＸ03）

ＳＤ07

13トレンチ西半部で検出した溝で、幅6.1ｍ、深さ18cmを測る。東端部が最も深く、西側へ次第にその深さを減じている。出土遺物には須恵器・土師器がある。特に、須恵器の坏が多い点が指摘できる。

Pit 4

18トレンチの西端で検出したもので直径40cm、深さ25cmを測る。掘形内より口縁部を若干欠損した須恵器埦を1点検出している。

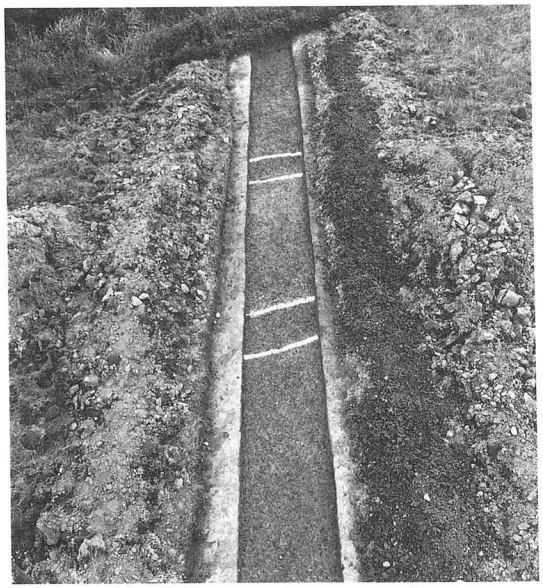


fig. 60　11トレンチ全景(北から)

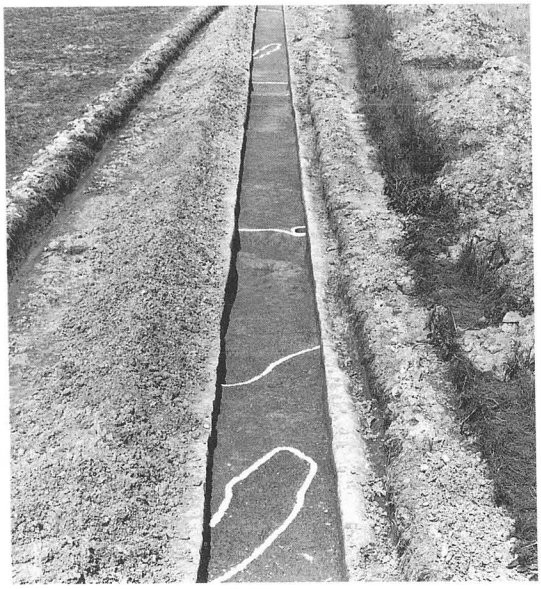


fig. 61　13トレンチ全景(西から)

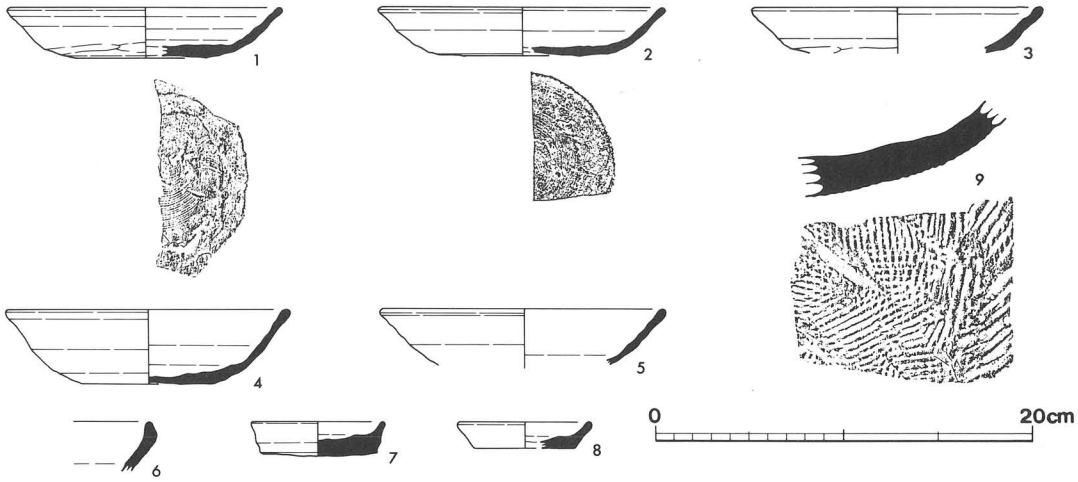


fig. 62　ＳＤ07出土遺物実測図

ＳＴ01（木棺墓）　19トレンチの東端で検出したものである。

ＳＴ01は２段に掘り込まれた長軸171㎝、短軸109㎝、深さ49㎝を測る隅丸長方形の墓壙の壙底に最大長92㎝、最大幅34㎝の木棺を納めた木棺墓である。木棺は西南隅を欠く底板と最大高約７㎝を測る側板から成り、小口板・蓋板は遺存しない。底板と側板の組み合わせは、底板の長側縁部よりやや内側に側板を立てる単純な形であったと考えられる。なお、鉄釘は確認していない。

出土遺物には、底板上の西側縁ほぼ中央で切先を南方に向けて置かれた鉄製刀子と、その上に重なった人骨の断片、底板の北端中央付近で底板より約４～10㎝浮いた状態の漆製品、墓壙２段目北端で壙底より約15㎝浮いた状態の龍泉窯系青磁碗、１段目墓壙底北西隅部の須恵器埦がある。これらの出土遺物の特徴から13世紀初頭の埋葬であると考えられる。

なお、ＳＴ01は調査完了後現地保存が不可能な状況であったため、切り取り保存の処置を図った。

fig. 63　18トレンチ全景（東から）

fig. 64　19トレンチ全景（東から）

fig. 65
ＳＴ01(東から)

fig. 66
ＳＴ01(南から)

fig. 67
ＳＴ01・漆製品出土状況

fig. 68　発泡ウレタンによる
ＳＴ01切り取り作業

fig. 69　同

fig. 70　同

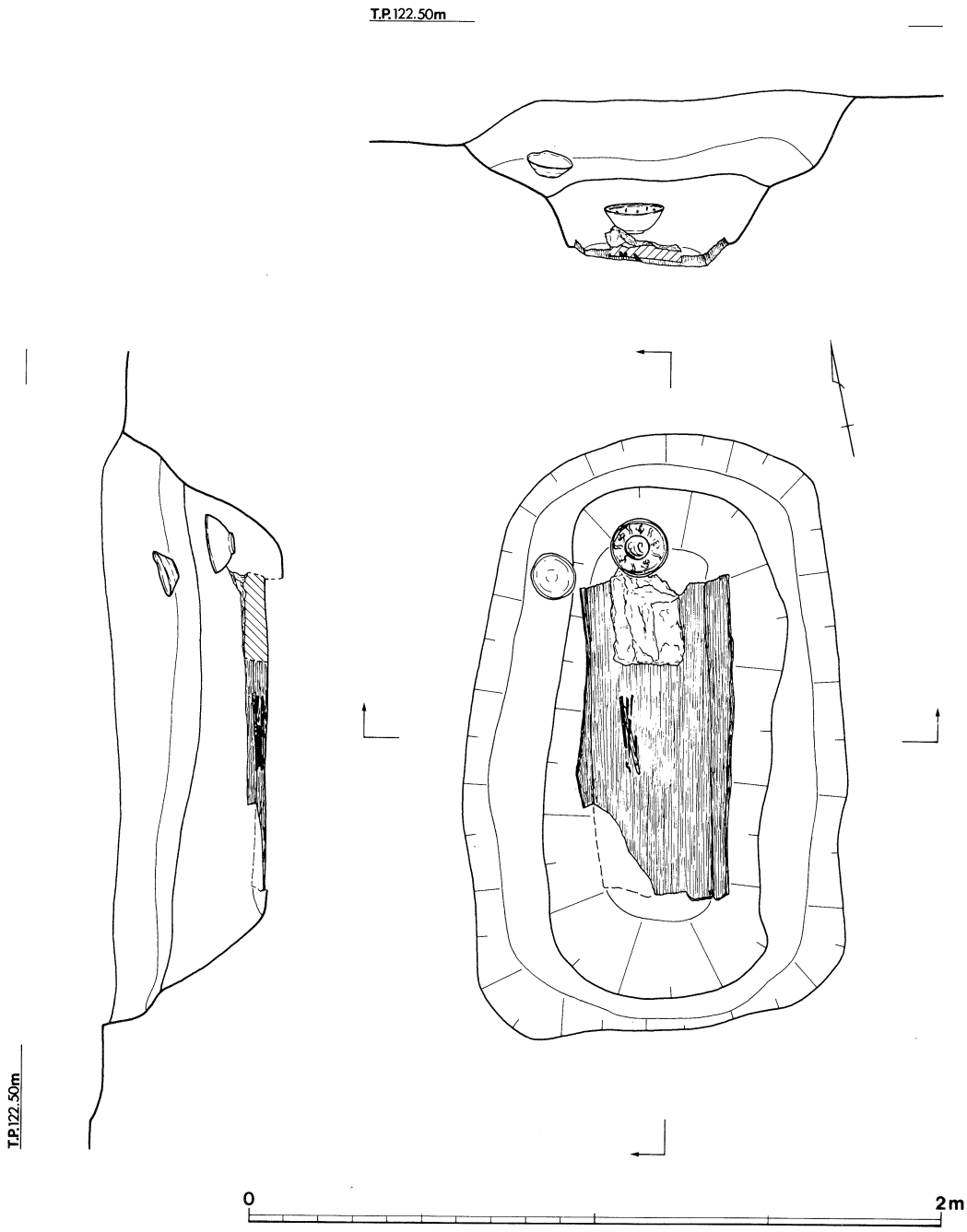


fig. 71　ＳＴ01平面・断面・立面図

ＳＸ03　　ＳＸ03はＳＴ01によって東南隅部を切られた不整形な楕円形の土坑で北端は検出できなかった。長軸3.2ｍ以上、短軸1.6ｍ、深さ10cmを測る。埋土は黒灰色炭灰層が中心で最上層の淡灰色細砂層より須恵器鉢を検出している。

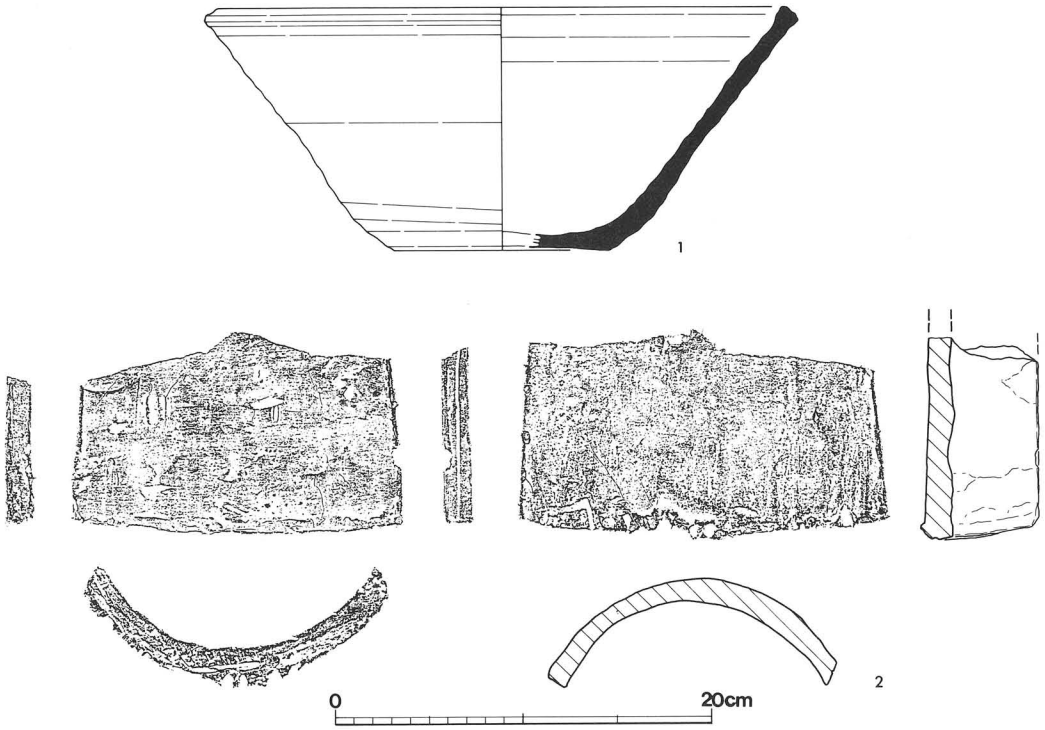


fig. 72　ＳＸ03出土遺物実測図

24～27トレンチ　幅1.2ｍ、総延長100ｍに及ぶトレンチである。遺構は全く確認できず、遺物包含層より多量の須恵器・土師器を確認しただけである。

試掘坑１

ＳＸ04　当初設定した試掘坑において炭灰の堆積とその側縁部に焼土を確認したため拡張した試掘坑である。ＳＸ04は長軸3.62ｍ、短軸1.48ｍを測る隅丸長方形の土坑の北側辺に突出部にもつ遺構である。床面の北から⅔程度は燃焼による酸化作用が顕著である。埋土は黒灰色の炭灰層であり、この埋土中より外面に平行叩きが明瞭な須恵器甕の破片を15片程度検出している。

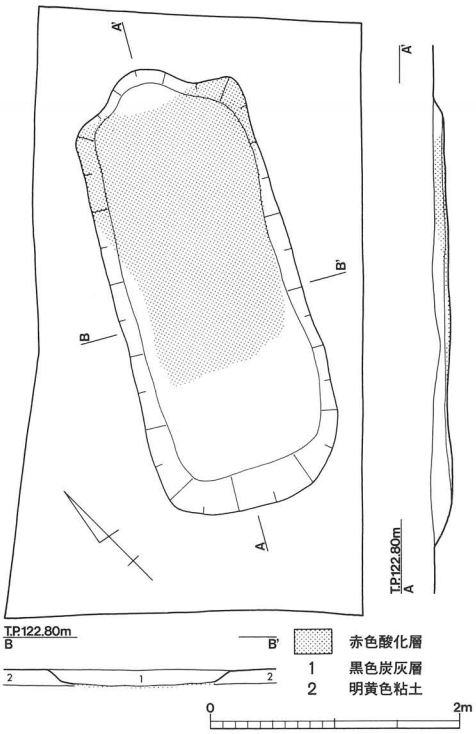


fig. 73　ＳＸ04　平面・断面図

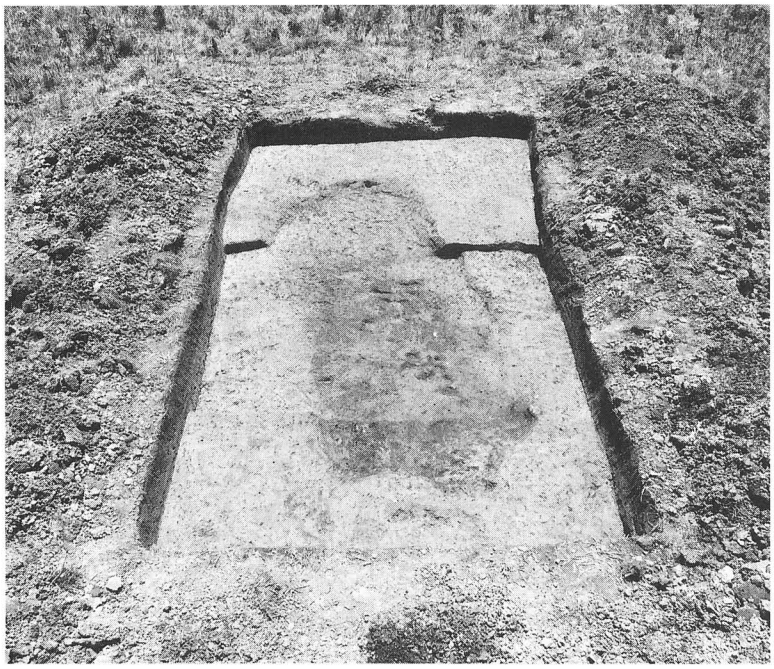


fig. 74　ＳＸ04検出状況

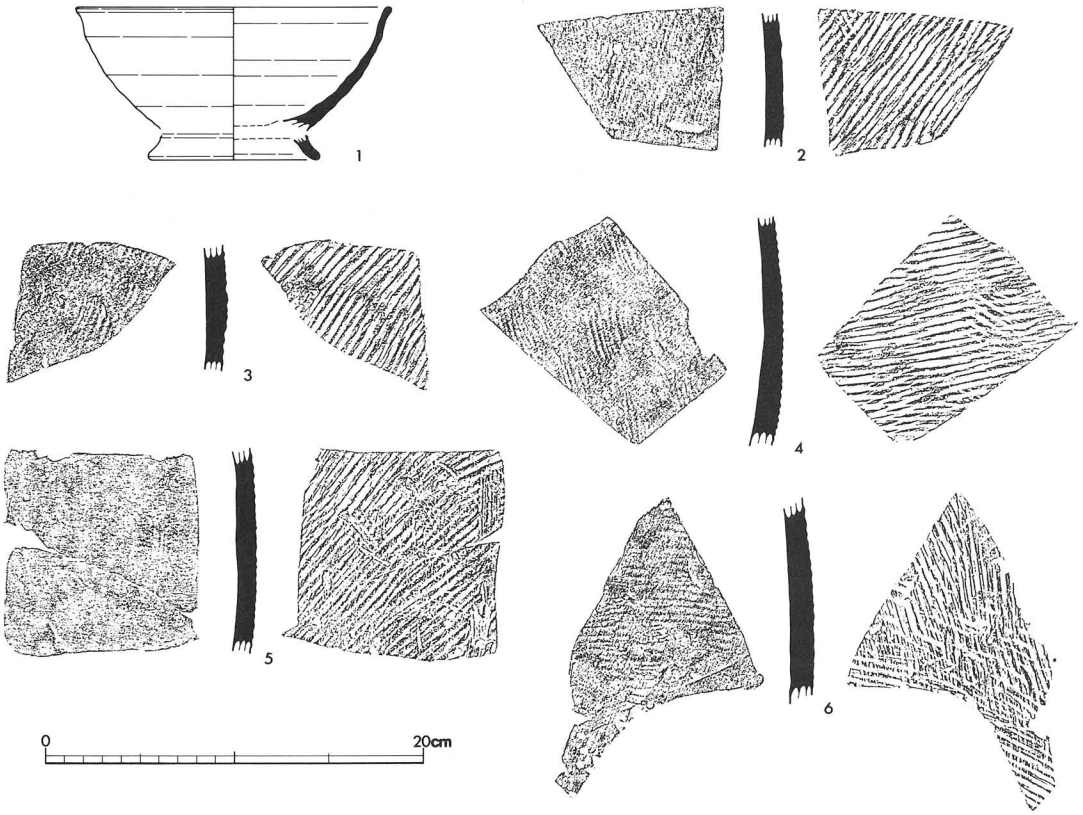


fig. 75　試掘坑１　ＳＸ04出土遺物実測図

3．まとめ

今回調査を行った地域については、掘立柱建物址などの直接集落址と断定できる遺構は確認できなかったが、ＳＴ01をはじめとして集落址に近接して営まれたと推定できる遺構を検出した。

特に、ＳＴ01は神出地域で初めて確認した墓址として、その出土遺物等の内容からしても意義深いものと言える。時期的には鎌倉時代初期ごろと考えられる。また、ＳＴ０１と切り合って検出したＳＸ03は試掘坑１で検出したＳＸ04と同種の遺構と考えられる。同形態を採る遺構は現在までに伊川・櫨谷川流域で類例を見るが、出土遺物もなく、直接的に時期決定ができない状況であった。今回の神出における２基の発見によって分布地域の拡大とともに明らかに平安時代末期～鎌倉時代前半のものとして位置づけることができた点も指摘できる。

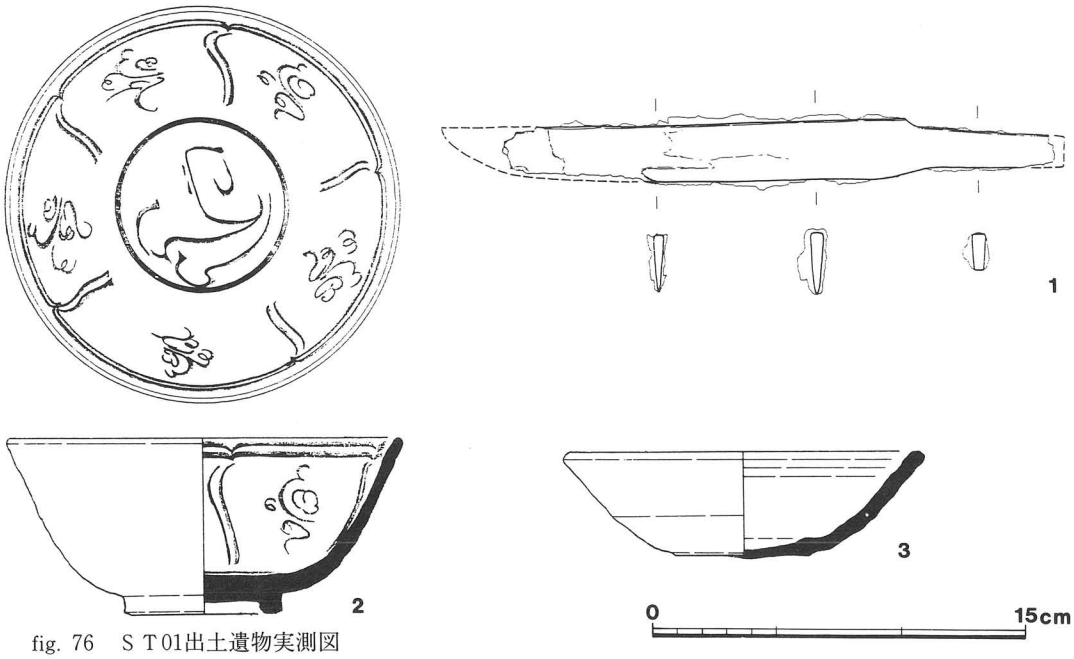


fig. 76　ＳＴ01出土遺物実測図

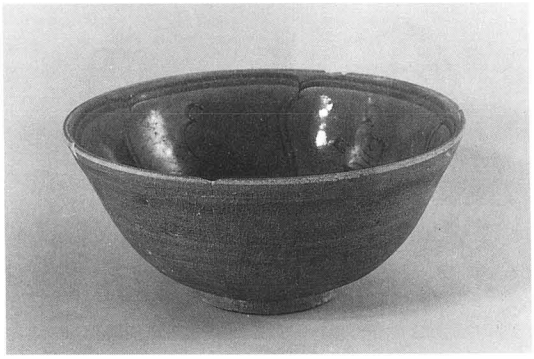


fig. 77　青磁碗

fig. 78　須恵器埦

5．如意寺塔頭址（にょいじたつちゅうし）

1．はじめに　神戸市西区櫨谷町栃木、長谷、谷口地区において圃場整備事業が計画された。今年度はそのうち谷口地区において試掘調査を実施した。

当地区は、重要文化財の建造物を持つ如意寺が存在する谷を含む地域である。この谷においては、昭和57年度に如意寺の防火貯水槽設置工事に伴って発掘調査が行われ、瓦窯・基壇等が発見されている。また、今年度に実施した、谷口川の河川改修工事に伴う発掘調査によって、鎌倉時代～室町時代の遺物を多量に含む土坑等が見つかっている。また、同寺の所有する古文書・絵図面等によっても塔頭の存在が確認される。これらのことから中世～近世にかけての塔頭に関わるの建物跡の存在が予想された。

2．調査方法　主として、排水路部分と切り土部分に２ｍ×２ｍのテストピット（以下Ｔ．Ｐと省略）を人力によって入れた。ただし、遺構の性格の不明確な地点に関してはテストピットを一部拡張した。

3．調査の概要　当地区は如意寺の存在する東西1,300ｍ，幅40～100ｍの谷で、寺伝等ではかつてこの谷中に塔頭が24坊存在したとされている。如意寺に残る元禄５年（1692年）に画かれた絵図面によると現在の畦畔と各塔頭の区画とが

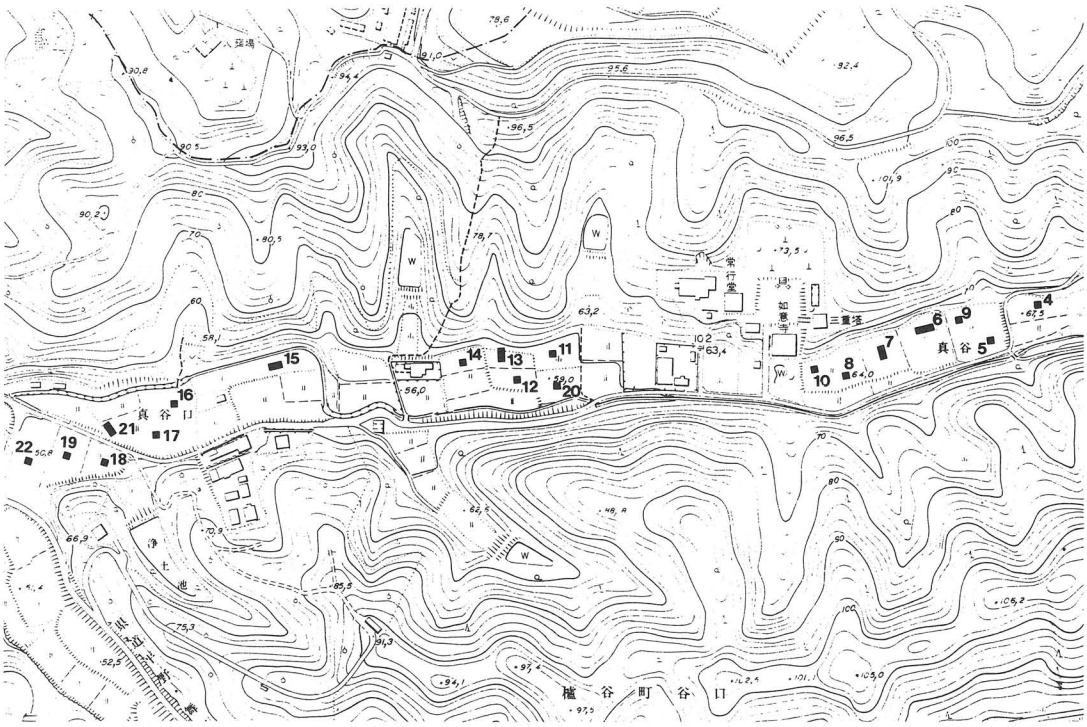


fig. 79　テストピット位置図　1：5,000

ほぼ一致しており、「宝幡坊」「実相坊」等名前の伝わっている塔頭の位置を確認することができる。

T.P1～3　この谷の最奥であるT.P1～3については、耕土下において、旧耕土層が見られる所もあるがほぼ砂層ないしは砂礫層で遺構は確認されず、遺物もほとんどなかった。

谷がやや広がり、絵図面に「実相坊」と書かれた地点（T.P4）から「門」が画かれている北側の「妙光院」と書かれている地点（T.P21）までは、ほぼ全ての地点からピット・土坑・溝等の遺構が検出され、遺物も多数出土した。

T.P4　T.P4では直径25cmで根固めの石をつめたピットと、柱を抜いた後に石や瓦をつめた直径45cm～50cmの楕円形のピットが検出された。

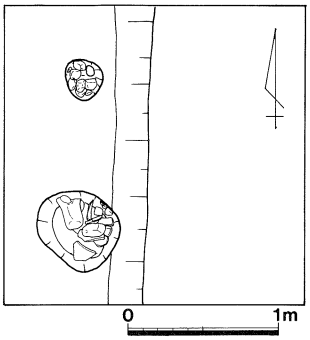


fig. 80　T.P4平面図

T.P6　T.P6からは、耕土上面下約45cmの淡茶色砂質土層面において多数のピットと浅い土坑状の凹みが検出された。ピットからは中世の土師器皿や須恵器鉢、銅銭（銭種不明）が出土している。

T.P7　T.P7では、溝1条と土坑2基が検出されている。溝は幅110cm～170cm・深さ30cmで、埋土の上層から12世紀末の須恵器の埦・小皿、土師器の小皿、白磁碗等が出土している。

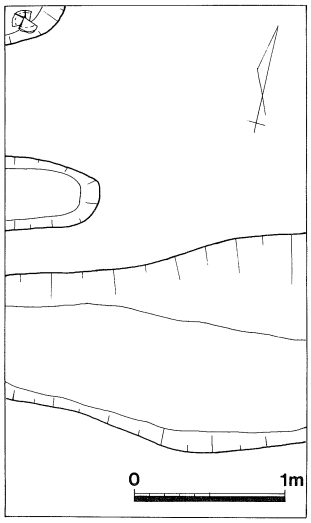


fig. 81　T.P7平面図

T.P8　T.P8では、耕土直下、床土層から多量の瓦が出土しその直下で厚さ15cmの焼土・炭の混じった層が検出された。焼土層は防火水槽設置に伴う発掘調査時と阿弥陀堂解体修理時にも検出されており、『播陽明石之保比金山如意寺旧記』にも記されている天文8年（1539年）大火時の焼土の可能性がある。

T.P13　T.P13では耕土直下から土坑2基・ピット3個・溝1条が検出された。このうち土坑SK01は、南北0.7m、東西1.0m以上の土坑で、西半は直径約70cmで掘り窪められている。土坑の埋土内には須恵器片と共に炭・焼土が詰まっている。このことからこのS.K01は竈状のものであると考えられる。

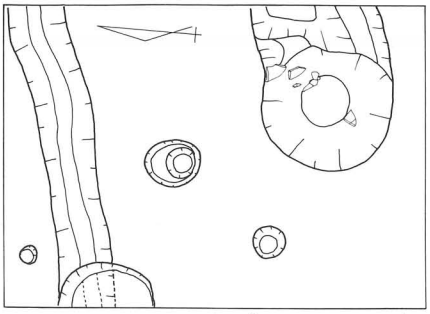


fig. 82　T．P13平面図 0　1m

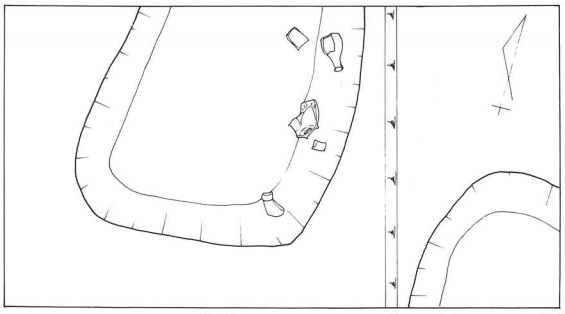


fig. 83　T．P15平面図 0　1m

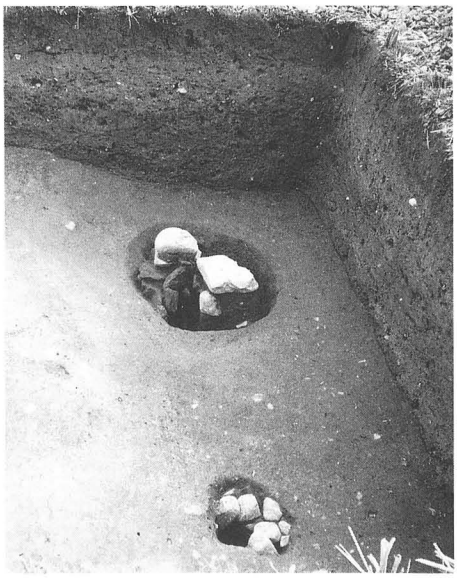


fig. 84　T．P4(北から)

fig. 85　T．P13カマド状遺構

T．P15　T．P15では現地表面下35cmで炭・焼土の混じった第1遺構面が確認された。その下約10cmで第2遺構面が確認され、この面では土坑状の落ち込みが検出された（SX01)。SX01は幅1.5m、長さ1.5m以上、深さ約20cmの長方形で、埋土中に厚さ約2cmの炭層を挟んでいる。遺物は埋土上層から口径21.8cmの青磁の鉢と陶器の瓶子、火鉢と思われる瓦質土器等が出土している。遺構の性格は、全掘していないため、明らかでない。

T．P21　T．P21においては絵図面に見られる「門」跡の検出につとめた。耕土直下において幅40cmのL字型に曲がった溝が検出されたが、「門」に伴うものかどうかは明らかにできなかった。

4．まとめ

以上T．P4～16，21までの谷中には絵図面にみられるように、中世12世紀から近世にかけての塔頭址が存在するものと考えられる。

如意寺は伊川谷の太山寺と並んで旧明石郡内に存在する古い天台宗の寺院として有名である。その塔頭址の遺構がかなり良好に残っていることは、

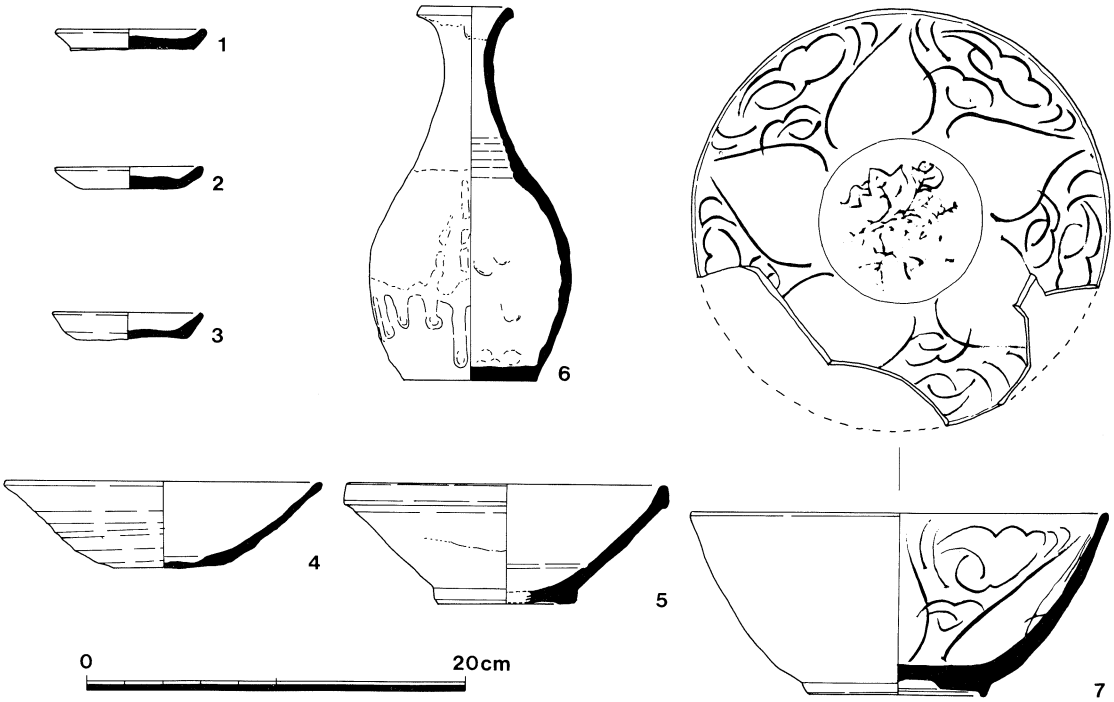


fig. 86　如意寺塔頭址出土遺物

中世の地方寺院の実態を知るうえで貴重な資料である。

今回の調査は限られた範囲での試掘調査のため遺跡の詳細な性格は不明であるが、調査の結果判った点は、(1)現在の畦畔は、如意寺に残っている絵図面の通りの塔頭区画の跡であると思われる。(2)塔頭の遺構は谷がやや広くなったT．P 4から絵図面に門が画かれているT．P21付近まであった。(3)今回の調査で見つかった遺構の時期は12世紀末～13世紀初頭、14世紀後半～15世紀初頭、17世紀～19世紀の三時期が確認されている。(4)門の外にも一部建物が存在した可能性がある（T．P18)。(5)塔頭の屋根は、全時期を通じてほとんど藁若しくは茅葺で、瓦は近世において一部にのみ使われていたと考えられる。

中・近世においては政治・経済・社会・民衆生活において寺院の占める割合が高く、中・近世を考える上で、寺院を抜きにして考えることはできない。最近、太山寺の塔頭址が発掘され、貴重な資料が見つかっているが、中・近世における地方寺院の経営形態、僧侶の生活実態等を知る上で、この遺跡も重要な遺跡であることが、今回の調査で判明した。

6．長坂（ながさか）遺跡

1．はじめに

長坂遺跡は、伊川の中流東岸に位置する。付近は、伊川の支流長坂川によって形成された小扇状地で、遺跡はこの扇状地上、標高39ｍから33ｍ付近に位置する。

当地区では昭和59年度より圃場整備事業が開始されたため、これに伴う埋蔵文化財発掘調査を実施している。この結果、地表下40～100㎝の深さから、古墳時代中期と平安時代後期の遺構、遺物包含層が発見されている。

今年度工事予定は昨年度の排水路工事部分のトレンチ調査により、古墳時代中期の竪穴住居址や平安時代の柱穴、溝等が検出された部分に隣接する。また、昨年度および今年度に実施した試掘調査においても遺物包含層の広がりが確認されたため、遺跡の保存のために工事担当機関と調整を重ねた結果、大部分では土盛等を行うことによって保存を行うことになった。

しかし、北側の排水路隣接地の一部では、排水路と道路面との関係などにより工事計画の変更が困難であることから、この部分約800㎡の調査を実施することにした。また、排水路および送水用パイプライン敷設部分についても保存が困難である範囲について調査を行った。

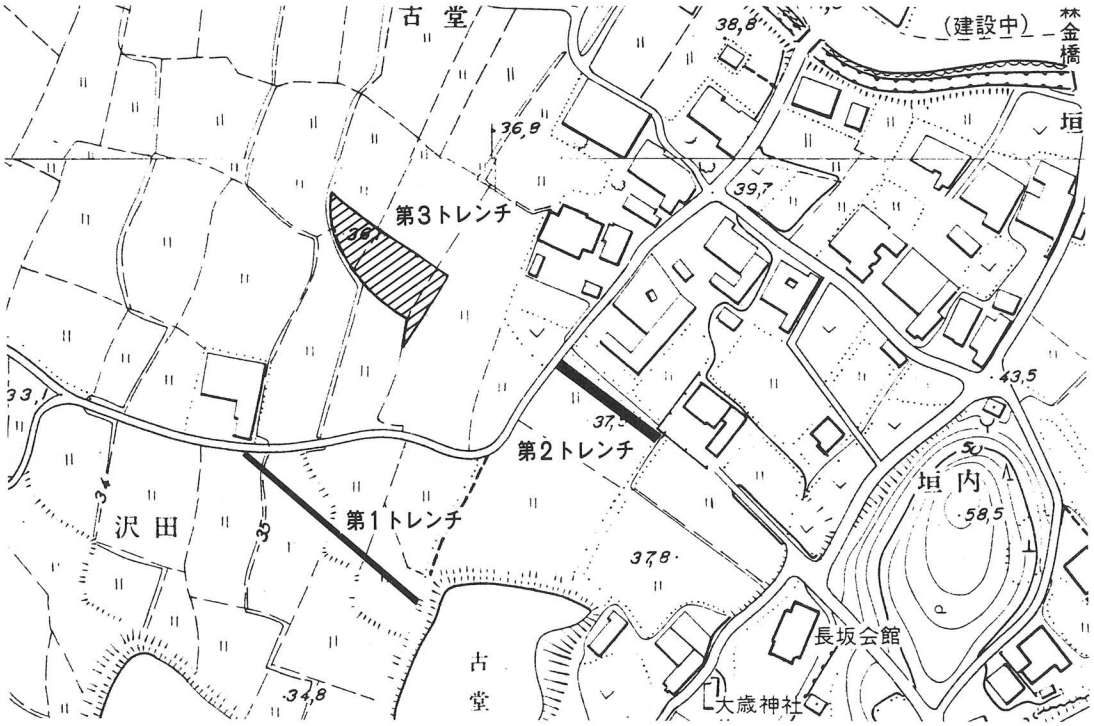


fig. 87　調査地位置図　1：2,500

2．調査の概要

調査は第１トレンチ（160㎡）、第２トレンチ（126㎡）、第３トレンチ（800㎡）を設けて実施した。

第１トレンチ

送水用パイプライン部分のトレンチである。幅２ｍ、長さ80ｍの部分の調査を実施したが、平安時代後期と古墳時代中期の遺物を検出したのみで遺構は発見されなかった。

第２トレンチ

排水路工事部分で幅3.5ｍ、長さ36ｍのトレンチである。遺構面は地表下約60㎝、標高37.5ｍ内外の暗茶灰色砂層を地山として、遺構が検出された。遺構面は、南から北へ広がる緩扇状地上に立地する。

検出された遺構は古墳時代と平安時代後期のもので、柱穴、土坑、溝等が発見された。調査面積が限定されており、それぞれの規模、性格等について不明であるが、当トレンチ周辺一帯に集落址が形成されていたものと考えられる。

fig. 88　２トレンチ全景(東から)

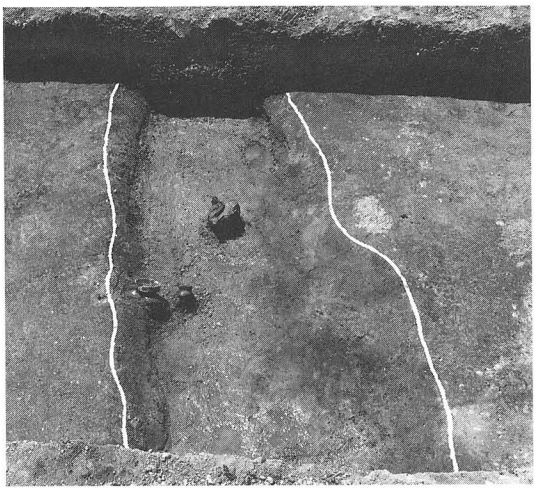


fig. 89　２トレンチ古墳時代遺物出土状況

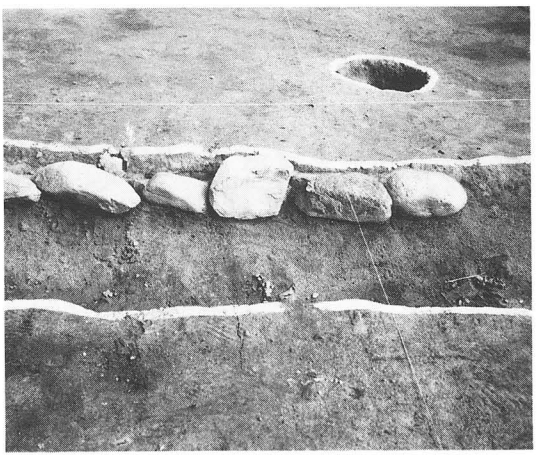


fig. 90　２トレンチ鎌倉時代石組溝

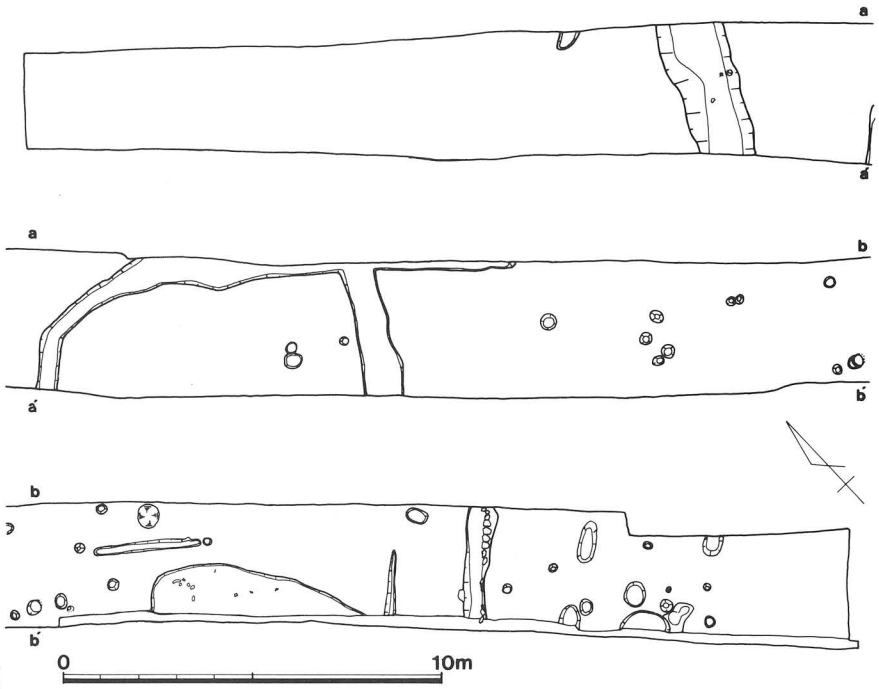


fig. 91
第２トレンチ平面図

第３トレンチ　東西約30ｍ、南北50ｍのトレンチで北側に接する排水路部分では昨年度調査において古墳時代中期の竪穴住居址２棟、平安時代後期の溝・柱穴・土坑等が発見されている。今回の調査では水路により切られた竪穴住居址の他、土坑、溝などが検出された。

ＳＢ01　古墳時代中期の一辺約4.5ｍの方形竪穴住居址である。昨年度に北半部が発見されており、今回の調査で全体の形態が判明した。深さ30㎝程度で遺存状況は悪いが、柱穴は４ヶ所検出され、周壁溝はない。床面より約10㎝ほど離れて、小型丸底壺が昨年３個体、今年３個体、計６個体と高坏が出土している。

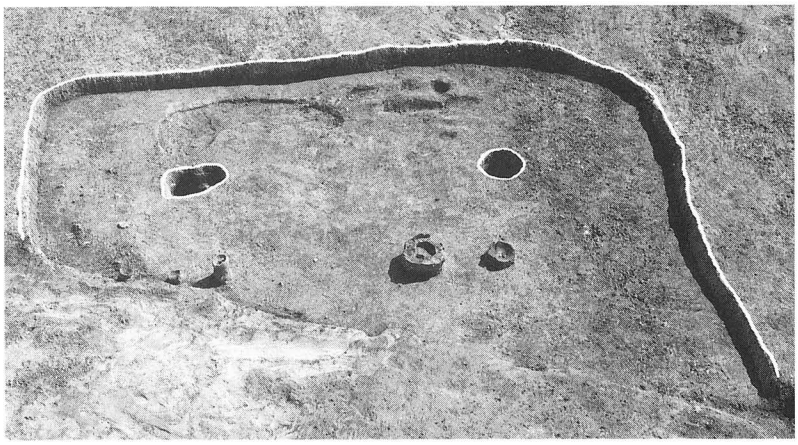


fig. 92　ＳＢ01

fig. 93　第3トレンチ平面図

ＳＢ02　東西２間（3.6ｍ）×南北４間（6.4ｍ）の総柱建物で柱穴は遺存が悪く痕跡をとどめる程度である。柱穴の直径は25㎝内外のもので柱径は不明である。時期は、柱穴等からの遺物の出土がなく不明である。

ＳＫ01　長さ0.4ｍ×幅1.6ｍの不整楕円形の土坑である。西側の部分で円形に少し落ち込み、この部分から、壺形土器、甕形土器が各１個体分が出土した。時期は古墳時代前期の布留式の古相のものである。

ＳＤ02　調査区の西半部に検出した「コ」の字型の溝である。幅40㎝内外、深さ20㎝を計る。溝に囲まれた内側からは、他の溝や柱穴等が数多く発見されており、ここに２回以上の建て替えされた掘立柱建物址があるものと思われるが、規模の復元は切り合いが多く不明である。時期については、溝・柱穴で出土した遺物から11世紀末から12世紀前半のものと考えられる。

ＳＤ11　幅2.6ｍ、深さ0.7ｍの断面Ｖ字形の溝である。時期は11世紀代のものであろう。

その他の遺構　これらの遺構の他、溝、土坑等が発見されているが、多くの遺構は調査区の南半に集中する傾向がある。

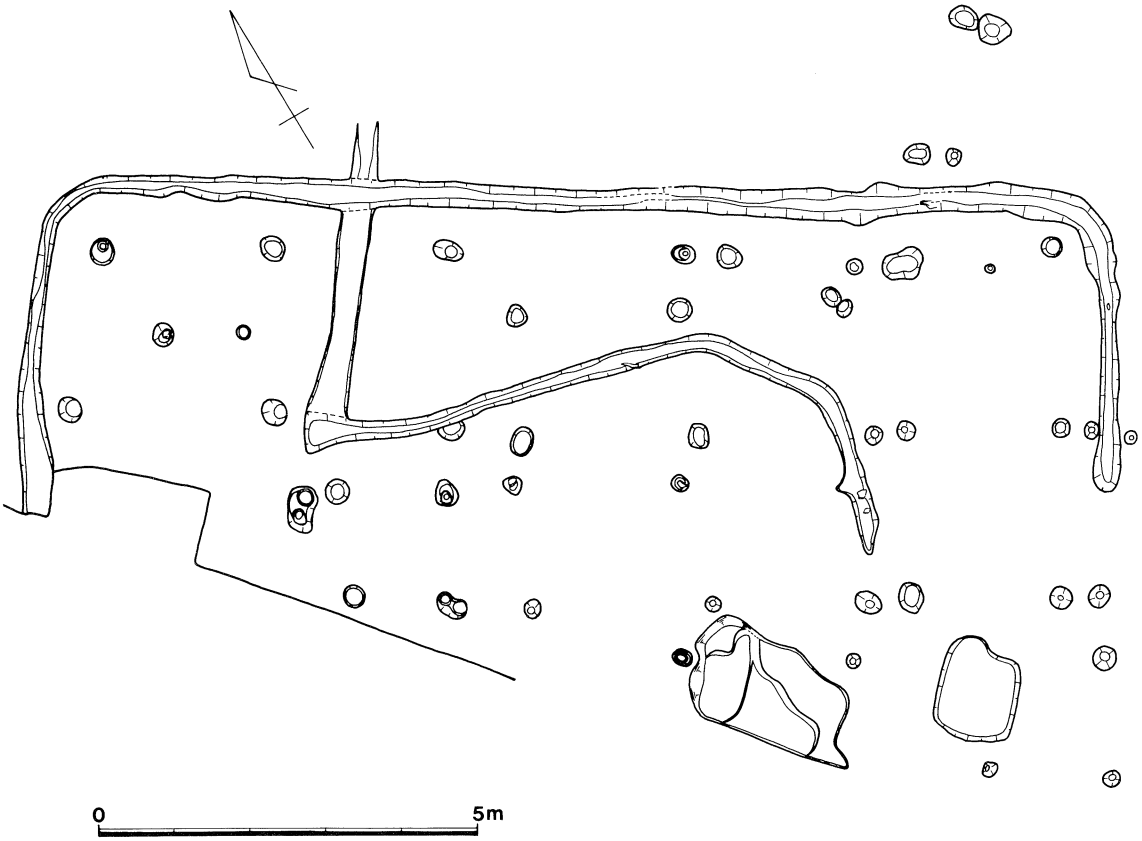


fig. 94　第３トレンチ調査地中央部平面図

fig. 95
第３トレンチ中央部

fig. 96　ＳＫ01

３．まとめ

今年度の調査は、遺跡全体の保存を計るため工事計画の変更などによって、調査範囲を最小限にとどめることにした。このため、遺跡の性格を十分に追求するには至っていないが、古墳時代の集落と平安時代の集落の範囲については、ほぼ明らかになってきている。当遺跡の遺構面は扇状地の砂質堆積物を地山としているため。その後の流失により遺存状態は悪く、包含層もあまり認められない。また、試掘調査では遺構の分布が長坂川を隔てた北側にも延びていることや、時期的にも縄文時代に遡ることなどの新しい発見もあった。来年度以降の調査も予定されており、さらにその詳細については明確になるものと思われる。